令和５年度
福島県道徳教育総合支援事業

令和５年度

道徳の礎（いしずえ）

【理論編】道徳科の授業の充実に向けて
【実践編】令和５年度道徳教育推進校報告
【Ｑ＆Ａ】道徳科の教育課程Ｑ＆Ａ

福島県教育委員会

道徳の礎（いしずえ）の使い方

「道徳の礎（いしずえ）」は、「ふくしまの道徳教育」の実現に向けて必要な理論や実践を集録し、ふくしまの先生方の悩みに寄り添う一冊です。

ふくしまの道徳教育の実現に向けて、

- ○ 【理論編】道徳科の授業の充実に向けて
- ○ 【実践編】令和５年度道徳教育推進校実践報告
- ○ 【Ｑ＆Ａ】教育課程Ｑ＆Ａ

以上の３編構成で作成しています。さらに、先生方の悩みに合わせて、すぐに頁を開くことができるよう、色別の５つのインデックスを付けています。御自身の問題意識に合わせて御活用ください。

【インデックス１】 道徳科の授業の充実に向けて

道徳教育や道徳科の理論が分からない…

⇒ 「道徳のとびら」や「特別の教科　道徳」の実施に向けた地区別研修会で発信してきた内容をまとめてあります。「道徳科の指導と評価の一体化」等について詳しく解説しています。

1頁～22頁

【インデックス２】 道徳教育推進校の実施計画書等

道徳教育の学校の基本方針が大切とは言うけれど…

⇒ 令和５年度道徳教育推進校の道徳教育推進の視点、道徳教育全体計画及び別葉等を掲載しています。学校の道徳教育の方針を明確にしたい時に御活用ください。

23頁～62頁

【インデックス３】 多様な指導方法に基づいた授業実践

多様な指導方法は大切だけれど、どのように授業を構想すればよいの…

⇒ 令和５年度道徳教育推進校の実践と考察を掲載しています。授業実践の際の参考にしてください。

63頁～83頁

【インデックス４】 ふくしま道徳教育資料集等を活用した授業実践

ふくしま道徳教育資料集をより効果的に活用したい…

⇒ 令和５年度道徳教育推進校が活用したふくしま道徳教育資料集の実践と考察を掲載しています。「ふくしまならでは」の道徳教育の実現に向けて参考になります。

85頁～105頁

【インデックス５】 新教育課程Ｑ＆Ａ（道徳科編）

道徳科の教育課程で分からないことがあります…

⇒ 既に学校に周知している新教育課程Ｑ＆Ａから道徳科の部分を抜粋しました。教育課程の編成に向けて悩んだときに開いて確認してみてください。

107頁～113頁

令和５年度道徳教育推進校及び掲載頁一覧

地　区	学　校　名	内　　容	掲載頁
県　北	福島市立飯野小学校	実施計画・全体計画・別葉等	23～28
		質の高い多様な授業実践	63～65
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	85～87
県　中	玉川村立須釜小学校	実施計画・全体計画・別葉等	29～34
		質の高い多様な授業実践	66～68
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	88～90
県　南	福島県立光南高等学校	実施計画・全体計画	35～38
		質の高い多様な授業実践	69～71
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	91～93
会　津	喜多方市立第三小学校	実施計画・全体計画・別葉等	39～44
		質の高い多様な授業実践	72～74
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	94～96
南会津	南会津町立南会津中学校	実施計画・全体計画・別葉等	45～50
		質の高い多様な授業実践	75～77
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	97～99
相　双	南相馬市立原町第一中学校	実施計画・全体計画・別葉等	51～56
		質の高い多様な授業実践	78～80
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	100～102
いわき	いわき市立赤井中学校	実施計画・全体計画・別葉等	57～62
		質の高い多様な授業実践	81～83
		ふくしま道徳教育資料集を活用した実践	103～105

伊南川フィールドワーク

南会津中学校では、毎年８月に、１年生が身近な自然環境の一つである「伊南川」流域でフィールドワークの学習に取り組んでいます。浜野地区活性化委員会の方々の指導のもと、ラフティング、リバースイミング、水中観察、魚とりなどの活動に、歓声を上げながら取り組む生徒達の姿がとても印象的でした。この体験活動を通して、生徒達は、川遊びの楽しさはもちろん、地元である南会津町の自然や地域のよさを改めて感じることができました。この南会津中学校ならではの体験活動は、生徒の自然や郷土に対する思いの高まりにつながっています。

【理論編】

道徳科の授業の充実に向けて

【第１部　理論編】道徳科の授業の充実に向けて

「道徳教育の目標」「道徳科の目標」について詳しく教えてください。

道徳教育の目標

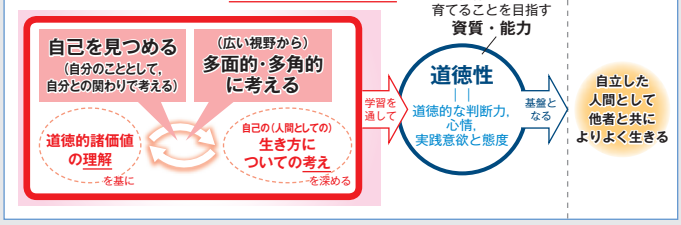
（小（中）学校学習指導要領第１章総則 第１ 教育課程編成の基本方針 ２ 抜粋）
学校における道徳教育は，**特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として**学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳科はもとより，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，児童の発達の段階を考慮して，適切な指導を行わなければならない。
道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための**基盤となる道徳性**を養うことを目標とする。

- ○ 学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」の記述‥「総則」編に記載
- ○ 「特別の教科　道徳」の記述‥「特別の教科　道徳」編に記載
- ○ 「道徳教育」の「要」として「道徳科」の位置付けは従来と変わらない
- ○ 育むものは，内面的資質としての道徳性に統一

道徳科の目標と特質

（小（中）学校学習指導要領第３章「特別の教科　道徳」の「第１　目標」）
第１章総則の第１の２に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，**道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して，**道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。

道徳性を養うために行う道徳科における学習



【本時のねらいは…】
○○○を通して，（道徳的な判断力or心情or実践意欲or態度）を育てる。

学習指導要領において、学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」については「総則」の章に、授業については「特別の教科　道徳」の章に、別の章立てとなって記載されています。両方の目標や内容、関係をとらえることが大切です。

特に「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」「特別の教科　道徳」いずれの目標においても、育むものは「道徳性」に統一され、以前の学習指導要領にあった「道徳的実践力」という記述がなくなり、育むものが異なるというねじれが解消されました。授業のねらいも、どんな道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を育みたいのか、しっかりと精査することが大切です。

朱字で記述された「○○学習を通して」の部分が特に大切です。
具体的には、道徳科の特質として、道徳的諸価値の理解を基にしながら、
○　自己を見つめること
○　物事を多面的・多角的に考えること
を押さえることがとりわけ大切です。
この特質に根ざして授業を構想・展開し、一人一人の子どもの学習状況や道徳性の成長の様子を見取って、評価することになるのです。

各学年で取り上げる内容項目について、詳しく教えてください。

内容項目の追加	「特別の教科　道徳」の内容の学年段階・学校段階の一覧表参照。 【小・低学年】19項目 「個性の伸長」「公正，公平，社会正義」「国際理解，国際親善」追加 【小・中学年】20項目 「相互理解，寛容」「公正，公平，社会正義」追加 【小・高学年】22項目 「よりよく生きる喜び」追加 【中学校】22項目
体系的なものへの改善 手掛かりとなる言葉の付記	記述の仕方について，各学年毎の記述を改め，内容項目毎の記載に変更して，系統性と発展性を意識して指導できるように配慮した。また，「公正，公平，社会正義」などの手掛かりとなる言葉を付記し，指導のしやすさに配慮した。

小学校低学年は19項目（３項目追加）、中学年は20項目（２項目追加）、高学年・中学校は22項目（高学年は1項目追加）です。学習指導要領では「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げること」とされていますので、年間指導計画作成の際には、全ての内容項目について漏れのないよう留意してください。
なお、それぞれの内容項目に「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉（キーワード）を付記することで、指導のしやすさに配慮しています。

道徳教育全体計画を作成する際、配慮する点を教えてください。

小（中）学校学習指導要領第１章総則
第６　道徳教育に関する配慮事項　１　抜粋

小・中共通

□　道徳教育の**全体計画の作成**
⇒　**重点目標の設定**
⇒　各教科等における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法の明示

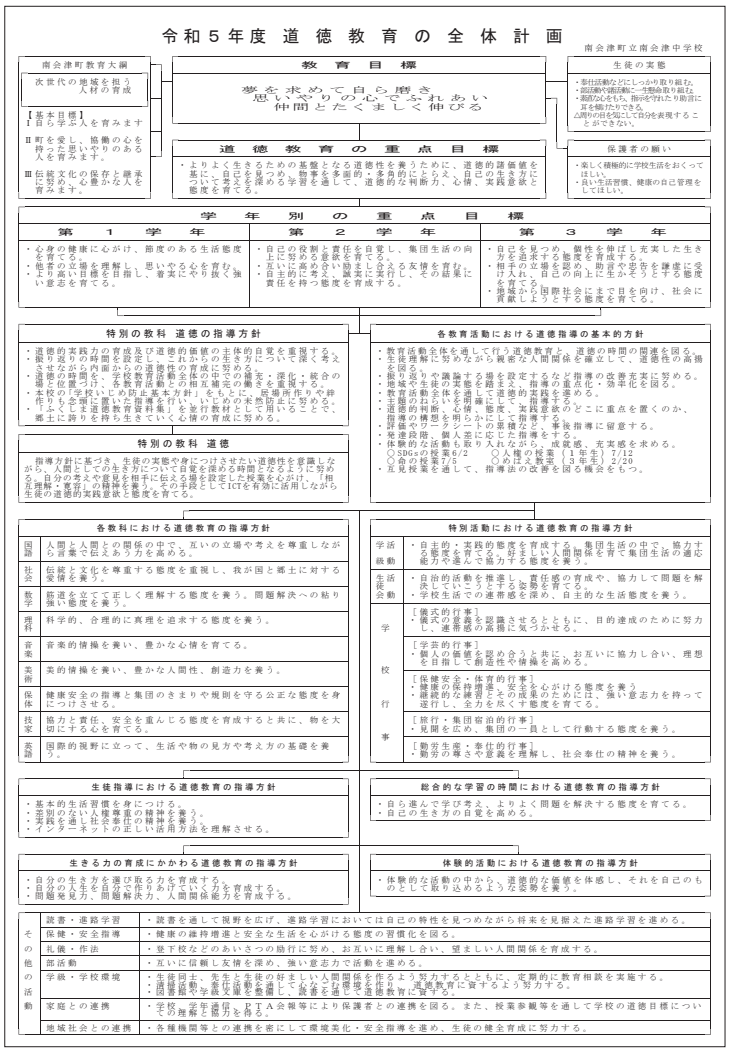
活用しやすい工夫（小（中）学習指導要領解説・総則編131頁）

例えば，各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの，道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの，道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを**別葉にして加えるなどして，年間を通して具体的に活用しやすいものとすること**が考えられる。

□　**校長の方針の下に，道徳教育推進教師を中心**に，**全教師が協力**して道徳教育を展開すること。

道徳教育推進教師の役割（小（中）学習指導要領解説・総則編128頁）

○　道徳教育の指導計画の作成に関すること
○　全教育活動における道徳教育の推進，充実に関すること
○　道徳科の充実と指導体制に関すること
○　道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
○　道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
○　道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
○　道徳教育の研修の充実に関すること
○　道徳教育における評価に関すること　など



令和５年度　道徳教育の全体計画

南会津町教育大綱
次世代の地域を担う人材の育成
【基本目標】
Ⅰ 自ら学ぶ人を育みます
Ⅱ 町を愛し、協働の心を持った思いやりのある人を育てます。
Ⅲ 伝統文化の保存と継承に努め、心豊かな人を育みます。

教育目標
夢を求めて自ら磨き
思いやりの心でふれあい
仲間とたくましく伸びる

南会津町立南会津中学校
生徒の実態
・挨拶活動などにしっかり取り組む。
・部活動や地活動に一生懸命取り組む。
・遅刻などをしち、指示を守れたり助言に耳を傾けたりできる。
凸凹の自を知って自分を表現することができない。

保護者の願い
・楽しく積極的に学校生活をおくってほしい。
・良い生活習慣、健康の自己管理をしてほしい。

道徳教育の重点目標
・よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的にとらえ、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

学年別の重点目標

第１学年	第２学年	第３学年
・心身の健康に心がけ、節度のある生活態度を育てる。 ・他者の立場を理解し、思いやる心を育む。 ・より高い目標を目指し、着実にやり抜く強い意志を育てる。	・自己の役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める意欲を育てる。 ・互いに高め合い、協調し、支え合える友情を育む。 ・自主的に責任を持つ態度を育成する。	・自己を見つめ、個性を伸ばし充実した生き方を追求する態度を育成する。 ・相手の立場を認め、助け合い、思いやりをもって接する態度を育てる。 ・地域や国際社会にまで目を向け、社会に貢献しようとする態度を育てる。

特別の教科　道徳の指導方針
・道徳的実践力の育成及び道徳的価値の自覚を深める。
・生徒一人一人の時間を設定し、これからの生き方について深く考えさせながら内面からの道徳性の育成に努める。
・道徳の時間だけでなく、各教育活動全体の中での補充・深化・統合の場と位置付け、各教育活動との相互補完の働きを重視する。
・本校の「学校いじめ防止基本方針」をもとに、居場所作りや絆作りを念頭に置いた指導を行い、いじめの未然防止に努める。
・「ふるさと道徳教育資料集」を副教材として用いることで、郷土に誇りを持ち生きていく心情の育成に努める。

特別の教科　道徳
指導方針に基づき、生徒の実態や身につけさせたい道徳性を意識しながら、人間としての生き方について自覚を深める時間となるように努めるとともに、自分の考えや意見を相手に伝える場を設定した授業を心がけ、「相互理解・寛容」の精神を養う。その手段としてICTを有効に活用しながら生徒の道徳的実践意欲と態度を育てる。

各教育活動における道徳指導の基本的方針
・教育活動全体を通して行う道徳教育と、道徳の時間の関連を図る。
・生徒理解に努めながら親密な人間関係を確立して、道徳性の高揚を図る。
・振り返りや議論する場を設定するなど指導の改善充実に努める。
・地域や生徒の実態を踏まえた指導の重点化・効率化を図る。
・教育活動全体を通じて道徳的実践を深める。
・主題のねらいを明確にして、指導する。
・道徳的判断、心情、態度、実践意欲のどこに重点を置くのか、指導の情想をあらかじめ明らかにして指導する。
・評価やアンケート等積極的に活用し、事後指導に留意する。
・発達段階、個人差に応じた指導をする。
・体験的な活動も取り入れながら、成就感、充実感を求める。
○SDGsの授業6/2　○人権の授業（１年生）7/12
○命の授業7/5　○めぼえ教室（３年生）2/20
・五見授業を通して、指導法の改善を図る機会をもつ。

各教科における道徳教育の指導方針

国語	人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉による伝え合いを高める。
社会	伝統と文化を尊重する態度を重視し、我が国と郷土に対する愛情を養う。
数学	筋道を立てて正しく理解する態度を養う。問題解決への粘り強い態度を養う。
理科	科学的、合理的に真理を追求する態度を養う。
音楽	音楽的情操を養い、豊かな心情を育てる。
美術	美的情操を養い、豊かな人間性、創造力を養う。
保体	健康安全の指導と集団のきまりや規則を守る公正な態度を身につけさせる。
技家	協力と責任、安全を重んじる態度を育成すると共に、物を大切にする心を育てる。
英語	国際的視野に立って、生活や物の見方や考え方の基礎を養う。

特別活動における道徳教育の指導方針

学活	・自主的・実践的態度を育成する。集団生活の中で、協力する態度を育てる。 ・望ましい人間関係を育て集団生活の適応能力や進んで協力する態度を養う。
生活	・自治的活動を推進し、責任感の育成や、協力して問題を解決していこうとする態度を育てる。
会動	・学校生活での連帯感を深め、自主的な生活態度を養う。
学校行事	［儀式的行事］ ・儀式の意義を認識させるとともに、目的達成のために努力し、連帯感の高揚に努力させる。 ［学芸的行事］ ・個人の価値を認め合うと共に、お互いに協力し合い、理想を目指して創造性や情操を高める。 ［保健安全・体育的行事］ ・健康の保持増進と安全を心がける態度を養う。 ・継続的な練習と成果のためには、強い意志力を持って遂行し、全力を尽くす態度を育てる。 ［旅行・集団宿泊的行事］ ・見聞を広め、集団の一員として行動する態度を養う。 ［勤労生産・奉仕的行事］ ・勤労の尊さや意義を理解し、社会奉仕の精神を養う。

生徒指導における道徳教育の指導方針
・基本的生活習慣を身につける。
・差別のない人権尊重の精神を養う。
・公共の心と社会参画の精神を養う。
・インターネットの正しい活用力法を理解させる。

総合的な学習の時間における道徳教育の指導方針
・自ら進んで学び考え、よりよく問題を解決する態度を育てる。
・自己の生き方の自覚を高める。

生きる力の育成にかかわる道徳教育の指導方針
・自分の生き方を選び取る力を育成する。
・自分の人生を自分で作りあげていく力を育成する。
・問題発見力、問題解決力、人間関係能力を育成する。

体験的活動における道徳教育の指導方針
・体験的な活動の中から、道徳的価値を体感し、それを自己のものとして取り込むよう努力を養う。

その他の活動	読書・道路学習	・読書を通して視野を広げ、道路学習においては自己の特性を見つめながら将来を見据えた道路学習を進める。
	保健・安全指導	・健康の維持増進と安全な生活を心がける態度の習慣化を図る。
	礼儀・作法	・登下校などのあいさつの励行に努め、お互いに理解し合い、望ましい人間関係を育成する。
	部活動	・互いに信頼し友情を深め、強い意志力で活動を進める。
	学級・学校環境	・生徒同士、先生と生徒の好ましい人間関係を作るよう努力するとともに、定期的に教育相談を実施する。 ・清掃活動、美化活動を通じて、心なごむ環境を作り、道徳教育に資するよう努力する。 ・図書館や学級文庫を整備し、読書を通じて道徳教育に資する。
	家庭との連携	・学校・家庭・地域が一体となった学校運営を図る。また、授業参観等を通して学校の道徳目標について理解を深めるよう努める。 ・学級・学年・全校の学級通信により保護者との連携を図る。
	地域社会との連携	・各種機関等との連携を密にして環境美化・安全指導を進め、生徒の健全育成に努力する。

道徳教育全体計画例「南会津町立南会津中学校」（48頁に記載）

道徳教育全体計画の作成を含め、学校の教育活動全体で行う道徳教育については、新学習指導要領「総則」に記述されています。全体計画は、校長のリーダーシップの基、道徳教育推進教師が要となり、全教職員で作成することが大切です。なお、全体計画等の具備すべき内容については、総則解説編に記述されていますが、参考までに列記します。

また、「別葉」についても、作成に係るロードマップを作成し、全教員の願いのこもった内容と形式で計画的・組織的に作成したいものです。

【道徳教育全体計画の内容】

１　基本的把握事項について

□　教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策（本県では、いじめ防止対策推進法の明記を強調）
□　学校や地域社会の実態と課題、教職員や保護者の願い
□　児童生徒の実態と課題

２　具体的計画事項について

□　学校の教育目標、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標
□　道徳科の指導の方針
□　年間指導計画を作成する際の観点や重点目標に関わる内容の工夫、校長や教頭の参加、他の教師との協力的な指導
□　各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育の指導の方針、内容及び時期
□　特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針、内容及び時期
□　学級、学校の人間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針
□　家庭、地域社会、他の学校や関係機関との連携の方法
□　道徳教育の推進体制
□　その他（次年度の計画に生かすための評価の記入欄、研修計画や重点的指導に関する添付資料等）

３　「別葉」について

□　各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの
□　道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
□　道徳教育の推進体制や家庭、地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

道徳教育全体計画の別葉を作成する際、配慮する点を教えてください。

全体計画の別葉の充実と工夫

【別葉作成上で大切なこと】
① 自校の特色や重点を教育活動全体でどのように実践していくか，分かること
② 道徳科の授業以外の指導内容や時期が明確になること
※ 今求められている「カリキュラム・マネジメント」の具現化

- A 時系列で，内容項目と教育活動全体との関連を明らかにした別葉
- B 自校の重点を中心に，内容項目の系統性を明確にした別葉
- C 全ての内容項目と学校の教育活動全体の関連を明らかにした別葉
- D 学校オリジナルで使いやすい別葉

（道徳のかけ橋第４号（平成26年12月15日）より抜粋）

道徳のかけ橋第４号では、「別葉」の特集を組み、左のＡ～Ｄの形式に大別しています。別葉は、今現在求められているカリキュラム・マネジメントを具現化する有効なツールです。より実効性のある別葉こそが、道徳教育の充実への近道です。ぜひ、全教員が共通認識に立ち、作成してください。Ａ～Ｄの４つの形式の利点と課題、工夫したい点を列記します。自校の別葉を見直す参考にしてください。

Aの別葉の利点（○）と課題（▲）、工夫したい点（□）

○ 時系列で整理しているため、一覧の形で年間の見通しがもてる。
▲ 情報が多すぎて使いにくい。重点項目が分からず、共通理解が図りにくい。
□ 自校で重点とする内容項目の部分に色をつけ、分かりやすくする。指導後に、記録や改善策を書き加える。

Bの別葉の利点（○）と課題（▲）、工夫したい点（□）

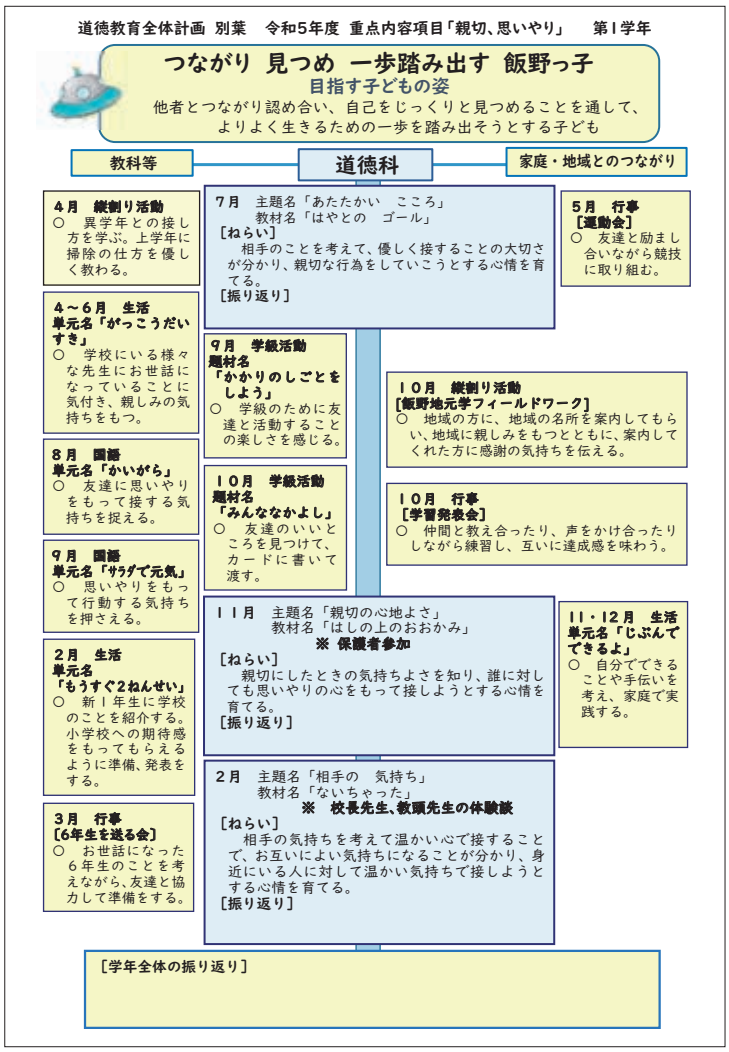
○ 重点内容項目を中心に作成しているため、学校全体で重点を意識して教育活動を進めることができる。
▲ 時系列になっていないため、年間の見通しが分かりにくい。また、他の内容項目について、どのような場面で取り組んでいくのか分からない。
□ 重点項目以外は、実践を通して少しずつ書き込みを加えていく。

Cの別葉の利点（○）と課題（▲）、工夫したい点（□）

○ すべての内容項目の関連が分かる。
▲ 必要な情報が多く盛り込まれているため活用に向けた共通理解が必要である。
□ 道徳教育推進教師を中心に全職員で作成し、一人一人の意見を生かし少しずつ改善していくことで活用に向けた意識を高める。

Dの別葉の利点（○）と課題（▲）、工夫したい点（□）

○ 形式がない別葉だからこそ、自校の先生方が日常的に使いやすいものが最良です。形式にこだわらず、今ある計画を少し工夫・改善しながら、「学校ならでは」の別葉を作成したいものです。



Ｄの別葉例「福島市立飯野小学校より」

「学校ならでは」の別葉（Ｄ）について紹介します。左に掲載した福島市立飯野小学校の事例です。この別葉の特徴は、自校が重点的に取り組む内容項目を基に、授業や学校行事等との関連を明示し、「ねらい」「振り返り」を記入する形式となっているところです。27頁以降には、道徳教育推進校の別葉を掲載しています。多くの推進校が、自校の重点内容項目を校内でしっかりと共有し、道徳教育の軸として教育活動をつないでいます。また、家庭や地域とも共有している学校もあります。

自校の教育課題の解決に向けた取組として参考にしてください。

教科用図書の教材を使用する法的根拠を教えてください。

検定教科書の導入について

法的根拠	
教科書の法的根拠	学校教育法34条（教科用図書・教材） 小学校においては，文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する**教科用図書を使用しなければならない。**（中学校等にも準用）
教科書の定義	教科書の発行に関する臨時措置法２条（定義） この法律において「教科書」とは，小学校，中学校，義務教育学校，高等学校，中等教育学校及びこれらに準ずる学校において，**教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材**として，教授の用に供せられる児童又は生徒用図書であって，文部科学大臣の検定を経たもの又は文部科学省が著作の名義を有するものをいう。

教科書には「主たる教材」としての使用義務があります。今後は、採択された教科書の教材を中心に、年間指導計画を作成することになります。なお、教材の配列は、今まで通り、各学校の特色や行事、各教科等の関連に応じて配列を工夫することが大切です。

教科用図書以外の教材の年間指導計画の位置付けと活用について教えてください。

ふくしま道徳教育資料集等の活用について

（小学校学習指導要領解説第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第４節　道徳科の教材に求められる内容の観点　１教材の開発と活用の工夫）

⑵　多様な教材を活用した創意工夫ある指導

道徳科においても，主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが，**道徳教育の特性に鑑みれば，各地域に根ざした地域教材など，多様な教材を併せて活用することが重要となる。**様々な題材について郷土の特色が生かせる教材は，児童にとって特に身近なものに感じられ，教材に親しみながら，ねらいとする道徳的価値について考えを深めることができるため，**地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい。**

（同　２　道徳科に生かす教材）

⑶　多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には，特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること（略）

なお，教科用図書以外の教材を使用するに当たっては，「学校における補助教材の適正な取扱いについて」（平成27年３月４日　初等中等教育局長通知）など，関係する法規等の趣旨を十分に理解した上で，適切に使用することが重要である。

○　「主たる教材」としての教科用図書教材
　⇒　今後は主題，教材の配列としての「年間指導計画」が極めて重要
○　「副教材」として，ふくしま道徳教育資料集をはじめ，市町村発行の道徳教育資料集等を積極的に位置付けたい。
　⇒　意図的・計画的・組織的な計画と活用を

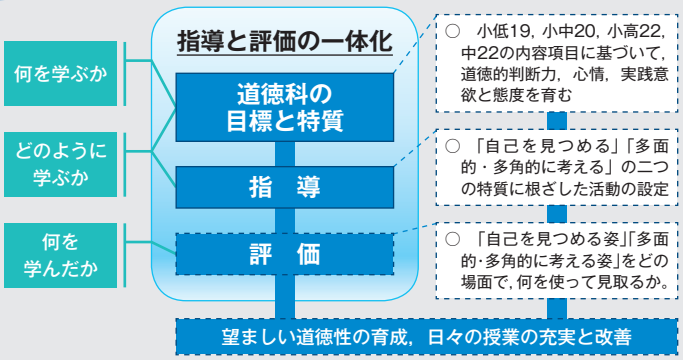
「ふくしま道徳教育資料集」「市町村発行の道徳資料集」等の教材は、地域に根ざした教材として大切にしたいものです。

また、「私たちの道徳（WEB版）」や「小（中）学校　道徳読み物資料集（文科省）」等の活用も考えられます。教科書以外の教材を年間指導計画に位置付ける場合は、教科書教材との対応が分かるようにしておくことが望ましいと考えます。

なお、教科用図書以外の教材の年間指導計画への位置付けと活用にあたっては、学年や学校としての組織的な対応と校長の判断はもちろん、市町村教育委員会の指導助言の基に行うことになります。

授業の質的転換のポイントを教えてください。

質的転換＝「指導と評価の一体化」
～主体的・対話的で深い学びの実現～



指導の充実なくして、評価の充実はあり得ません。もう少し詳しく言うと、児童生徒一人一人のよさや可能性を受け止めて、認め、励ます評価を具現するためには、児童生徒のよさや可能性を引き出し、存分に発揮させる指導の充実が不可欠なのです。

「授業のねらい－指導－評価」が、「道徳的価値の理解を基に自己理解を深めること（自己を見つめること）」「物事を多面的・多角的に考えること」という、道徳科の二つの特質に一貫して基づいていることが大切です。

「特別の教科　道徳」における多様な指導方法について教えてください。

問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導について

問題解決的な学習の工夫	道徳科における問題解決的な学習とは，ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ，これからの生き方に生かしていくことを見通しながら，実現するための問題を見付け，どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり，他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。
道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫	道徳的諸価値を理解したり，自分との関わりで多面的，多角的に考えたりするためには，例えば，実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして，礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり，相手に思いやりのある言葉を掛けたり，手助けをして親切についての考えを深めたりするような道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられる。さらに，読み物教材等を活用した場合には，その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。
特別活動等の多様な実践活動等を生かす工夫	道徳科において実践活動や体験活動を生かす方法は多様に考えられ，各学校で児童の発達の段階等を考慮して年間指導計画に位置付け，実施できるようにすることが大切である。

「小（中）学習学習指導解説「特別の教科道徳編」第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第３節　指導の配慮事項　５　問題解決的な学習など多様な指導を取り入れた指導」より部分抜粋

小（中）学習指導要領では、「児童の発達の段階や特性等に考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」とされました。

「登場人物の心情理解のみの指導」「主題やねらいが不十分な単なる生活経験の話合い」「読み物教材のあらすじを追うだけの授業」「道徳的価値（内容項目）に基づかない体験的な授業」等が散見されますので、道徳の特質に根ざした授業づくりを心がけることが大切です。

10、11頁に「(H28.7.22）特別の教科　道徳の指導方法・評価等について（報告）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」で示された「質の高い多様な指導方法のイメージ」を掲載します。また、過去に「道徳のかけ橋」で紹介した優れた授業実践（小・中・特別支援学級別の事例）を13～14頁に掲載しますので指導の参考としてください。

「特別の教科　道徳」の評価についての基本的な考え方を教えてください。

○　改訂後の学習指導要領（特別の教科　道徳）

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要がある。

ただし，数値などによる評価は行わないものとする。

具体的な方法を，道徳科の評価の在り方に関する専門家会議で検討

（H27.6～H28.7）

【基本的な方向性】

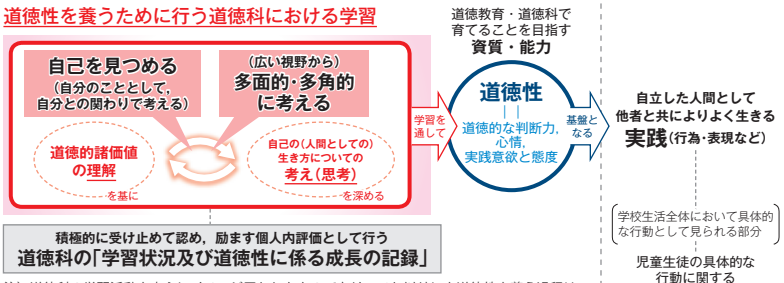
○　数値による評価ではなく，記述式とすること
○　個々の内容項目ごとではなく，大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること
○　他の児童生徒との比較による評価ではなく，児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め，励ます個人内評価（※）として行うこと
○　学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
○　調査書に記載せず，入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要

※　専門家会議報告に基づき，道徳科の学習評価の在り方，指導要録の参考様式について，平成28年７月29日付で都道府県教育委員会等に通知

道徳科の評価はどのように進めたらよいのですか。

道徳科の学習活動と評価のイメージ

○　道徳性が養われたか否かは容易に判断することができるものではなく，観点別に分析的に評価（ABCの段階をつける）ことは妥当ではない。
○　道徳科の授業では，特定の価値観を児童生徒に押しつけたり，指示通りに主体性を持たずに言われるままに行動するよう指導したりするものであってはならない。内容項目を手掛かりに「考え，議論する」ことを通じて，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考える学習を行うことによって，道徳性を養うことを目指すものである。
→　このため，道徳科の学習の中で，特に「自己を見つめ，自分のこととして考えているか」「物事を多面的・多角的に考えようとしているか」といったことに着目することで，道徳科の学習状況を把握することが必要である。



注）道徳科の学習活動を中心にイメージ図としたものであり，これ以外にも道徳性を養う過程は様々なものが考えられる。

○　児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行います。
○　観点別で分析的に評価したり、数値化したりする評価は、道徳科では妥当ではありません。
○　道徳科の特質である「自己を見つめる姿」「多面的・多角的に考える姿」を見取って評価していきます。
○　学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」に記述します。道徳科の評価は、あくまで授業を行った結果としての「学習状況」「道徳性の成長に係る成長の様子」を見るものです。

小学校児童指導要録（参考様式）（イメージ）

別紙３

様式２（指導に関する記録）

児童氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3	4	5	6
		学級						
		整理番号						

各教科の学習の記録
Ⅰ　観点別学習状況

教科	観点＼学年	1	2	3	4	5	6
国語	国語への関心・意欲・態度						
	話す・聞く能力						
	書く能力						
	読む能力						
	言語についての知識・理解・技能						
社会	社会的事象への関心・意欲・態度						
	社会的な思考・判断・表現						
	観察・資料活用の技能						
	社会的事象についての知識・理解						
算数	算数への関心・意欲・態度						
	数学的な考え方						
	数量や図形についての技能						
	数量や図形についての知識・理解						
理科	自然事象への関心・意欲・態度						
	科学的な思考・表現						
	観察・実験の技能						
	自然事象についての知識・理解						
生活	生活への関心・意欲・態度						
	活動や体験についての思考・表現						
	身近な環境や自分についての気付き						
音楽	音楽への関心・意欲・態度						
	音楽表現の創意工夫						

特別の教科　道徳

学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子
1	
2	
3	
4	
5	
6	

外国語活動の記録

観点＼学年	3	6
コミュニケーションへの関心・意欲・態度		
外国語への慣れ親しみ		
言語や文化に関する気付き		

総合的な学習の時間の記録

学年	学習活動	観点	評価
3			

画像は小学校児童指導要録のイメージ（中学校生徒指導要録、特別支援学校小学部・中学部の児童指導要録・生徒指導要録も同様）

○　指導要録において、記述式の評価の記載が必要となります。
○　道徳科の評価の実施に伴う指導要録の形式等については、28教義第846号（平成28年8月10日付）で発出しています。なお、指導要録の様式については、各学校の設置者（各学校を所管する市町村教育委員会）が決定します。

「指導要録」と「通知票」の根拠と性質を踏まえ、各学校で行うことを教えてください。

【指導要録の根拠及びその性質】
①　校長は，その学校に在学する児童等の指導要録を作成しなければならない。（学校教育法施行規則第24条）
②　指導要録は，児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し，その後の指導及び外部に対する証明等に役立てるための原簿となるものであり，各学校で学習評価を計画的に進めていく上で重要な表簿である。（平成22年５月11日　文部科学省初等中等教育局長通知）

【通知表（票）の根拠と性質】
①　法的に規定されている表簿ではない。校長の責任において作成される性質をもつ。
②　児童生徒の学習指導の成果，学習生活の状況，健康状況等を保護者に連絡し，保護者が児童生徒の学校生活の状況を知るための連絡簿であり，その呼び方や内容，形式も各学校ごとに創意工夫が見られる。

【各学校で行うこと】
①　校長の指導の下，通知表（票）の評価をどのように行うか。
②　保護者に道徳科の評価について，どの時期に，どのような内容で周知し，理解を図るか。
③　通知表（票）の記述を，どのように指導要録につなげるか。

評価の質を高めるため、どのような工夫をすればよいか教えてください。

「特別の教科　道徳の指導方法・評価等について（報告）H28.7.22道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」には、「道徳科の評価の工夫に関する例」も具体的に掲載されています。ぜひ参考にしてください。

道徳科の評価の工夫に関する例（本専門家会議における意見より）

○　児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等に集積して学習状況を把握すること。
○　記録したファイル等を活用して、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を記して伝えること。
○　授業時間に発話される記録や記述などを、児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード（挿話）として集積し、評価に活用すること。
○　作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション、協働での問題解決といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握すること。
○　１回１回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して、よい変容を見取ろうとすることは困難であるため、年間35単位時間の授業という長い期間の中でそれぞれの児童生徒の変容を見取ることを心掛けるようにすること。
○　児童生徒が１年間書きためた感想文等を見ることを通して、考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより、内面が変わってきていることを見取ること。
○　教員同士で互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組むことにより、児童生徒の理解が深まり、変容を確実につかむことができるようになること。
○　評価の質を高めるために、評価の視点や方法、評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもっておくこと。

道徳科の評価を記入する上での留意点を教えてください。

県内７地区で開催された「平成30年度の『特別の教科　道徳』の実施に向けた地区別研修会」では、評価の演習に取り組み、評価文の事例検討や作成に取り組みました。ここでは、研修会を通じて分かったこと、学んだことを列記します。是非，評価を行うの際の参考にしてください。

○　平成30年度「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別研修会の研修から

〈道徳科の評価記入上の留意点〉
学びの事実を基に、飛躍させず、盛り込みすぎず、比較せず、分かりやすく、行動の記録と区別して、文章で記述する

○　研修会を通じて分かったこと、話題になったこと

キーセンテンス	研修会を通じて分かったこと、話題になったこと
「学びの事実を基に」	なぜそう書いたか、根拠が大切です。「児童生徒の発言」や「学習の様子」「ワークシートやノートへの記述」等を記録・累積しておくことが大切です。
「飛躍せず、盛り込みすぎず」	記録しておいた「発言」や「学習の様子」「ワークシートの記録」といった根拠を曲解して記述したり、数多くの根拠を記述しすぎたりすると誤解を生じ、伝わりにくくなります。
「比較せず」	「誰よりも優れています」といった表現は、一見最大のほめ言葉に感じますが、個人内評価の基本的な考え方からはふさわしくありません。同様に、「以前より理解できるようになった」という表現も誤解を招く恐れがあり、気を付けなければならない表現です。
「分かりやすく」	「道徳的価値の理解」「道徳的判断力の高まり」といった専門用語は、児童生徒や保護者には分かりづらい言葉です。児童生徒や保護者の目線に立って、分かりやすい表現を心がけたいものです。
「行動の記録と区別して」	あくまでも「道徳科」としての授業の評価です。行動に表れている道徳性の記述は、「行動の記録」に記述しますので、明確に区別してください。

以上の考えを基本としながら文章表現で記述します。各学校において、どのように記述するか教職員で共通理解を図りながら、児童生徒一人一人を受け止めて、認め、励ます評価の具現化に取り組んでください。

○　研修会参加者が作成した評価文

○「親切・思いやり」や「自然愛護」について考える授業では、友だちの発言にうなずきながら共感して聞いたり、根拠に基づいて自分の意見を発言したりしていました。友だちと考えを交流する中で、友だちの考えをもと

にさらに深く考え、自分の考えを書いてまとめることができました。その考えについては、道徳ノートをご覧いただいて、ご家庭での話題にしていただければと思います。

○ 「○○○」では、登場人物の役になりきって、くじけず最後まで努力することの大切さを表現しました。最後までがんばるためには、周りの応援も必要であることに気付くことができました。

○ 「○○○」の授業では、友だちの発言にうなずきながら、熱心に耳を傾ける姿が見られました。話し合いを通して、きまりを守ることの大切さを理解し、これからの学級生活に生かしていこう、という意欲が高まりました。

○ 「○○○」の授業では、親切・思いやりの大切さについて考えました。友だちとの話し合いを通して、本当の思いやりとは、相手の気持ちを大切にしながら、自分にできることを行うことだと気付くことができました。

○ 「○○○」の授業では、人間も自然界の一員であることを忘れてはならないという意見をもち、自然愛護について自分事として考えることができました。友だちの意見を聞いて、自分の考えをさらに深めようとする積極的な姿勢が見られました。

○ 道徳の授業では、規則や友情、国際理解など、様々なテーマについて学び、自分の考えを発表できるようになりました。友だちの考えをよく聞き、意見を交換する中で、自分のことだけでなく、相手のこともよく考えて問題の解決に臨む姿が見られます。

○ 「○○○○○」の授業では、自分の考えと友だちの考えを比べたり、自分だったらどうするかを考えたりする活動を通して、最後まであきらめずに取り組むことの難しさを感じていました。

授業における評価の視点及び想定される児童生徒の姿について教えてください。

道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような評価の視点が考えられるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え，考えようとしている。
- 自分と違う立場や感じ方，考え方を理解しようとしている。
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行為を多面的・多角的に考えようとしている。 など

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え，自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- 現在の自分自身を振り返り，自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している。
- 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で，道徳的価値の理解を更に深めている。
- 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え，考えようとしている。 など

今後の道徳科の授業では､｢道徳的価値を自己との関わりでとらえることができたか｣｢物事を多面的･多角的に考えることができたか｣の二つであることは、繰り返し述べてきました。今後の道徳科の授業案には、これら二つを具現化した評価の視点を明確に位置付けることが大切です。左のような視点を一例に参考にしながら記述し、しっかりと子どもの姿を見取りたいものです。

道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような児童生徒の姿が想定されるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
- 道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
- 様々な登場人物の立場で考えている。
- 自分の考えと友だちの考えを比べて考えている。
- 時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
- 人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。 など

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考えている。
- 教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
- 日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。
- 自分の生活を見つめ，振り返りながら考えている。
- 自分だったらどうするかなど考えている。 など

この姿は、あくまでも想定であり、一例に過ぎません。このような姿を目安にしながら子ども一人一人の素敵な学びの姿をたくさん見取り、通知表や指導要録に記載したいものです。

のぞましい評価文について検討していますが、もう少し詳しく教えてください。

評価文の長所と短所を比べてみよう

評価文事例【A】の長所と短所は？

「雨のバス停留所で」では、社会の中におけるきまりについて考え、これまでの自分の体験を想起しながら、自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動することが大切であることに気付いていました。

評価文事例【B】の長所と短所は？

道徳の教材で学びながら、登場人物に自分を置き換えて生活を振り返ったり、友達の考えを聞いて、一つのことを様々な見方で捉えたりして、今後のよりよい生き方について考えを深められるようになりました。

検討するに当たって、二つの評価文をお示しします。二つの文を比べてみましょう。それぞれ、どのような長所と短所があるでしょうか。

評価文【A】は保護者にとって学習状況がイメージしやすい長所があります。反面、一つの授業の評価であり、成長の様子が感じ取れないという短所があります。

一方、評価文【B】は、継続的な授業の見取りにより、子どもの成長の様子が感じ取れますが、反面、どの子どもにも当てはまり、特徴が見えにくい短所があります。

次の項目で、評価文A、Bそれぞれの長所と短所を踏まえた特徴的な評価文をお示しします。

特徴的な評価文の先行事例があれば教えてください。

これからの評価を考える

評価文事例【C】のよさは？

常に授業では、これまでの自分を振り返り、今後に生かそうとしています。例えば「二人の弟子」の授業では、相反する二人の立場のどちらも自分の心にはあるものとして受け止め、自分自身の弱さに気付き、克服していこうと考えていました。

評価文事例【D】のよさは？

常に自分に厳しい目をもっていて、授業では自分を振り返り、反省するような考えも観られました。しかし、それは、今の自分はこうあるべきだという自分をしっかり見つめている表れであり、これからの道徳の授業で、どんな自分をつくりあげていくのか、とても楽しみにしています。

先行事例として、特徴的な評価文を２事例（C，D）お示しします。参考にしてください。

Cの評価文は、継続し累積して見取ってきた評価と一つの授業で見取った具体的な評価の二つを合わせた記述となっています。

また、Dの評価文は、教師の的確な見取りを生かした事例です。児童生徒にとって、温かく、勇気づけられる内容となっています。各学校では、先生方の共通理解の基、子ども一人を認め、励ます評価を具現してください。

表現や反応の少ない子ども、学習上の困難さを伴う子どもを十分見取ることができず、不安です。

これから配慮すべきことについて

○授業中の発言がほとんどない児童生徒
○文章表現が得意ではない児童生徒
○表情にも表れにくい児童生徒

- 授業でどのように見取っていくのかを校内で検討しておくことが必要である。
- 授業者は、意図的に観察したり、指名したりして、評価できる根拠を集めることが必要である。

発言、文章記述、うなずきやつぶやき、動作や仕草等、その子なりの表現を見取り、授業における学習状況や道徳性の成長の様子を累積していくことが大切です。担任ばかりでなく、他の教員との協力的な指導やローテーション実践等を通じて、共通の見取りの視点を複数の目で行っていきたいものです。また、12頁に「(H28.7.22) 特別の教科道徳の指導方法・評価等について（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」で示された「発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について（例）」を掲載します。指導の参考としてください。

道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）

※以下の指導方法は、本専門家会議における事例発表をもとに作成。したがってこれらは多様な指導方法の一例であり、指導方法はこれらに限定されるものではない。道徳科を指導する教員が学習指導要領の改訂の趣旨をしっかり把握した上で、学校の実態、児童生徒の実態を踏まえ、授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要。
※以下の指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。それぞれに様々な展開が考えられ、例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

		×	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
ねらい		登場人物の心情理解のみの指導	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。	主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合い
			学習指導要領においては、道徳科の目標を「道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己をみつめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と定めている。この目標をしっかり踏まえたものでなければ道徳科の指導とは言えない。			
具体例	導入		**道徳的価値に関する内容の提示** 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。	**問題の発見や道徳的価値の想起など** ・教材や日常生活から道徳的な問題をみつける。 ・自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本当の意味や意義への問いを持つ（原理・根拠・適用への問い）。	**道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など** ・教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ・日常生活で、大切さが分かっていてもなかなか実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。	
	展開		**登場人物への自我関与** 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分との関わりで考える。 **【教師の主な発問例】** ・どうして主人公は、〇〇という行動を取ることができたのだろう（又はできなかったのだろう）。 ・主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのだろう。 ・自分だったら主人公のように考え、行動することができるだろうか。 **振り返り** 本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりする。	**問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など）** ・道徳的な問題について、グループなどで話合い、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え議論を深める。 ・グループでの話合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。 ・道徳的な問題場面に対する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。 **【教師の主な発問例】** ・ここでは、何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 ・なぜ、■■（道徳的諸価値）は大切なのでしょう。 ・どうすれば■■（道徳的諸価値）が実現できるのでしょう。 ・同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するでしょう。 ・なぜ、自分はそのように行動するのでしょう。 ・よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょう。 **探究のまとめ** **（解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見）** ・問題を解決する上で大切にした道徳的価値について、なぜそれを大切にしたのかなどについて話合い等を通じて考えを深める。 ・問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 ・考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。 ・問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。	**道徳的な問題場面の把握や考察など** ・道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているかを考える。 **問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など** ・ペアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 ・実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をすることの難しさなどを理解する。 **道徳的価値の意味の考察など** ・役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 ・同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体感することを通して実生活における問題の解決に見通しをもたせる。	
	終末		**まとめ** ・教師による説話。 ・本時を振り返り、本時で学習したことを今度どのように生かすことができるかを考える。 ・道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。 ・感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。			

<table>
<tr><th></th><th>×</th><th>読み物教材の登場人物への
自我関与が中心の学習</th><th>問題解決的な学習</th><th>道徳的行為に関する体験的な学習</th><th>×</th></tr>
<tr><td>指導方法の効果</td><td rowspan="4">登場人物の心情理解のみの指導</td><td>・子供たちが読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的。</td><td>・出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。
・他者と対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性。
・問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値。</td><td>・心情と行為とをすり合わせることにより、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。
・体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能。</td><td rowspan="4">主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合い</td></tr>
<tr><td colspan="3">道徳的諸価値に関わる問題について多様な他者と考え、議論する中で、多面的・多角的な見方へと発展し、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりで深めることが可能。</td></tr>
<tr><td>指導上の留意点</td><td>・教師に明確な主題設定がなく、指導観に基づく発問でなければ、「登場人物の心情理解のみの指導」になりかねない。</td><td>明確なテーマ設定のもと、
・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。
・上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。
・議論し、探求するプロセスが重視されているか。
といった検討や準備がなければ、単なる「話合い」の時間になりかねない。</td><td>明確なテーマのもと
・心情と行為との齟齬（そご）や葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。
・上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。
といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒・生活指導になりかねない。</td></tr>
<tr><td>評　価</td><td colspan="3">・個人内評価を記述式で行う。
※児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階に応じ励ましていく評価。

・道徳科の学習において、その学習活動を踏まえ、観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙などを通して、例えば、
〇他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
〇多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
といった点に注目する必要。

・学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための工夫が必要。

・妥当性・信頼性の確保のため組織的な取組が必要。</td></tr>
</table>

※ 「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より

発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について（例）

	学習上の困難さ	集中することや継続的な行動をコントロールすることの困難さ	他人との社会的関係の形成の困難さ
困難さの状況	・「聞く・話す」はできても、「読む・書く」が苦手なことが多い。 ・文字の認識が困難な場合は、画数の多い漢字の識別や相手の表情を見分けることなどが難しい。 など	・気が散りやすく、注意を集中させ続けることが困難であったり、必要な事柄を忘れやすかったりする。（不注意） ・話を最後まで聞いて答えることや順番を守ることが困難であったり、思いつくままに行動して他者の行動を妨げてしまったりする。（衝動性） ・じっとしていることが苦手で、落ち着いて活動や課題に取り組むことが困難な傾向がある。（多動性） など	・社会性の発達が遅い。相手の心情理解が難しい傾向がある。 ・暗黙のルールが理解できない傾向がある。 ・特定の事物へのこだわり（やめない、変えない、始めない）がある傾向がある。 ・感覚が過敏であることが多い。 など
考えられる障害	学習障害（LD）等	注意欠陥多動性障害（ADHD）等	自閉症等
道徳指導上の困難	・読み書きの習得については、努力が成果に結びつかない経験をしており、「努力してやり遂げる」ことには消極的になりやすい。 ・読書が苦手で自主的に本を読む習慣がないため、知らない言葉が多い。同年齢の子供であれば理解できると予想されることを理解していない、あるいは誤解している場合がある。 ・自分の気持ちを文字で表現できない（話し言葉であればむしろ流ちょうに表現できる）ことがあり、文字による言語活動を重視した場合、工夫が必要となる。 など	・注意持続が短く、態度が変わりやすいため、気まぐれで誠実ではないように見えることがある。 ・多動性、衝動性により、ルールを守る気がない、安全を軽視していると受け止められることがある。 ・相手の気持ちを考えない、結果がどうなるのか考えないで始めた行動やうっかりミスにより問題が起こることがある。 ・ものごとを最後まで注意していないために、結末を記憶していない。「自分ではない」と主張し、それが嘘やごまかしと思われることがある。 ・別のことに注意がそれて、期限や待ち合わせなどの約束を守れない傾向がある。 など	・相手の気持ちを想像することが苦手で、字義通りの解釈をすることがある。 ・明文化されていないもの、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがある。 ・こだわり行動または感覚の過敏により、望ましいと分かっていてもその通りにできないことがある。 ・誤って学習したことの修正が困難な傾向がある。 など
指導上の必要な配慮	・言葉の意味や正しい名称を知らないことが多いので、言葉の意味などを丁寧に伝える。 ・提示する教材などには、音声による情報を付け加える。 ・自分の考えを文字で表現したり、文字で書かれた他者の意図を読み取ったりすることが苦手なので、言語コミュニケーションの方法を文字言語のみに限定しない（口頭で答えることも可能とする）。 ・漢字の習得のみが困難な場合には振り仮名を振る。 など	・適度な時間で活動が切り替わり、注意が持続できるようにする。 ・成長が認められる行動や発言があった場合は、行動や発言のあった都度、評価する。 ・「あと五分」、「ここまでやったら」など、短期的で具体的な見通しを示して努力できるようにする。 ・必要なことをメモする、掲示する、付箋で示すなどして、単純なミスをしないで済むようにする。 ・チェックリストや備忘録、スケジュール表などを用意し活用する。 ・対話の工夫や幅広い場面での触れ合いをもち、信頼関係を築く。 など	・他者の心情を理解するために、役割を交代して動作化や劇化を行う。 ・「〇〇ですと言ったのは、△さんが『～だ』と思っていたからです」など主語を明確にして説明する。 ・わかりやすく伝えるために、イラストにしたりせりふを書き込んだりすることができるようにする。 ・ルールは明文化する。同時に、本人が理解してもこだわり等により変えられない場合もあると理解しておく。 ・最初から正しい知識を伝え、途中で修正する必要のないようにする。また、誤った理解をしていないか適宜確認し、できる限りの修正をする。 など

※発達障害には上記以外の障害もあるが本専門家会議において発表された学習障害、注意欠陥性多動性障害、自閉症を中心に作成した。
※「『特別の教科　道徳』の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例（特別支援学級（知的障がい）版）
～福島市立北沢又小学校の授業実践～

【道徳のかけ橋第２２号（令和２年２月２０日発行）より抜粋】

主題名　やさしくすると･･･　【Ｂ－（６）親切、思いやり】

ねらい　親切にしたときの気持ちについて体験的に考えることを通して，他者に優しくすると自分も相手も気持ちがよくなることに気付き，身近にいる人に進んで親切にしようとする心情を育てる。

教材　「はしのうえのおおかみ」　（「わたしたちの道徳１・２年」文部科学省）
※　福島県教育委員会オリジナル紙芝居　（画：福島県立福島西高等学校　デザイン科学科３年　小林美歩さん）

こんな子どもたちの姿から授業をつくりました！！

A　集中力を持続させることがむずかしい。

B　気持ちを考えること、言葉で表現することが苦手。

C　一人一人の特性に応じた指導をきめ細やかに行う必要がある。

【学習の概要】

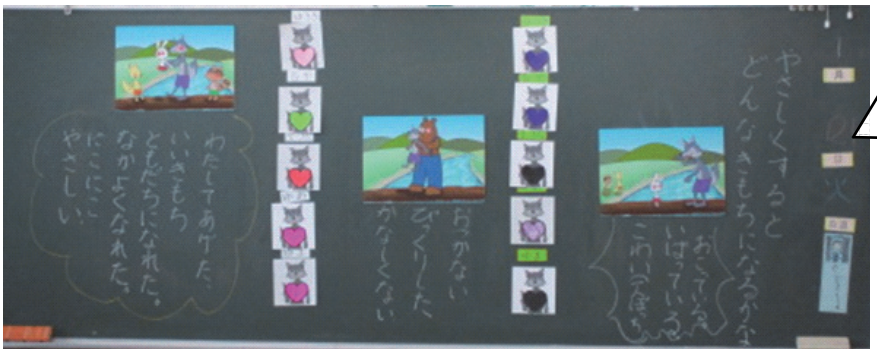
1　他者に優しくできていないオオカミの姿から，本時の学びの視点をもつ。
（1）橋でウサギを追い返した時のオオカミの気持ちを色で考える。

やさしくすると　どんなきもちになるのかな？

2　優しくされたり、優しくしたりするオオカミの姿から考える。
（1）　橋でクマに渡してもらったオオカミの気持ちを考える。
（2）　橋でウサギを抱き上げて渡してあげた時のオオカミの気持ちを色で考え、役割演技で確かめる。
3　自分はオオカミに似ているときがあるか考える。

A　導入から終末まで、教材「はしのうえのおおかみ」とつなげながら発問をし、子どもが考えやすいようにしました。

【　板　書　】



学びのノートとして、わかりやすく示しました。
可視化された全員の考えを掲示し、多面的・多角的に考えたり、考えの変化に気づいたりさせました。

◊♦◊　授　業　の　実　際　◊♦◊

A　紙芝居を活用することで、効果的な演出を工夫したり、紙芝居を共通の手がかりにして、話の内容や状況を確認したりしました。

◇　紙芝居による演出　◇
①　話の内容に合わせながら、前の紙面を動かし臨場感をもたせた。
②　登場人物の動きに合わせて、紙芝居を動かして、場面のイメージを膨らませた。（クマがオオカミを、オオカミがウサギを抱きかかえて橋を渡す場面など）

Ｔ：（紙芝居を読んでいる途中で）一本橋って、わかる？
Ｃ１：あの細い丸太でしょ。
Ｔ：そうだね。ここの川にかかっている、この木の橋です。

Ｔ：このとき、オオカミの顔はどんな顔？
Ｃ４：おこってる。
Ｃ２：いばってる。

場面毎に子どもたちの反応を確かめながら、読み進めました。子どもたちは、紙芝居を指さしたり、紙芝居を見比べたりして考える様子が見られました。

B　色によって表すことで、言葉による表現が苦手な部分を補ったり、その色にした理由からオオカミの心の様子を考えやすくしたりしました。

オオカミが渡ってきて、怖い顔で怒鳴りました。「こらこら、もどれもどれ。」

Ｔ：このときのオオカミの気持ちはどんなかな？
Ｃ２：（水色のハート型色紙を合わせて･･･）ちがうな。
（群青色を合わせて･･･）これだな。
Ｃ：（５人全員がオオカミの気持ちの色を決める。）
Ｔ：C3 さんは、どうしてこの色（黒）にしたの？
Ｃ３：ひとりぼっちだと思って・・・。友達がいない。
Ｃ４：（C4 も同じく黒）オオカミは怒っているから黒。
Ｔ：どうして怒っているんだろうね？
Ｃ４：怖いから。ひとりぼっちで、悲しい。

ハート型の色紙を何色も準備しておきました。子どもたちは、ワークシートの上に色紙をおいて自分の考えに合うかどうかを確かめながら考えていました。

オオカミはウサギを抱き上げ、後ろにそっとおろしてあげました。

Ｔ：前のオオカミと違うところはあるかな？
Ｃ：（子どもたち５人全員大きくうなずく）
（全員、折り紙を使って色を探す。）
Ｔ：なんか、みんな色が変わったね。どうしてこの色になったの？
Ｃ１：（ピンク）オオカミは、うれしいから。ウサギと仲良くなれたから。
Ｃ５：（赤）いい気持ちになったから、黒から赤になった。
Ｃ２：（黄緑）友達になってみんなやさしくなった。オオカミと仲良くなって、オオカミの家に行って、ご飯を食べたかもしれない。
Ｔ：オオカミはやさしくなったの？
Ｃ：（全員大きくうなずく）
Ｔ：やさしい気持ちになると、心はこんなきれいな色になるんだね。
Ｔ：このときのオオカミをやってみよう。
（役割演技をしたり、見たりする。）

選んだ色を根拠にして、自分の考えを話す姿が見られました。また、全員の考えが黒板に示され、優しいオオカミの心の様子を前のオオカミと比べたり、優しくするときの心の様子のとらえ方が、一人一人違うことに気付いたりしていました。

C　一人一人の特性に応じて、問いかけや働きかけを行いました。

□　気持ちを考えることが比較的得意なC1、C4児
～　はじめに発表させることで、他の子どもの手がかりにさせました。また、C1、C4児に対して問い返しを行って、考えを深めさせました。

□　反応が少ないC3児
～　名前を呼びながら個人的に問いかけを行うようにしました。

□　描材（クレヨン）で遊んでしまいそうなC6児
～　始めからハート型色紙を提示するよう計画しました。（当日は、C6児は欠席。授業では、最終的に全員がハート型色紙で考えていた。）

A　授業後の活動を通して、子どもたちの学びを持続させました。

□　授業後の活動も含めて４５分間を計画することで、遊びや自由なやりとりの中で道徳の学びを持続させるよう計画しました。
【想定していた活動】
一本橋のごっこ遊び、紙芝居、動物のお絵かき

授業後に、紙芝居を読んだり聞いたりする児童

授業中から紙芝居に興味津々だったC2が、「ぼくが読むよ。」と読み始めました。
それを見る児童は、動物の表情などを改めて確認していました。

この授業の学習指導案・紙芝居は義務教育課ホームページに記載します。ぜひ、ご活用ください。
（URL）https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例
～新地町立尚英中学校の授業実践～

【道徳のかけ橋第２５号（令和４年４月発行）】

深い学びのある道徳科の授業をつくろう

道徳科における １人１台端末の活用

１人１台端末が導入され、試行錯誤の日々が続いていると思います。不安や難しさを感じてしまうこともあるでしょう。

本号では、道徳科における１人１台端末、ICT 活用の事例を紹介します。令和３年度道徳教育推進校の新地町立尚英中学校は ICT 活用を活発に進めている学校です。しかし、常に「この場面で本当に ICT が必要だろうか」と考え、生徒の実態を基に授業をつくってきました。特に「道徳科の学習では、フェイス･トゥ･フェイスの話合いを大切にしたい」という教師の思いがありました。

尚英中学校　第２学年３組の授業実践　指導者：平塚健次郎　教諭

主　題　友情を育てるために【友情、信頼】
教材名　ゴール（東京書籍）
ねらい　登場人物５人のそれぞれの思いについて話し合うことを通して、友情を培うために自分はどうあればよいかを考え、より一層深い友情を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

教材のあらすじ

本教材は、バスケットボール部に所属する５人の女子中学生の話である。弟が交通事故にあったために練習に身が入らないリカに対し、そのことを知らない美希たちは腹をたてチームに溝ができてしまう。その後、リカが練習に身が入らなかったのは、弟が交通事故にあったからだと知った４人は、リカを誤解していたことに気付き、後悔する。友だち関係の問題や困難を乗り越え、正しく理解することによって、より豊かな人間関係が築かれることを考えることができる教材である。

授業改善のポイント❶

教材を自分事として捉えることができるように、生徒の体験と登場人物の気持ちを重ね合わせて考え、自己を見つめることができるようにする。

授業改善のポイント❷

多面的・多角的に考えることができるように、構造的な板書や ICT（協働学習支援ツール）活用により、意図的指名を行い、話合いをコーディネートする。

授業の実際（授業レポート）

導入

◉ 事前に行った友人関係についてのアンケートの結果を確認する。

アプリのアンケート機能を活用すると、生徒の実態把握がしやすく、集計が効率的にできます！

教師　「友人に理解してもらって、うれしかったことはあるか。」という質問ですが、どのような結果だと思いますか？
→ほぼ１００％が「はい」と回答した。回答の理由「自分のことを分かってもらうことで、以前よりも仲よくなれた」を伝えると、生徒たちはうなずきながら共感していた。

教師　「友人の気持ちや状況を考えずに発言し、失敗してしまったことはあるか。」についての結果も見てみましょう。
→半分以上が「はい」という答えであった。他のアンケート項目についても紹介し、自己の経験を振り返り考えることができるようにした。

教師　みなさんも、友達に支えられたり、友人関係で失敗したりしたことがあるのですね。今日は、友達関係がうまくいかなかった話を使って友情について考えていきましょう。

❶ 事前のアンケートをきっかけとし、自分の生活を振り返ることにより、本時の学習を自分事として捉えることができるようにしました。

❶ この導入をきっかけにして、「アンケート結果」、「教材」、「自分」が重なっていきました。

展開

◉ 教材「ゴール」の範読を聞き、トラブルが起きた原因について考える。

教師 なぜこのような状況になってしまったのだろう。
生徒 コミュニケーションが足りないと思う。
教師 どうすればよかったのかな。
生徒 お互いに説明が足りないからこうなったと思う。
教師 どうしてそう思うの？
生徒 キャプテンとして配慮がなさ過ぎるのではないか。
生徒 誰かを外した LINE グループをつくるのはよくないと思う。

❶ 教師は、登場人物の心情理解のみにならないように、「教材の中の登場人物が立たされた状況」に共感させ、それと同じような「自分の経験や体験を想起して、自分の気持ちを考える」ことを最後まで大切にしていました。
　この段階では、自己と重ねることが難しかった生徒も、友だちとの話合いで「自分は…」と問う姿につながっていきました。

授業改善のポイント❷

◉ 登場人物に共感し、道徳的価値の問題場面について考える。

教師 なるほど。友だちとコミュニケーションをとることは大切だとわかっているのに、５人はどんな思いをもっていたのかな。
→ある班の話合いの様子
生徒１ 友達の様子がおかしい時に、声をかけられない気持ちってわかるな。
生徒２ それ、あるよね。でもキャプテンなら頑張って声をかけてほしいよね。
生徒３ SNS でやり取りするからこうなるんじゃない？
生徒２ このグループチャットをつくること自体がおかしくない？
生徒３ 確かに。面倒になりそうだから、僕だったら入らないな。

平塚先生のこだわり！

❷ 生徒の考えを対比させたり様々な立場の考えを位置づけたりできるよう、板書を構想しました。しかし、話合いの拠り所となる構造的な板書についてはこれからの課題です。

授業改善のポイント❷

◉ 協働学習支援ツールの効果的な活用

教師 でも、友だちだよ。断ることができるの？
→話合いが次第に、自分を重ね合わせた発言に変わっていく。
生徒１ ダメだとわかっていても実際断れないよね。
教師 どうしてそう思うの？
生徒２ でも、自分の知らないところでそんなグループチャットができていたらショックだよ。
生徒３ このグループチャットをつくって、何かいいことあるの？ひどくない？
生徒１ それはわかるけど、でも自分が誘われたらどうする？
生徒３ 僕は入らない。「なんでそんなグループ作るの？」って言う。
生徒１ 本当に言えるの？自分の部活だったらどうなの？
生徒３ 確かに…。難しい…。友だちだから言いづらいか…。
→友達の考えを聞き、自分を見つめ直す姿は、多面的・多角的に考え、自己を見つめる姿である。

❷ 教師は協働学習支援ツールによって、生徒全員の考えを手元のタブレットで把握しています。
　多面的・多角的に考えが広がるように、授業全体をとおして意図的に指名しました。このようなことが瞬時にできるのもの、ICT のメリットの１つです。

ICT と板書を効果的に活用している平塚教諭

終末

授業改善のポイント❶

◉ 自己を見つめる学習活動の工夫

教師 今の自分から、過去の自分に手紙を書いてみましょう。
→過去に友人関係で失敗してしまった経験を想起し、その時の自分に手紙を書くことで、これからの自分の生き方について考える場とした。

❶ 自己を見つめることができるよう、活動を工夫しました。話合いをとおして、再度、自分を見つめ直し、自分の考えを深める大切な時間です。

生徒のワークシートから
（協働学習支援ツールで共有）
　まず、自分の気持ちを相手に伝えてみるといいよ。相手も、誤解しちゃっているところがあると思うし、伝わるとスッキリすると思う。そしたら、相手の気持ちをよく聞いてみよう。自分が誤解しているところや、本当の気持ちがわかると、もっと仲よくなれると思う。

道徳科における ICT 活用の注意点！

　子どもの意見が一律に共有されることはとても便利です。しかし、共有されることに抵抗感をもつ子どもも中にはいるかもしれません。目の前の子どもの実態を考慮し、活用方法を検討してください。また、ワードクラウド（出現頻度が高い単語を複数呼び出し、その頻度に応じた大きさで図示する）機能は、大きな文字で現れたものがあたかも正解のように、多数決定的に感じる子どももいます。使い方によっては「自分の考えは間違っていた」という誤解を与えてしまう可能性があります。道徳科では、言葉にならなくても何とか絞り出した心の声や表情を教師が見取り、話合いにつなげることが大切です。試行錯誤しながら、よりよい道徳科の授業づくりを進めていきましょう。

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例
～福島市立平田小学校の授業実践～

【道徳のかけ橋第２６号（令和５年４月発行）より抜粋】

道徳科の特質を踏まえた情報モラルに関する授業実践

社会の情報化が進展する中、子どもは、学年が上がるにつれて、次第に情報機器を日常的に用いる環境の中に入っており、学校や子どもの実態に応じた対応が学校教育の中で求められています。これらは、学校の教育活動全体で取り組むべきものですが、道徳科においても同様に、情報モラルに関する指導を充実する必要があります。

道徳科の特質を踏まえた情報モラルに関する授業について、一緒に考えてみませんか。

授業について

福島市立平田小学校　第４学年の授業より
指導者　鴫原 則子 教諭

○ **主　題　名**　自ら信じることにしたがって
○ **内 容 項 目**　Ａ（Ｉ）〔善悪の判断、自律、自由と責任〕
○ **教　材　名**　「カマキリ」（出典：新・みんなの道徳４　学研）
○ **ね　ら　い**　正しくないと考えられることを人から勧められる場面を役割演技で疑似体験をし、そのときの「ぼく」や「友達」の心の中を考えることを通して、よく考えて正しいと判断したことは、周りに流されないで行うことの大切さに気付き、自信をもって行おうとする態度を育てる。
○ **児童の実態**　学級で小さなトラブルが起きると、自分たちで話し合い、原因を考えたり行動を改めたりする姿がある。その中で善悪を判断する場面があるが、友達関係や自分の弱さから、正しい行動ができないこともある。また、正しくないという判断をして自分はその行動を起こさなかったとしても、友達の行動をとめることはより難しい。

○ **指導の意図（児童の実態を踏まえて）**
正しいことを行えないときの後ろめたさや正しいことを行ったときの充実した気持ちを振り返り、正しいと信じて判断したことを行おうとする態度を育てたい。

〈あらすじ〉
主人公の「ぼく」がインターネットを使う際、自分の判断は正しいと思いながらも周りの友達に流されて個人情報を入力してしまい、自分の行動に後悔の念を抱いてしまうという話である。

ここがポイント！　子どもが「問題意識をもって授業に臨む」ために

〈事前アンケート〉

〈事前アンケートの提示〉

〈事前アンケート〉
「正しいと思うことをいつでもしているか」について、心のものさしを使って事前アンケートを行いました。

〈導　入〉
アンケート結果を、一つの心のものさしに集約したものを提示しました。
「どうして正しいと思っても、できないことがあるのかな。」
「自分だけじゃない。」
「人によって位置が違うな。」
友達の考えや全体の傾向を知ることで、「善悪の判断」に係る子どもの問題意識が高まりました。そこで、本時の学習課題「正しいと分かっているのに…」が設定されました。

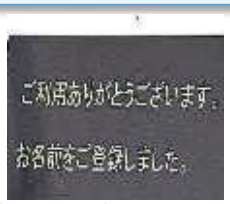
道徳は、教材の内容を理解させることに終始せず、教材を活用して生き方を学ぶ時間です。だからこそ、子どもが「問題意識をもつ」ことが大切になります。

道徳科の特質　ここがポイント！「多面的・多角的に考える」ために

主人公が友達とインターネットでカマキリを検索していると、先に進むためには名前を入れなければならない画面に遭遇します。授業者は、この状況を**役割演技で、疑似体験**をさせたいと考えました。ＰＣ上に、カマキリの画像や、「ご利用ありがとうございます。お名前をご登録しました。」という文章が並ぶ画面を作成し、臨場感のある状況を設定しました。

〈役割演技１回目〉　「ぼく」役：子どもたち　「友達」役：教師
〈役割演技２回目〉　「ぼく」役：Ａ児　「友達」役：Ａ児以外の子どもと教師

【評価の視点】　個人情報の入力をめぐる場面のぼくや友達の心の中について、それぞれの立場で考えている。（発言）



〈ＰＣに作成した画面〉

〈役割演技を通して考える姿〉

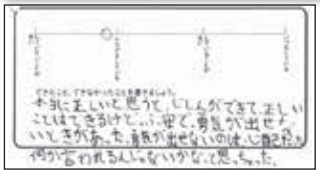
〈２回目の役割演技より（一部抜粋）〉
友達役：　早くやって、やって。（みんなで）
ぼく役：　見たくても無理。
友達役：　見たいなあ。見ようよ。（みんなで）
教　師：　すごい写真があるかもしれないよ。もっとすごい新聞ができるよ。（ゆさぶり）
(友達役)
ぼく役：　変な請求がきたら困るから、自分の気持ちを優先した方がいいな。
友達役：　いい新聞を作るって約束したでしょ。下の名前だけなら大丈夫だよ。大丈夫だよ（みんなで）
ぼく役：　ん…。
〈役割演技後に〉
教　師：　ぼく役のＡさん、やってみてどうでしたか。
ぼく役：　さっきまで、個人情報だからいけないと思っていたけれど、みんなに言われて、すごく迷った。まっ、いいかなって気持ちになった。
教　師：　周りにいた友達は、ぼくの心の中はどうだったと思いますか。
友達役：　だめって電源を切ったら嫌われるし、絶交される。嫌われたくないって思ったと思う。（続く）

単にＰＣ操作を目的として行うのではなく、役割演技を通して友達に勧められるとなかなか実行できない自分の心の弱さに気付くことができるようにしたり、役割を交代することでぼくと友達のそれぞれの立場から考えることができるようにしたりしていることが素晴らしいですね。

道徳科の特質　ここがポイント！「自己を見つめる」ために

「これまでの自分は、正しいと判断したことは自信をもって行っていましたか。」と投げかけ、心のものさしを使いながら、自己を見つめることができるようにしました。また、子どもにとって身近な友達関係や情報モラルに関わる経験を、具体的に想起できるような言葉掛けをしました。

【評価の視点】　正しいと判断したことを実行しているか、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。（ワークシート、発言）



ぼくより小さい子に、「ろうかは走らないよ。」と、正しいと思ったことを言えた。

ぼくがまだ小学生ではないときに、友達がからかわれていて、ぼくは、助けたかったけれど、ぼくもからかわれたらどうしようと思って、自信をもてなかった。（続く）

授業者は、「できた体験」「できなかった体験」の両面について振り返るように促していました。具体的な体験と結び付けて考えることで、子どもたちは知的な理解に止まらずに、自分との関わりで実感をもって考えを深めることができていました。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 道徳科の特質を踏まえた情報モラルに関する授業とするために ◆◆◆◆◆◆◆◆◆

道徳科で行う情報モラルの学習は、**情報機器の使い方やインターネットの操作、危機回避の方法やその際の行動の具体的な練習を行う時間ではなく、**内容項目（例えば「礼儀」や「親切、思いやり」）について「自分はどうだろう」と自己を見つめることを通して、自分の価値観を明らかにしていく時間です。具体的に意思決定していく学級活動（２）の特質との違いを明らかにして授業をつくりましょう。

（学習指導要領解説ｐ９７参照）

道徳科の目標に「自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して」とありますが、子ども一人一人が実感を伴いながら考えを深めるためには、どんなことに気を付けたらよいのですか。

授業を振り返り、自己を見つめる時に、こんなことはありませんか。
・振り返りの時間が無くなってしまった。
・子どもに何を書かせるかがあいまいで、とりあえず本時の感想を書かせている。
・子どもが「これからはこうしたい！」と前向きなことを振り返るので自己を見つめていると思う。

道徳科のねらいに迫り、道徳性を育成していくためには、自己を見つめる時間がとても重要です！

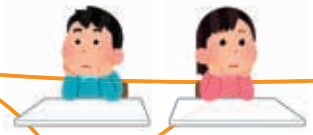
一見、自己を見つめているようでも、先生が求めている答えのようなものに近づけようとしていたり、決意表明をしたりすることが道徳科のゴールになっていることが考えられます。
ちょっと立ち止まって考えてみましょう。

□ 道徳的価値の意義を問うなど、教材から離れて自分の生活や体験等を振り返るようにしていますか。
□ 子どもは、道徳的価値について自身のこれまでの経験や価値観と照らし合わせて考えを深めていますか。
□ 子どもは、「自分はこうだと思うけれど迷う。」「分からなくなってきた。」「自分には難しい。」等人間の心の弱さに気付いていますか。
□ 子どもが道徳的価値について他者の考えと比べたり、様々な見方から考えたりできるように構造的な板書を工夫するなどの手立てを考えていますか。

これらのことに気を付けながら、自己を見つめる時間をつくっていくことが大切です。子どもが、「あの時は○○○と考えて、□□□したな。」と、これまでの具体的な経験とつなげることで、「今思うと・・・」あるいは、「だから・・・」と、実感を伴いながら考えを深めることができるようにしていきましょう。
「自己を見つめる」ことを大切にしている先生方の実践を紹介します。

振り返りの時間を大切にしています！

本校では、１時間の授業の10～15分を「自己を見つめる時間」として振り返りの時間を設定しています。
始めは何も振り返ることができない子どももいて悩みました。そこで、心のものさしを使って考えるなど、子どもが自分の考えを示すことができるような工夫から始めました。振り返りでは、自分の考えや話合いをもとに、「これまでの自分はどうだったか」を振り返っています。
マイナス面を書くことをためらう子どももいましたが、どんな考えも認め合える学級の雰囲気ができてきたので、次第に素直な言葉があふれてきました。１年間繰り返すことで、自己内対話が深まっているように感じています。今では、振り返った後に、自然と振り返りを共有し認め合う姿が見られるようになりました。



「自己を見つめる」時にはワークシートを活用しています！

私の学校では、自分を客観的に見つめじっくりと考えたことを表出できるよう、ワークシートに書く活動を取り入れ累積しています。

こんな時は・・・

○振り返りを書くことができない。
・授業中の発言に着目してみましょう。
・授業後にどのように考えていたか、そっと問いかけて見取ることもできます。
・焦らず、長期スパンで見取るようにしましょう。
○振り返りが前向きでない。
（例）今のぼくは、みんなのようにできないと思う。
⇒今の自分には実現することが難しいと感じている、自分に気付いている姿です。自己を見つめている姿を認め、長期スパンで道徳性に係る成長の様子を見取っていきましょう。

学校、家庭、地域が連携した道徳科の授業をどのように進めればよいのですか？

学習指導要領には、家庭や地域社会との連携による指導が明記されています。

家庭や地域社会との共通理解を深め、道徳教育を進めることで、子どもの豊かな道徳性の育成につながります。各学校、学級の実態をしっかりと捉えた上で、家庭や地域との連携を探っていきましょう。

道徳教育推進校で進めた家庭との連携の取組例

1　道徳科の授業の前に、家庭で教科書を保護者と共に読む活動を設定する。その後、感想を話し合う。

教材文が長く、一読に時間がかかる教材の場合は、事前に読むことで自分の考えを整理しやすくなります。一方、全員で確認しながら読むことのよさ、初めて読む楽しさもありますので、実践には吟味が必要です。

親子で感想を交流したり、保護者の考えを聞いたりすることは、道徳性の育成につながる家庭での道徳教育となります。

2　授業への参加を依頼する。

○ゲストティーチャー（以下ＧＴ）として参加

地域人材：郷土の伝統を守ろうと努力をしている地域人材
自然保護に取り組んでいる町役場の人
これからの町づくりのために活動している人　等

保護者　：内容項目に関わる仕事や経験をもつ人
人々の生活を支えている医療現場で働いている人
震災を経験した立場としてその時の様子や感じたことを話すことができる人

○ロールプレイに参加
※令和２年度「道徳のとびら」参照

○心のものさしに保護者や地域の人も考えを示すなど学習活動に参加

１単位時間の全てをＧＴに依頼するのではなく、内容項目について子どもが話し合う時間や話合いを経て自己を見つめる時間をしっかりと確保することが重要です。

教材を通して、子どもが考えを広げ、自己を見つめるきっかけとなるような活用ができるようにしましょう。

保護者が考えを示す時には、価値観の異なる考えの一つとして多面的・多角的に考えるきっかけとなるようにコーディネートしていきましょう。

3　道徳科の授業後に家庭で保護者と共に考える学習を設定する。

家庭学習として、教材やワークシートを持ち帰り、子どもが自分の考えを伝え、保護者の考えをインタビューする　等

4　道徳科の授業の様子や子どもの道徳性に関わる成長の様子やエピソード等を学校便り、ホームページで発信する。

これらの家庭、保護者との連携を、学校行事や総合的な学習の時間との関連を図りながら進めることが大切です。道徳科は道徳教育の要の時間です。学校教育全体で行う道徳教育との関連を見極めて、自校の実態に合わせた連携を考えていきましょう。

１～４を全て実施することが必要なわけではなく、あくまでも各学校の実態に応じた連携の在り方を見いだしていくことが大切です。

校長先生から「道徳教育推進教師」に任命され、解説87～88頁を読んでみました。でも、何から手をつけたらよいか、よくわかりません。

学校の先生方みんなの力を借りて、わかりやすく推進することを心掛けてみませんか。一緒に考えてみましょう。

学習指導要領解説には、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実が明記されています。解説87～88頁で確認しましょう。

> 授業を実施する上での悩みを抱えた教師の相談役になったり、情報提供をしたりして援助することや、道徳科に関する授業研修の実施、道徳科の授業公開や情報発信などを、道徳教育推進教師が中心となって協力して進めることが考えられる。
>
> 道徳教育推進教師は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育においても調整役などの役割を果たすことになるが、道徳科においてその充実を図る際も、校長は学校として道徳教育推進教師の位置付けを明確にし、適切な人材を充てるとともに、そのリーダーシップや連絡調整の下で全教職員が主体的な参画意識をもってそれぞれの役割を担うように努めることが重要である。中でも、道徳科の指導力向上のために全ての教師が、授業の準備、実施、振り返りの各プロセスを含め、道徳科の学習指導案の作成や授業実践を少なくとも年に１回は担当して授業を公開するなど学校全体での積極的な取組も望まれる。そのために、例えば、道徳科の授業改善を推進するための推進委員会などの組織を設けることも大切である。

道徳教育推進教師はじめの一歩

１　自校で「どのような子ども」を育てるのかを設定します。

□　教育目標の具現化を図り、目指す子どもの姿を描きます。

□　学校運営ビジョンを基に、道徳教育部会や管理職と相談しながらつくります。

２　重点内容項目を設定します。

□　目指す子どもの姿から、道徳の19～22ある内容項目の中で、特に関わりのある内容をいくつか選びます。重点なので、できる限り絞り込むことがポイントです。

□　家庭や地域の願いを基に設定することも大切です。

３　１、２について全教職員、家庭や地域と共通理解を図ります。

□　選定した「重点内容項目」に関わる指導を、教育活動全体を通じてみんなで指導するという共通理解を図ります。

□　それぞれの学年や部会ごとに、どのような場面で「重点内容項目」に関わる指導ができそうかを考えます。

→このための指導計画で、指導の内容と時期を具体的に示したものが、全体計画「別葉」になります。

□　家庭や地域へも、共に取り組んでいくことを依頼します。

４　実践します。

□　各教科等の授業の中で、あるいは、生徒指導等をとおして、子どもたちに指導していきます。

「目指す子どもの姿」を基に、重点内容項目を選定していくことが、はじめの一歩なのですね。みんなで推進していくために、重点内容項目に限定した「わかりやすくて活用したくなる別葉」を作成してみたいと思います。

道徳教育推進教師としての様々な取組を紹介することも役割の一つです。
まずは、できそうだと思うことから、一つ決めて取り組んでみましょう。

道徳教育推進アイデアノート

○重点内容項目から教育活動を構想する
　・ＰＤＣＡサイクルで振り返りましょう。
○道徳教育に関わる情報提供
○掲示物、教材コーナーの整備
　・場面絵のストック
　・板書写真の掲示　等
○ワークシート等のデータを共有フォルダに累積
○道徳科の授業を開く（互見授業のコーディネート）
○道徳便りの発行
　・道徳教育における情報の発信
　・求める子どもの姿
　・一人の人間として内容項目について考えたこと　等

道徳教育推進教師の先生の声

小学校

推進教師になった時は、これを機会に勉強してみようと思い、ワクワクしました。それでも、道徳科の授業には課題を感じていました。

そこで、始めに取りかかったのは、自分の悩みや課題について整理してみようということです。私は、「発問」「問い返し」に課題意識をもっていたので、本の情報や授業の考察を道徳便りで発信しました。自分の考えを整理する意味でもとてもよかったです。

また、目指したのは、年間３５時間いつでも誰でもできる範囲の中で毎回の授業の質を高めていくことです。いかに短い時間で効率よく効果的な準備をできるかを考えました。毎回とはいきませんが、板書写真や子どものワークシートを職員室に掲示することで、授業について自然と職員間で語り合うようになりました。推進教師として取り組んだことで、子どもとつくる授業の大切さ、子どもの成長を実感することができました。

中学校

私は正直なところ、道徳科に苦手意識がありました。でも、若い先生方が進んで研究授業に取り組むので、一緒に授業づくりをしてきました。私が取り組んだことは、校内研究のコーディネートです。改まった研修の場ではなくベテランの先生も若い先生も、普段から相談できる体制があることも本校の研究を進める強みとなりました。ある先生は、何度も授業を繰り返すことで、板書がどんどん変化していきました。

推進教師として特別なことをしたわけではなく、聞き役になり授業改善を応援してきました。学校みんなで一丸となって取り組めたので、これからも校内で研究を深めていきたいです。

「みんなの力を借りて」という言葉が、心に響きました。
焦らずに、取り組んでいきたいと思います。

【実践編】

令和５年度道徳教育推進校報告

県北地区道徳教育推進校「福島市立飯野小学校」実施報告書

1　学校紹介

学校名	福島市立飯野小学校
所在地	福島市飯野町明治字遠久内２
校長名	佐藤　育男
教育目標	主体的に自己のよさを発揮し、互いに高め合いながら、創造的に生きる子どもの育成
学級及び児童生徒数	学　級　数　１０ 児　童　数　１８６名

2　研究テーマ

地域とのつながりの中で、よりよく生きようとする子どもの育成
～家庭・地域と共につくる道徳教育を目指して～

3　研究テーマ設定の理由

飯野町は三世代同居世帯が多く、子どもたちは地域の様々な世代の人々との関わりが深い。また、飯野町には、古くから伝わる行事やお祭りなどが残っており、長い歴史の中で地域の人々が守り受け継いできた深いつながりもある。学校教育活動でも、総合的な学習の時間で、飯野の人や自然・文化や先人の生き方から学習テーマを設定し、充実した体験活動を取り入れた「いいの地元学」を推進している。

このように、地元学で体験的な学習が多く行われているが、体験的な関わりのみになり、自己を振り返ったり、他者を認めたりする学びの深まりまでには至っていない。また、人々に感謝の気持ちをもつことはできているが、地域の人が守り受け継いできたものに対する思いに､自分の思いを巡らせることまではできていない状況である｡そこで、他者を認めるために、まず「自己を見つめる」ことを大切にしていきたい。

「つながり　見つめ　一歩踏み出す」の合言葉の下、目指す子どもの姿として､「他者とつながり認め合い、自己をじっくりと見つめることを通して、よりよく生きるための一歩を踏み出そうとする子ども」を掲げ、友達や保護者、地域の人々や地域とのつながりの中で自己を見つめ、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養いたいと考え、本テーマを設定した。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容
４月１４日(金)	現職教育全体会（研究内容等の検討）
６月　１日(木)	第１回校内授業研究会（５年１組　黒金　美由教諭） 指導助言　県北教育事務所　指導主事　甚野　美穂子
６月２１日(水)	第２回校内授業研究会（２年　髙島　祐紀教諭・３年　梅宮　篤教諭） 指導助言　県北教育事務所　主任指導主事　朽木　克明 指導助言　福島市教育委員会教育研修課　研修係長　瀬戸　和子　様
８月３０日(水)	第３回校内授業研究会（６年２組　佐藤　かおり教諭） 講師　秋田公立美術大学　副学長　毛内　嘉威　様 指導助言　二本松市立東和小学校　校長　肥沼　志帆　様
９月１１日(月)	道徳教育講演会 講師　パラトライアスロンコーチ　菊池　日出子　様
９月１３日(水)	第４回校内授業研究会（４年　梅津　絢子講師） 指導助言　福島市立森合小学校　主幹教諭　小池　聡子　様
１０月１２日(木)	第５回校内授業研究会（１年　松本　光里教諭） 指導助言　県北教育事務所　指導主事　甚野　美穂子
１１月１０日(金)	道徳教育地区別推進協議会（県北地区）６学級授業公開 講演Ⅰ　講師　フリーアナウンサー　大和田　新　様 講演Ⅱ　講師　秋田公立美術大学　副学長　毛内　嘉威　様

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育の組織的取組について

① 道徳教育全体計画、別葉の充実と活用

〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉

○　校長の方針の下、教職員や保護者の願いを実現できるよう、道徳教育の重点内容項目を「親切、思いやり」と設定し、全体計画を作成する。

○　別葉については、重点内容項目の「親切、思いやり」に焦点化を図り、各教科及び家庭・地域との連携等を関連付けて捉えられるようにする。

〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉

○　別葉に振り返りを加筆できる欄を設け、週案に綴じることにした。学級・学年で確認・追加・修正することで、様々な場面で重点内容項目を意識して指導できるようにした。

② 道徳教育推進教師を中心とした組織的取組

○　学校教育目標や子どもの実態から目指す子どもの姿を設定し、全職員で共有する。

○　別葉作成の中心となり、全教職員に情報提供する。

③ 全校道徳コーナーの設置

○　学年や学級に関係なく、全校生が友達の「親切、思いやり」につながる姿を共有できるよう、道徳コーナーを全校生が目にする昇降口付近に設けた。地域の方や保護者にも参加を呼びかけ、家庭や地域も含めた取組にしていく。

【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

①　「多面的・多角的に考える」場では、発問を工夫したり意図的指名を行ったりすることで、多様な思いや考えを引き出し、児童一人一人の価値観を広げたり深めたりすることができるようにする。

②　「自己を見つめ直す」場では、「書く活動」を取り入れ、一人一人が「できた経験」や「できなかった経験」等を具体的に振り返ることができるようにする。また、できた（できなかった）理由やその時の気持ちも引き出すことで、より深く見つめられるようにする。さらに、見つめたよさを友達や家族と共有していく。

③　「家庭・地域とつながる」場を設けることで、多くの児童がつながることのよさを感じながら、学びを深めることができるようにする。

【視点３】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

○　「飯野っ子心のノート」を発達段階に応じて作成・活用し、授業後には担任や保護者が、一人一人の考えを受け止め、励ますコメント等を書き込む。

○　年間を通して「飯野っ子心のノート」への記述を累積することで、児童の内面的な変容を長期的に見取る。

【視点４】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について

①　年間指導計画に、「ふくしま道徳教育資料集」を教材として扱う時間を全学年で位置付け、本校の重点内容項目に関わる教材を積極的に活用できるようにする。

②　「ふくしま道徳教育資料集」と合わせて、身近な人の体験を聞くことを大切にすることで、郷土である飯野町や、家族に対する思いを広げたり深めたりすることができるようにする。

③　授業の中で震災当時のことについて保護者と共に考えたり、話し合ったりする場を設けることで、学びを家庭にも広げることができるようにする。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

○　道徳教育の様子を学校だよりや学年だより、ホームページに掲載し、家庭や地域へ発信する。

○　保護者参加の授業を複数回実施したり、道徳の授業後に、「飯野っ子心のノート」を家庭に持ち帰らせたりすることで、家庭でも道徳科の内容について一緒に考えられるようにする。

○　道徳教育講演会を年に２回開催し、保護者にも参加を呼びかけ、子どもと一緒に聞くことができるようにする。

６「家庭・地域との連携」について

〈感想を伝える姿〉

【ねらい】

多様な他者とのつながりを通して、児童が「つながる」ことのよさや楽しさを感じながら、自己の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【概要】

本校では、コロナ禍で来校する機会の少なかった保護者や地域の方に、授業に参加していただく機会を複数回設定した。児童が家庭や地域とつながることを通して、多様な考えに触れ、豊かな心を育むことができるようにした。

【成果と課題】

○　複数回の保護者参加の授業を行うことで、初めは恥ずかしがっていた児童も、回数を重ねる度に、保護者と一緒に考えることに慣れ、積極的に関わる姿が見られた。

○　保護者や地域の方の授業参加により、児童だけでは気付かない思いや考えに触れながら学びを深めることができたので、今後も継続していきたい。

○　教師が改めて地域の人材や施設、歴史に目を向け、それらとつなげることで、児童は自分たちの住んでいる飯野町のよさに気付き、より積極的に地域の方々と関わることができた。

○　道徳教育講演会では、児童と保護者が価値観を共有することができ、家庭と学校が連携して児童の道徳性を養うことにつながった。

〈保護者の感想より〉
今回はお話を聞けて、一歩踏み出すことの大切さを実感しました。自分には、無理だ、出来ないと決めつけず、好きなことがあるなら周りと比べずにやってみる。まずは子どもたちに好きな事をたくさん見つけてほしいと思いました。

７　成果と課題

〈思いを共有する姿〉

〈友達の思いを受け止める姿〉

○　道徳教育の重点内容項目である「親切、思いやり」に焦点化を図り、別葉を作成したことで、年間を通して見通しをもち、計画的に授業したり、意識して指導したりすることができた。

○　全校道徳コーナーに書かれた星カードを嬉しそうに読む児童や、放送での紹介を心待ちにする児童もおり、多くの児童が「親切、思いやり」を意識して生活することができた。学校行事の際に保護者や地域の方にも書いていただくことで、家庭や地域と児童のよさを共有することができた。

○　道徳科の授業では、振り返りの時間を１５分程度確保することで、児童が自己をじっくりと見つめる姿が見られた。友達が書いているエピソードを自分のことのように受け止めて一緒に喜ぶ姿や、授業に参加している友達のお父さんやお母さんにも、振り返りカードを見せに行く姿が見られ、認められる心地よさも感じることができた。

○　道徳教育講演会では、児童がポスター製作等の事前準備を行ったり、あらかじめ講演の内容や講師について調べたりすることで、講演会では心のノートにメモを取りながら熱心に聞くことができた。講演後には自ら質問する児童もおり、児童の心に響く講演会にすることができたと感じている。

〈児童が作成したポスターと演題〉

新さんの使命感は何ですか。

〈一歩踏み出す姿〉

日出子さんは、一歩をふみ出すのは、いいと言っていたので、わたしも、できないじゃなくて、一歩をふみ出すことを心がけてがんばりたいと思います。

〈児童の感想〉

道徳教育全体計画

福島市立飯野小学校

本校の教育目標

主体的に自己のよさを発揮し、互いに高め合いながら創造的に生きる子どもの育成
- ○ 深く考える子ども
- ○ 思いやりのある子ども
- ○ たくましい子ども

○ 憲法　○ 教育基本法
○ 学校教育法　○ 学習指導要領
○ 教育関係法規
○ いじめ防止対策推進法
○ 県教委・市教委重点目標

地域の実態

○ 地域の方々による、学校への積極的な協力
○ 結束力の高い町内会
○ 豊かな自然、地域の魅力を活かした施設
△ 固定化された人間関係

つながり 見つめ 一歩踏み出す 飯野っ子

○ 教師の願い
- 友達を思いやれる子に育ってほしい。
- 自分に自信をもってほしい。
- 友達のよさに気付ける子に育ってほしい。

○ 父母の願い
心優しい子に育ってほしい。
○ 地域の方の願い
飯野町のよさをたくさん知ってほしい。

児童の実態

○ 明るく、元気な児童が多い。
○ 三世代同居世帯が多く、様々な世代の人々との関わりが深い。
○ 友達と仲良く関わり、協力したり、助け合ったりすることができる。
△ 自分や友達のよいところに気が付くことが難しい。
△ 自己肯定感が低い。

道徳教育の重点目標

相手を思いやる心をもち、進んで親切にするとともに、友達と助け合いながら、よりよく生きようとする児童の育成

目指す子どもの姿

自他とつながり認め合い、自己をじっくりと見つめることを通して、よりよく生きるための一歩を踏み出そうとする子ども

学年別重点目標

低学年（1・2年）

◎ 身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。
○ 友達と仲良くし、助け合う。
○ 家族など、日頃世話になっている人々に感謝する。

中学年（3・4年）

◎ 相手のことを思いやり、進んで親切にする。
○ 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。
○ 家族など、支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。

高学年（5・6年）

◎ 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。
○友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていく。
○ 日々の生活が、家族や過去から多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応える。

他教科

国語	国語で正確に理解し、適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。思考力や想像力を養うこと及び、言語感覚を豊かにする。
社会	国土と歴史に対する理解と愛情を育み、自他の人格を尊重する公民的資質・能力を育む。
算数	日常の事象について筋道を立てて考えたり、判断したりできる力を育む。
理科	自然に親しみ、科学的な見方や考え方、自然を愛する心情、問題解決の能力を育てる。
生活	身近な人々や社会、自然と関わる活動を通して、自立し、生活を豊かにしようとする態度を養う。
音楽	音楽を愛好する心情や感性を育み、美しいものや崇高なものを尊重する心情を育てる。
図工	つくり出す喜びを味わい、美しいものや崇高なものを尊重する心情を育てる。
家庭	家庭生活をよりよくしようとする資質・能力や、家庭生活を大切にする心情を育む。
体育	粘り強さ、あいさつ、仲間との協力、勝敗を受け入れる、公正・公平な判断、仲間の考え方や取組を理解し、生活習慣の大切さを知り、自己の生活を見直す態度を養う。

要としての道徳科

◎ 児童が自己の生き方についての考えを深められるように、以下の３点を手立てとして道徳科授業の指導を工夫する。

1 児童が「多面的・多角的に考える」場を設ける。
2 児童が「自己を見つめ直す」場を設ける。
3 「家庭・地域とつながる」場を設ける。

特別活動

〈学級活動〉
学校生活の充実と向上のための自発的、自治的活動を促進する。
基本的生活習慣と望ましい人間関係を育成する。

〈児童会・クラブ活動〉
児童の発想を生かした創意ある活動を促進する。
異年齢集団活動の充実を図る。

〈学校行事〉
体験的な活動を充実させるとともに、自主的な活動を促進する。
集団活動を通して、所属感を深めるとともに、規範意識を高める。

家庭・地域との連携

- 授業参観やフリー参観日等で、道徳科授業を全学年実施
- 道徳授業への参加の呼びかけ（複数回）
- 「飯野っ子心のノート」の持ち帰りによる、家庭と道徳の授業内容（価値観）の共有
- 学校だよりや学年だより、ホームページでの道徳教育の発信
- 教育講演会への参加
- 道徳コーナーへの参加

総合的な学習の時間

主体的な探究活動を通して、飯野町のよさや伝統等、地域の人々が守り受け継いできたものや思いにも目を向けることを通して、地域への愛着をもつとともに、自己の生き方についての考えを深める。

幼保小中の連携

- 学期1回の幼保小中による情報交換会
- 小学校と中学校による授業公開
- 異校種での教員の1日交流授業
- 職場体験
- 交流授業の実施

外国語活動

外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、多面的に思考する態度を養う。

教育環境の整備

学校環境の美化・緑化

つながり 見つめ 一歩踏み出す 飯野っ子

目指す子どもの姿

他者とつながり認め合い、自己をじっくりと見つめることを通して、
よりよく生きるための一歩を踏み出そうとする子ども

教科等

４月　縦割り活動
○　異学年との接し方を学ぶ。上学年に掃除の仕方を優しく教わる。

４～６月　生活
単元名「がっこうだいすき」
○　学校にいる様々な先生にお世話になっていることに気付き、親しみの気持ちをもつ。

８月　国語
単元名「かいがら」
○　友達に思いやりをもって接する気持ちを捉える。

９月　国語
単元名「サラダで元気」
○　思いやりをもって行動する気持ちを押さえる。

２月　生活
単元名
「もうすぐ２ねんせい」
○　新１年生に学校のことを紹介する。小学校への期待感をもってもらえるように準備、発表をする。

３月　行事
〔6年生を送る会〕
○　お世話になった６年生のことを考えながら、友達と協力して準備をする。

道徳科

７月　主題名「あたたかい　こころ」
教材名「はやとの　ゴール」
［ねらい］
相手のことを考えて、優しく接することの大切さが分かり、親切な行為をしていこうとする心情を育てる。
［振り返り］

９月　学級活動
題材名
「かかりのしごとをしよう」
○　学級のために友達と活動することの楽しさを感じる。

１０月　学級活動
題材名
「みんななかよし」
○　友達のいいところを見つけて、カードに書いて渡す。

１１月　主題名「親切の心地よさ」
教材名「はしの上のおおかみ」
※ 保護者参加
［ねらい］
親切にしたときの気持ちよさを知り、誰に対しても思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。
［振り返り］

２月　主題名「相手の　気持ち」
教材名「ないちゃった」
※　校長先生、教頭先生の体験談
［ねらい］
相手の気持ちを考えて温かい心で接することで、お互いによい気持ちになることが分かり、身近にいる人に対して温かい気持ちで接しようとする心情を育てる。
［振り返り］

家庭・地域とのつながり

５月　行事
［運動会］
○　友達と励まし合いながら競技に取り組む。

１０月　縦割り活動
[飯野地元学フィールドワーク]
○　地域の方に、地域の名所を案内してもらい、地域に親しみをもつとともに、案内してくれた方に感謝の気持ちを伝える。

１０月　行事
［学習発表会］
○　仲間と教え合ったり、声をかけ合ったりしながら練習し、互いに達成感を味わう。

11・12月　生活
単元名「じぶんでできるよ」
○　自分でできることや手伝いを考え、家庭で実践する。

［学年全体の振り返り］

【資料】

「地域とのつながりの中で、よりよく生きようとする子どもの育成」

～家庭・地域と共につくる道徳教育を目指して～

つながる姿

友達とつながる

〈思いやりの姿を見つけ合う姿〉

家庭とつながる

〈保護者に認められる姿〉

地域とつながる

〈地域の方の体験談を聞く姿〉

〈友達と思いを伝え合う姿〉

見つめる姿

仲間と共に考える

〈友達の思いを自分事として受け止める姿〉

家庭とつながる

いつも本当に助かっています。たくさんの手伝いに感謝しています。いつもありがとう。私の右うでだよ。

〈5年：振り返りカードへの保護者コメントより〉

子どもが生まれるということは、両親が大切に、望んで生まれてきたのです。けんかもするでしょうし、嫌なこともあるでしょう。でも、我が子を大切に思わない親はいないのです。…

〈6年：保護者アンケートより〉

つながり
見つめ
一歩踏み出す
飯野っ子

一歩踏み出す姿

相手を思って動き出す

〈上級生が下級生に寄り添う姿〉

〈児童会で募集・作成した「親切、思いやり」キャラクター〉

勇気を力に一歩踏み出す

〈地域の方に作成したポスターを届ける姿〉

〈思いを受け止め自ら質問する姿〉

保護者と共に考える

〈保護者との役割演技で考えを深める姿〉

〈保護者の体験談に引き込まれる姿〉

石川地区道徳教育推進校「玉川村立須釜小学校」実施報告書

1　学校紹介

学校名	玉川村立須釜小学校
所在地	石川郡玉川村大字南須釜 字堂ノ内２００
校長名	鈴木　陽文
教育目標	すなおで思いやる子ども がまんづよくやりとげる子ども まなびあう子ども
学級及び児童生徒数	学　級　数　　７ 児　童　数　　８６名

2　研究テーマ

自分の生き方についての考えを深めようとする子どもの育成
～自己を見つめ、物事を多面的･多角的に考えて表現する道徳教育を通して～

3　研究テーマ設定の理由

本校は豊かな自然に囲まれた中で、こども園から９年間のつながりの中で学ぶことができる小規模校である。学校の教育活動に協力的な地域と、多くの人々により児童の活動が支えられている。素直で穏やかな児童が多く、縦割り班活動では、学年に関わらず交流活動を楽しむ様子が見られる。一方、幼少期から小学校卒業までの友人関係があまり変わらないこともあり、自分の考えを積極的に表現して伝えたり、多様な考えに触れたりする機会が限られており、物事を多面的･多角的にとらえて考えたり、表現したりすることに課題が見られている。

本校では、目指す児童の姿を、「すなおで思いやる子ども」「がまんづよくやりとげる子ども」「まなびあう子ども」とし、教育活動に取り組んでいる。そこで、各教科や行事などすべての教育活動の中で、自分･友だち･まわり（環境･地域）に目を向け、自分自身のよさや互いのよさに気づき、多様な考えを認め合う場を設定したり、多様な価値観に気付いたりできるようにさせたい。さらに、多面的・多角的に物事を考えることのよさや大切さに気付かせ、自分の生き方について考えを深めることができるようにしたいと考え、本テーマを設定した。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備　　考
４月２１日(金)	全体会(研究の概要について)	
５月　２日(火)	全体会(全体計画・主題の共通理解)	
５月３０日(火)	別葉の見直し	
６月１６日(金)	先進校視察研修（会津若松市立謹教小学校）２名参加	
６月２０日(火)	道徳科授業充実パワーアップ研修会	
７月１４日(金)	講師による校内研修会 講師：秋田公立美術大学　副学長　毛内　嘉威様	互見授業による授業改善
９月　１日(金)	第１回校内授業研究会 講師：秋田公立美術大学　副学長　毛内　嘉威様	
１０月　６日(金)	第２回校内授業研究会	
１１月　９日(木)	道徳教育地区別推進協議会 １・４・６学年授業公開 講演　秋田公立美術大学　副学長　毛内　嘉威様	
１２月　８日(金)	全体会(実践のまとめ)	
１月１２日(金)	今年度の研究の反省	
１月１９日(金)	反省の共有・まとめの作成	

５ 研究推進にあたって

【視点１】道徳教育の組織的取組について
①　道徳教育全体計画、別葉の充実と活用 〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉 　児童の実態や課題、教師や保護者、地域住民の願いを受け止め、道徳教育重点目標を明確にし、今年度の道徳教育全体計画を作成する。 　別葉については、今年度の重点指導項目(A　希望と勇気、努力と強い意志　B　礼儀)及び各ブロック重点指導項目(低学年A：節度、節制　中学年B：相互理解、寛容　高学年C：よりよい学校生活、集団生活の充実)について、学校行事・特別活動・各教科などとの関連を明確にして作成する。 〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉 　作成した別葉を週案などに綴じ込み、書き込みや記録をしやすくすることで、積極的に活用が図れるようにする。 ②　道徳教育推進教師を中心とした組織的取組 ・　現職教育推進教師を道徳教育における校内連携の要として位置付け、本校の目指す方向性と手立てについて整理し、具体的な取組の見通しを組織で共有するとともに、現職教育と連携しながら、伝達講習等により道徳教育の効果的な推進を図る。 ③　組織的取組の具体策 ・　一人一授業の校内授業研究と授業動画アーカイブによる互見授業を推進する。
【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫
①　児童がより深く考えられるような学習過程を工夫する。 ・　問題意識や疑問を生み出す発問を工夫し、資料の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解させる。 ・　現在の自分自身を振り返り、日常生活や学校生活を想起しながら考えさせる。 ②　問い返し発問の工夫 ・　本時で考える内容項目について、これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方など様々な角度から考えたり、照らし合わせて考えたりすることができるような発問を工夫する。 ③　授業者が研究授業の事前研究会や互見授業で多くの意見をもらい、指導案に生かすことで共同研究を深め、共に学ぶ道徳科の授業実践を行う。
【視点３】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について
①　児童の成長を複数の目で見取り、情報を共有することで評価の充実を目指す。 　校内の環境づくり・・・あいさつの木、写真コーナー、職員室だよりなど ②　ワークシートやICTの共同編集機能等を活用し、考えを表出させる方法を工夫することで、児童自身が自分の考え方や見方が変わってきたことや広がってきたことに気付けるようにする。
【視点４】ふくしま道徳教育資料集」等の活用について
①　年間指導計画に「ふくしま道徳教育資料集」を教材として扱う時間を、全学年で位置付けている。 ②　「福島ならでは」を、東日本大震災及び原子力災害の教訓の継承・郷土の文化や生活・豊かな自然と捉え、各種教育活動と関連させながら、活用していく。
【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について
①　授業参観で道徳の授業を公開したり、学年懇談会で保護者の感想や意見を話題とすることで、家庭との連携を図っていく。 ②　各行事での児童の姿やよさを認め、積極的に発信し、目指す姿を共有する。 ・　ＰＴＡ全体会、学校だより、学級通信、ホームページなど ③　行政や地域の関係団体、ＰＴＡと連携し、様々な行事の中で地域の方とのふれあいの場を設定するとともに、地域人材の活用を図り、地域との連携を強化する。 ・　森林学習、園小中交流活動、高校生との体験活動、特別支援学校との交流学習など

６「家庭･地域との連携」について

【ねらい】

保護者や地域の方との共通理解を図り、地域の人材や素材を活用した取組を生かすことで、道徳教育の充実を図っていく。

【概　要】

・　ＰＴＡ全体会で、学校で進めている道徳教育について説明したり、授業を体験する機会を設けたりして道徳教育への意識を高められるようにした。

・　授業参観で道徳の授業を公開した。また、保護者にも参加してもらう道徳の授業参観も実施した。学校でどのような道徳の授業が行われているのかを知ってもらうことで、学校と家庭のつながりを深めた。

・　道徳コーナーを作成し、教師側から児童に話題を投げかけ、児童が考えるコーナーを設けた。学校便りやホームページから同じ話題を投げ掛けることで、家庭でも道徳の話題が挙がり、学校･子ども･保護者が同じ話題でつながりを持つことができるようにした。

・　運動会やボランティア活動などの学校行事、地域おこし協力隊の方との授業や地域の特産品の収穫などの体験活動、園小中、特別支援学校との交流活動の機会を生かして、地域や地域の方との関わりを深め、その温かさに触れながらつながりを意識した活動を行うことができるようにした。

【成果と課題】

○　保護者･地域の方との体験的な活動や関わりが、児童の意欲を高め、主体的な学びにつながっていった。また、児童が多面的・多角的に物事を考え、多様な見方に触れることができる機会となった。

○　ＰＴＡの全体会、ホームページ、学校便り、学年便りなどで道徳教育について情報や話題を発信した。保護者の方から授業参観の感想をお聞きしたところ、「子どもの様子に成長を感じた。」「保護者同士のつながりを感じることができた。」等の意見をもらうことができ、道徳教育への関心の高まりを感じることができた。

●　今後も保護者や地域の方からの声を聞く機会を作り、道徳教育につなげていきたい。そのためには、道徳科の授業や行事への参加について積極的に呼びかけを続けて行くことが大切である。

７　成果と課題

○　指導案作成にあたり、構想シートづくりを取り入れた。グループで教材の分析を行い、児童の実態に沿った学習過程や学習形態などについて話をすることで、７学年を含めたチームで授業づくりができた。

○　児童が考えや思いを表出しやすくするための、ハートカードや心情曲線、ＩＣＴなどを用いた思考ツールの作成･活用について考えることの意識が高まった。児童の表現が豊かになり、考えを深めたり共有したりすることにつながった。

○　学校創立１５０周年記念の年を迎え、道徳科の授業だけではなく教育活動全体を通して道徳教育を行ってきた。児童は、学校生活や各行事においても、めあてをもって活動し達成感や充実感を味わうことができた。

●　授業づくりにおいては、児童が内容項目に迫り思考を深めていくため、発問（補助発問、中心発問）を精選し、問い返しなどの指導力を高めていきたい。

●　教材から考えたことを自分の生活の中でどのように深めていくかを考えさせたい。

令和5年度　特別の教科道徳教育全体計画

玉川村立須釜小学校

【児童の実態】
・上級生が下級生の面倒をよく見る。
・素直さ、優しさを持つ。
・挨拶はできる。考えを表現することは苦手。
・人間関係の固定化。特に同学年間が弱い。

【教師、保護者の願い】
・自己肯定感、自己表現力を持つ子
・自己の言動に責任を持つ子
・目標に向かって頑張ることができる子
・時と場をわきまえた礼儀正しい応対ができる子

【地域の実態】
・学校に対して比較的協力的である。
・両親共働きで、祖父母と協力して子育てをしている家庭が多い。

学校教育目標

豊かな心をもち、社会の変化に主体的に対応できるたくましい児童の育成
　〇すなおで思いやる子ども
　〇がまんづよくやりとげる子ども
　〇まなびあう子ども

日本国憲法
教育基本法
学習指導要領
県教育委員会の方針
いじめ防止対策推進法

道徳教育重点目標

① 相手のことを思いやり、親切にする子ども
② たくましい心と体を持ち、ねばり強くやりぬく子ども
③ よい生活習慣を身につけ、自分の生活をよりよくする子ども

学年ブロック重点目標

低学年	・自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行う。〈希望と勇気、努力と強い意志〉 ・気持ちのよいあいさつ、言葉遣いなどの基本的な生活習慣を身につける。〈礼儀〉 ・健康や安全に気を付け、わがままをしないで、規則正しい生活をする。〈節度、節制〉	中学年	・自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜く。〈希望と勇気、努力と強い意志〉 ・礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接する。〈礼儀〉 ・自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手を理解し、自分と異なる意見も大切にする。〈相互理解、寛容〉	高学年	・自分の目標を持ち、困難であってもくじけず努力し物事をやり抜く。〈希望と勇気、努力と強い意志〉 ・時と場をわきまえて、礼儀正しく真心を持って接する。〈礼儀〉 ・みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努める。 〈よりよい学校生活、集団生活の充実〉

家庭・地域社会との連携

〇家庭や地域社会との共通理解を深め、授業実施や地域教材の開発や活用を図るとともに、協力体制を充実、工夫していく。
〇保護者や地域社会の人々の積極的な参加や協力を得るなど相互の連携を図る。
〇学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たし、一貫した方針を保ちながら、児童の道徳性を豊かに育む。
〇今日、低下していると言われる家庭や地域社会におけるしつけや倫理観、社会性の育成などの教育機能を回復する。

各教科等

国語	「理解力」「表現力」「伝え合う力」を道徳教育を進めていく上での基礎ととらえ育成する。 国語を尊重する態度を育てる。
社会	地域の先人の働きや国土と歴史について理解させる。国民の義務や権利、基本的人権、行政の仕組みなどを理解させ、公民的資質を養う。
算数	日常の事象について、見通しをもち、筋道を立てて考え、表現する能力を育てる。数理的に物事を考えたり、処理したりすることを、生活や学習に活用しようとする態度を育てる。
理科	体験活動を通して、自然を愛する心情を育てる。問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方を養う。
生活	自然に親しみ、生命を大切にするなど、自然とのかかわりに関心を持たせる。自分の良さや可能性などについて考えさせ、生活上必要な習慣や自立への基礎を養う。
音楽	音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育てる。音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。
図工	表現や鑑賞の活動を通して、感性を働かせながらつくりだす喜びを味わわせる。造形的な創作活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。
家庭	日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身につけ、生活をよりよくしようとする態度を育てる。家庭生活を大切にする心情を育む。
体育	適切な運動の経験を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質と態度を育てる。健康と安全について理解させ、健康の保持増進を図り、楽しい明るい生活を営む態度を育てる。
外国語	外国語を通じてコミュニケーション能力の素地を養うとともに、言語や文化について体験的に理解を深めることで、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めようとする態度を育てる。

特別の教科　道徳の時間

〇全職員、保護者、地域が共通理解を深め、連携した指導体制を充実させる。

〇ボランティア活動や自然体験活動を生かすなど、多様な指導の工夫と魅力的な教材の開発や活用などを通して、児童の発達段階や特性を考慮した指導をする。

〇高学年においては、悩みや心の揺れ、葛藤などの課題を積極的に取り上げ、考えを深めるよう指導を工夫する。

〇道徳教育を進めるに当たっては、学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、学校の道徳教育の指導内容が児童の日常生活に生かされるようにしていく。

〇道徳の授業においては、道徳的価値内容の深化を図ることを基本する。

総合的な学習の時間

〇横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、主体的に判断して学習活動を進め、粘り強く考えて解決することを体験させる。（自己の目標の実現や他者と協調して生活する態度）

※児童の道徳性がより発展的、調和的に育っていくように考慮しながら指導にあたる。

特別活動

学級活動	〇学級や学校の生活がよりよくなるために、諸課題を見出し、主体的に取り上げ、協力して解決させる。 〇日常生活や学習への適応、健康安全に関わる学習を通して、自らの生活を振り返り、自己の目標を定め、努力する態度を育てる。
児童会活動	〇学校生活の充実と向上をめざし、異年齢の児童集団の中で、自主的・自発的活動に取り組ませる。
学校行事	〇集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。 〇さまざな体験活動を通して、他者と共生する態度を育てる。

生徒指導

〇自らの生活を振り返り、基本的な生活習慣が身につくように指導する。

〇よりよい学校生活、社会生活を営むために必要なことを理解させる。

〇生活目標をもって生活する意義を理解させる。

学校・学級環境

〇日々の学校や学級における人間関係が円滑になるように指導する。

〇豊かな情操を育てる環境づくり、安全で落ち着いた生活が送れるような環境づくりに努める。

その他の学校教育

〇 月の生活のめあて
〇 校外子ども会
〇 登下校の指導
〇 スクールバス利用児童への指導
〇 リサイクル活動
〇 あいさつ運動　　など

第6学年　道徳教育推進計画（別葉）

目指す児童像の具体	①相手のことを思いやり親切にする子ども　②たくましい心と体をもち、粘り強くやる抜く子ども　③よい生活習慣を身につけ、自分の生活をよりよくする子ども
学年目標	①自分の目標をもち、困難があってもくじけずに努力し物事をやり抜く子ども【希望と勇気、努力と強い意志】 ②時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接することができる子ども【礼儀】 ③みんなで協力し合ってより良い学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努める子ども【よりよい学校生活、集団生活の充実】

内容項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	A 主として自分自身に関すること						B 主として人との関わりに関すること					C 主として集団や社会との関わりに関すること							D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること			
	善悪の判断、自律、自由と責任	正直、誠実	節度、節制	個性の伸長	希望と勇気、努力と強い意志	真理の探究	親切、思いやり	感謝	礼儀	友情、信頼	相互理解・寛容	規則の尊重	公正、公平、社会正義	勤労、公共の精神	家族愛、家庭生活の充実	よりよい学校生活、集団生活の充実	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	国際理解・国際親善	生命の尊さ	自然愛護	感動、畏敬の念	よりよく生きる喜び
実施日		5月11日		4月19日				5月24日	5月30日	4月26日						4月7日						
計 35	1	2	1	2	2	1	2	2	1	1	2	2	2	1	1	3	1	1	2	2	2	1

月	時間	重点内容項目 希望と勇気 努力と強い意志	重点内容項目 礼儀	重点内容項目 よりよい学校生活 集団生活の充実	学校行事等	学級活動	教科等	その他
4	1			一年生のお世話係	入学式 避難訓練 交通安全教室 すがまっ子交流会	学級目標の作成 最上級生になって 学級の係を決めよう	社会科：わたしたちの生活と政治 算数科：各単元(通年) 体育科：各単元(通年)	鼓笛パレードに向けて委員会活動(通年)
	2							
	3							
5	4				交通安全パレード 運動会	運動会を成功させよう	総合：カンナ球根植え	租税教室 クラブ活動(通年)
	5							
	6		温かいおまんじゅう					
6	7				プール開き 授業参観		総合：園小交流会準備　園小交流会　定植活動	新聞社出前講座
	8	鑑真和尚						
	9							
	10							
7	11				修学旅行 教育相談	夏休みの計画		要請訪問
	12							
8	13			いらなくなったきまり		係を見直そう		
9	14					前期の反省 家庭学習を見直そう	総合：玉川村の遺跡探検　地域の偉人・達人	
	15							
	16							
10	17				学習発表会		国語科：言葉の変化	
	18							
	19							
	20							
11	21	きぼうの水族館 （ふくしま道徳教育資料集）			学校へ行こう週間		総合：花壇整理、カンナの球根掘り	
	22							
	23							
	24							
12	25				授業参観 第2学期終業式			
	26							
	27							
1	28				3学期始業式		外国語：What do you want to be? 総合：今までの自分、これからの自分	
	29							
	30							
2	31				授業参観			
	32							
	33							
3	34				6年生を送る会 卒業式 修了式	中学校への希望をもとう	国語科(書写)：今の思いを書き残そう	
	35			わたしはひろがる				

【資料】

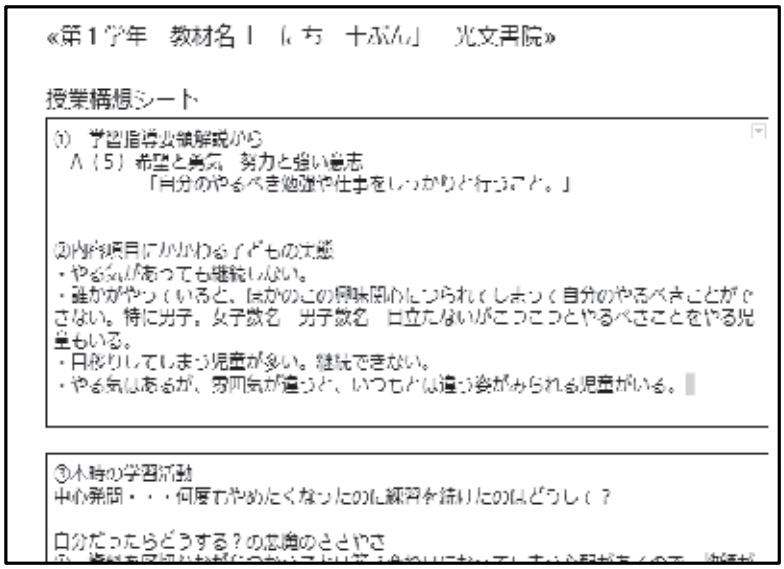
〈学校からの発信〉

道徳コーナーで
話題を提供

自分の考えを
シールで表出する

学校便りで発信

〈構想シートの作成〉


«第１学年　教材名「ふち　ぬぐう」　光文書院»

授業構想シート

①　学習指導要領解説から
A（5）希望と勇気、努力と強い意志
「自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。」

②内容項目にかかわる子どもの実態
・やる気があっても継続しない。
・誰かがやっていると、ほかのこの興味関心につられてしまって自分のやるべきことができない。特に男子。女子数名　男子数名　目立たないがこつこつとやるべきことをやる児童もいる。
・目移りしてしまう児童が多い。継続できない。
・やる気はあるが、雰囲気が違うと、いつもとは違う姿がみられる児童がいる。

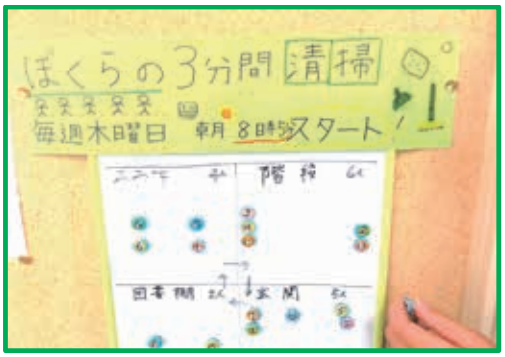
③本時の学習活動
中心発問・・・何度もやめたくなったのに練習を続けたのはどうして？

自分だったらどうする？の意識のささやき

指導導案作成の前に、グループで構想シートづくりを行いました。教材の分析や児童の実態を考えた発問づくりを行いました。

〈学校全体で取り組む道徳教育〉

地域ボランティアの方による
読み聞かせ



６年生児童の発案
ぼくらの３分間清掃（ボランティア活動）

県南地区道徳教育推進校「福島県立光南高等学校」実施報告書

1　学校紹介

学校名	福島県立光南高等学校
所在地	西白河郡矢吹町田町５３２
校長名	軽部　英敏
教育目標	知性と情操が豊かな人間の育成 健康で倫理観の豊かな人間の育成 社会性を備えた人間の育成
学級及び児童生徒数	学級数　１７（総合学科） 生徒数　５８９名

2　研究テーマ

自他との深い関わりを通じて、人間としての在り方、生き方を多方面・多角的に考え、自分の個性を生かして社会に貢献できる生徒の育成

～学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実と情報モラルの育成～

3　研究テーマ設定の理由

本校は、福島県の中通り南部の西白河郡矢吹町に位置し、豊かな自然環境の中にある単位制総合学科の高等学校である。校風を「自由」「責任」「創造」とし、生徒の多様な夢や希望を実現するため、「文理探求系列」「スポーツ科学系列」「家庭系列」「情報ビジネス系列」「芸術系列」「福祉系列」の６つの系列を有している。また、１年次には、総合学科特有の科目「産業社会と人間」において、生徒に体験学習や討論などを通して、自己の生き方を深く追究させ、現実の産業社会やその中での自己の在り方、生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度の育成を図っている。さらに１００を超える選択科目を有し、漢字検定や英語検定、各種商業検定等も単位認定している。また、スマートフォンを含むICT機器を活用した学習や体験活動の充実など、多様な個性に対応する教育活動を地域の協力を得ながら進めている。一方、自分自身に対して自信が持てず不登校になる生徒がいたり、スマートフォン等の誤った使い方によるトラブルが発生したりしているのも事実である。このような生徒指導上の問題は、発生や原因が大人からは見えにくいという特徴があり、教員による指導だけでは解決が困難な問題であると考えられる。

そこで、学校の教育活動全体をとおして行う道徳教育において、自他との深い関わりを通じて、人間としての在り方、生き方を多面的・多角的に考える場を充実させることで、生徒が自分自身に自信を持ち、地域社会の中で個性を発揮する態度を養うようにしていく。また、情報モラル教育との関連も図り、生徒が友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち、人間関係を深め、それぞれの個性や立場を尊重し合えるよう、道徳性を高めるようにしていく。なお、本校が昨年度までICT指導開発推進校に指定され、それを活用した効果的な教育活動に取り組んでいたことを踏まえて研究を推進するようにしていきたい。

以上のことから、研究テーマを「自他との深い関わりを通じて、人間としての在り方、生き方を多方面・多角的に考え、自分の個性を生かして社会に貢献できる生徒の育成」、サブテーマを「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実と情報モラルの育成」と設定し、道徳教育を充実させていきたい。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備考
５月上旬	道徳教育の全体計画の教職員への提示と共有	
５月　２日（火）	大池公園　環境整備ボランティア　４６名参加	
５月１８日（木）	情報モラル講演会 講話講師：県南少年サポートセンター　渡部　裕絵　様	
６月下旬	事前アンケート（１年次対象）	
６月３０日（金）	薬物乱用防止教室 講話講師：白河警察署　生活安全課　金児　俊雄　様	
８月夏季休業中	「モラル・エッセイ」コンテストへの参加	
９月　５日（火）	道徳教育に関する校内研修　講演「学校の教育活動全体で行う道徳教育の充実のために」 講話講師：秋田公立美術大学　副学長　毛内　嘉威　様	
１０月　３日（火）	校内研修（指導案検討会）	
１０月１３日（金）	校内授業研究会（ふくしま道徳教育資料集の活用） 授業者　渡邉 康介　１年１組　（ロングホームルーム） 指導助言者：県南教育事務所　指導主事　有馬　光一	
１０月１８日（水）	道徳教育地区別推進協議会 第１学年全クラス授業公開　教科名「産業社会と人間」 講師：会津農林高等学校　校　長　佐藤　文男　様 福島県教育庁義務教育課　指導主事　江花　洋介 福島県教育庁県南教育事務所　社会教育主事兼指導主事　角田　修 福島県教育庁県南教育事務所　指導主事　有馬　光一	
１２月２０日（水）	先進校視察：千葉県立小金高校（千葉県教育委員会指定　道徳教育推進校）２名	
１月２３日（火）	道徳教育校内研修（先進校視察伝達講習）	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育の組織的取組について

① 道徳教育全体計画、別葉の充実と活用

〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉

単位制総合学科である光南高校に学ぶ意義を十分に理解しつつ、常に理想を追求し、かつ、日々自らを高め、自立性のある自己の確立に努めるとともに、「他」との深い関わりの中での自己の存在を認識し、自らの信念のもと主体的に学び生きる「個」の完成を目指す生徒を、望ましい光南高校の生徒像としている。道徳教育全体計画の作成にあたっては、この生徒像の実現のために、各年次、各学習系列との横断的な取組を展開し、道徳教育を実践できるよう配慮する。

〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉

職員会議において、道徳教育の全体計画を提示し、各年次、各学習系列との横断的な取組を推進し、かつ、道徳教育に特に関連がある「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「特別活動」において、計画に関連付けて授業を行うようにする。

② 道徳教育推進教師を中心とした組織的取組

教頭と学習指導部が中心となり道徳教育を推進している。道徳教育が、すべての教科、学校行事において関連することを全職員に周知することで、組織的に推進する。

③ 組織的取組の具体策

総合学科特有の教科として「産業社会と人間」がある。この教科については、現実の産業社会やその中での自己の在り方、生き方について認識させ、豊かな社会を築くために積極的に寄与する意欲や態度の育成を図ることを目標としており、道徳教育の重点目標と関連性が深いことから、教科の授業の実践において道徳教育の推進を図るようにする。

【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳教育の工夫

① 自己を見つめる場の設定

・各教科等の指導においては、生徒自身が自己を見つめ、人間としての在り方、生き方を考える場の設定を行う。その際に、生徒自身が興味や関心を持ち、主体的に自己を見つめる機会が持てるような課題設定を行う。

② 深い学びを実現する場の設定

・グループ活動を通して、多様な見方や考え方に触れ、物事を多角的にとらえる視点を培うようにする。

・自分の考えを明確に持つとともに、他人の考えを取り入れながら、課題解決への最適解を検証し、自分の考えをさらに深める。

【視点３】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

① 各教科等及び行事等の生徒の感想や生徒一人一人の活動の様子、普段の学校生活における他人とのかかわり等、生徒の具体的な姿を評価する。

② 物事を多面的・多角的に考え、自分の価値観に気づき、よりよい生き方への目標を持とうとする態度が養われているかを指導者側の自己評価の指標とする。

【視点４】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について

① ふくしま道徳教育資料集を活用することで、生徒の自己肯定感の向上、人とのつながりの大切さや命の尊さについて考えさせる機会とする。

② LHR(ロングホームルーム)の時間にふくしま道徳教育資料集を教材として活用する。

③ 東日本大震災を経験した人々の気持ちの葛藤等を多面的・多角的に考えることで、これからの自己の在り方、生き方につなげることができるようにする。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

① 地域・社会の関わりの中で、協働しながら課題を解決していく力を身につけるために、また、地域社会の一員としての自覚を持ち郷土愛を深められるよう、矢吹中学校と連携し町内のごみ拾いボランティア活動を実施するなど、人とのコミュニケーションを通じて、道徳的な判断力や実践力の向上を図る。

② ３年次総合的な探究の時間（課題研究）の校内課題研究発表会は、令和元年度から矢吹町の学力向上推進支援事業（今年度より矢吹町つなぐ教育推進支援事業）の一環として位置付けられていることから、保護者や地域の方々はもとより、町内の幼稚園・小中学校の教員が参観することとなっている。この成果を発表することで、生徒が自ら考え主体的に行動する姿を地域の方々に発信する。

６「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

１　矢吹町社会福祉協議会と連携し、大池公園環境整備ボランティア活動等に参加することで、生徒のボランティア精神を養う。

２　矢吹町社会福祉協議会と連携し、矢吹中学校の１年生が福祉について楽しく学ぶことができるよう高齢者疑似体験及び車いす体験を実施することで、人と接する際の心構えや介護の技術・知識を身につけ、自らの資質を養う。

【概要】

１（１）大池公園環境整備ボランティア　４６名参加

（２）ゲートボール大会へのお手伝い　矢吹町内開催

２　矢吹中学校出前講座

福祉介護系列選択生徒　第３学年３名、第２学年１１名　参加

【成果と課題】

○　生徒が、地域の方々と協力して大池公園を清掃することで社会貢献への視野が広まった。また、地域の方々から声をかけていただいたことで、生徒の達成感や自己有用感が高まった。

○　中学１年生に対して、「分かりやすく説明するには・・・。」など事前の準備で苦労していた様子も見られたが、生徒が学習した成果を発表するよい機会となり、自分の将来に向けての自信が持てた。

●　家庭との連携という視点では、学校行事や探究活動で実施することができず、十分な成果が得られなかった。

〈福祉介護系列生徒による矢吹中学校出前講座〉

〈大池公園環境整備ボランティア〉

７　成果と課題

○　高等学校では、特別な教科「道徳」が設定されておらず、高等学校学習指導要領において、「道徳教育は、人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことによりその充実を図るもの」としている。本校は、総合学科であり、「道徳」と関連が深い、自己の在り方生き方について考えさせる教科「産業社会と人間」があることから、教職員は、その教科を中心に組織的な道徳教育の推進をすることができた。

○　今回、道徳教育推進校に指定され研究を実践するにあたり、特に意識したことは「研究のための研究はしない。」という点である。ＩＣＴ指導開発推進校であったことを踏まえ、生徒の実態を考慮し、情報モラルの育成に観点を置いて研究授業を実践した。これらの授業は、来年度以降も「産業社会と人間」や「ロングホームルーム」で継続して行っていく。

○　「産業社会と人間」の研究授業において、一斉配信の形態で授業を行った。配信担当の教員が教室での生徒の活動状況が確認しづらいなどの課題もあったが、この形態で授業を行えたことは大きな成果である。

○　今年度、本校で行った道徳教育地区別推進協議会は、学校の先生方と学校関係者（保護者と地域の方々）に参加していただき、それぞれの立場から道徳教育や情報モラル教育についての成果と課題について情報共有できたことは貴重な機会となった。

○　生徒へのアンケートで、生徒の考えやその変容を確認することができた。また、それを踏まえ授業の展開を工夫することができた。

●　高等学校では教科としての「道徳」がない状況にあり、小・中学校と同様な取組を行うことは難しい。各高校の実情や課題を踏まえ、「道徳」の授業を柔軟に行えるような配慮や方法の工夫が必要だと感じた。

令和５年度道徳教育全体計画

福島県立光南高等学校　全日制の課程　総合学科

学校・生徒・地域の実態

平成8年、単位制総合学科として開校した。6つの特徴的な学習系列がある。明確な目的意識を持つ生徒が多く、生徒会活動・部活津では生き生きとした姿が見られる。
保護者は、PTA活動に積極的参加し、ボランティア活動・職業体験など地域と提携を結び交流も盛んである。

関係法規等

〇日本国憲法　〇教育基本法　〇学校教育法
〇学習指導要領　**〇第7次福島県総合教育計画**

望ましい光南高校生像

単位制総合学科である光南高校に学ぶ意義を十分に理解し、常に理想を追求し、日々自らを高め、自立性のある自己の確立に努めるとともに、「他」との深い関わりの中での自己の存在を認識し、自らの信念のもと主体的に学び生きる「個」の完成を目指す生徒

スクールイメージ

自由
創造
責任

教育目標	学校経営方針
〇知性と情操が豊かな人間を育成する。 〇健康で倫理観の豊かな人間を育成する。 〇社会性を備えた人間を育成する。	〇多様な個性が融和しながら学ぶ学校 〇社会の中に順応し生き抜く力を育む学校 〇安全に安心して学ぶことのできる学校

学校全体の道徳教育の重点目標

〇人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、豊かな心を育むと共に道徳性を養う。
〇伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る人間を育成する。
〇公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努める人間を育成する。
〇他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する人間を育成する。
〇未来を拓く主体性のある日本人を育成する。

教育活動全体での道徳教育の目標

各年次の道徳教育の目標

生徒や保護者との信頼関係を形成し、地域と連携しながら道徳教育を推進する基盤を築く。

文理探究系列 道徳教育目標	スポーツ系列 道徳教育目標	家庭系列 道徳教育目標	芸術系列 道徳教育目標	情報ビジネス系列 道徳教育目標	福祉系列 道徳教育目標
各教科、各系列との横断的な取り組みを展開しながら、人間としての在り方・生き方を含む道徳的態度を養う。					

学習指導部の 道徳教育目標	総務部の 道徳教育目標	生徒指導部の 道徳教育目標	進路指導部の 道徳教育目標
道徳に関する情報の提供や研修等、全体計画の立案と共通理解の形成や道徳教育の改善を図る。	各種行事の立案を行う。またPTAや同窓会と連携する。	生徒の道徳性を育む活動として、校則の遵守や各講演会の実施、また、警察との連携を図る。	生徒の自己実現に努め、進路の情報収集や提供にあたる。また、卒業生や地元企業との連携を図る。

科目「産業社会と人間」との連携	「総合的な探究の時間」との連携	特別活動における指導
〇自己の在り方生き方を再確認をする 〇学び方について学ぶ 〇職業と社会を知る 〇進路をふまえた科目選択を行う このことを目的とするこの科目を通して、将来のライフプランを作り、今何をすべきかを考えて行動できる人間の育成を図る。	〇進路先調査 〇自己肯定感の根拠となるものの確立 このことを目的とする時間を通して、進路希望を達成するための具体的な手立てとする。「産業社会と人間」で作成したライフプランの実現のための力を身につける。	〇ホームルーム活動 〇学校行事 望ましい人間関係を形成し、集団の一員として諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

保護者・地域と連携した道徳教育の目標

〇生徒の変化を見逃さず、家庭と情報共有し、信頼感に基づく協力体制を築く。
〇これまでの地域との交流を大切にし、地域とともに生徒を育てる学校づくりを目指す。
〇ホームページ等を通して、情報の公開と発信に努める。

会津地区道徳教育推進校「喜多方市立第三小学校」実施報告書

1　学校紹介

学校名	喜多方市立第三小学校
所在地	喜多方市岩月町喜多方字林崎５９１番地１
校長名	河野　公寿
教育目標	「高き松の子」の育成
学級及び児童生徒数	学　級　数　６ 児　童　数　７３名

2　研究テーマ

「考え議論する道徳」をめざした指導法の工夫　～発問の研究を通して～

3　研究テーマ設定の理由

本校は、豊かな自然に囲まれ、市の中心的な産業である農業を通して体験的な学びをする環境に恵まれている。市の取組である総合的な学習の時間における農業科の学習を通して、地域の方との触れ合いも多く、自然や地域を生かした教育活動が充実している。本校の児童は、明るく素直で、学年を超えて仲がよく、縦割り班活動を通した異学年との交流にも積極的に参加している。その反面、同学年の友達関係が固定化し、協働的に学び合う力に課題が見られる。そのような課題を踏まえ、児童の友達関係を豊かにし、深い学びの実現に向けて、道徳科の授業を要とし、教育活動全体を通して児童が周りから認められているという気持ちを高め、考え合うことができる学級集団づくりに取り組んでいる。また、授業を支える基盤づくりとして、「４つのあ（あいさつ・安全・あとしまつ・あたたかい言葉づかい）」を合い言葉に、よりよい人間関係の醸成を行っている。

現職教育では、「考え議論する道徳」の実現をめざして、発問の研究に継続して取り組んでいる。児童が考えたい、友達と話し合いたいと思える発問について研究することを通して、児童の主体的・対話的で深い学びを実現し、教育課程全体を通して道徳性の育成を図ることができるよう、研究テーマを設定した。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備考
４月２１日（金）	研究推進委員会（研修計画・組織編制について）	
４月２８日（金）	第１回現職教育協議会（道徳教育推進の検討）	
６月　２日（金）	第１回校内授業研究会（２年）	
６月　６日（火）	福島県道徳教育推進協議会	
６月１３日（火）	第２回校内授業研究会（４年）	
６月３０日（金）	第２回現職教育協議会（研究の方向性について）	
８月２８日（月）	第３回現職教育協議会（道徳科の評価について）	
９月２９日（金）	第３回校内授業研究会（６年） 指導助言者　会津教育事務所学校教育課　指導主事　松井　誓子	
１０月　６日（金）	第４回校内授業研究会（４年） 指導助言者　会津教育事務所学校教育課　指導主事　松井　誓子	
１０月１３日（金）	第４回現職教育協議会（指導案検討）	
１１月１３日（月）	道徳教育地区別推進協議会　（１・３・５年） 講師　秋田公立美術大学副学長　毛内　嘉威　様	
１２月１５日（金）	第５回現職教育協議会（研究のまとめ）	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育の組織的取組について

①　道徳教育全体計画、別葉の充実と活用

〈充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉

昨年度、本校の教育目標具現のため、保護者の意見も取り入れて「めざす児童像」を設定する。特に徳育に関わる部分の児童像「希望にあふれ、助け合う子」を実現するために、以下のような道徳教育の重点目標を設定した。現職教育での共通理解のもと、道徳科の授業をはじめ、教育活動全体を通して道徳教育の推進に取り組む。

○　他人の立場を理解し、助け合い励まし合う子どもを育てる
○　めあてをもって、根気強くやり遂げる子どもを育てる

別葉については各教科、学校行事と関連付けて道徳的諸価値を捉えることができるように工夫する。

〈活用上の工夫点、配慮点〉

今年度実践していく中で、別葉は週案に綴じ、改善点をすぐにチェックできるようにする。また、毎月の生徒指導協議会でも子どもたちの状況を全職員で共有し、生徒指導と道徳教育の連携を図っている。

②　道徳教育推進教師を中心とした組織的取組

本校では研修主任が道徳教育推進教師を兼任し、全校で道徳教育の研究に取り組んでいる。本校の道徳教育の重点目標が達成できるよう、全学年研究実践を進めている。

③　子どもたちが考えたい、話し合いたいと思う発問や授業展開を協働しながら作り上げる

全職員で指導案検討会や模擬授業を行うことを通して、子どもたちに考えさせたい価値を明確にし、道徳的諸価値への気づきを促すための発問や授業展開を検討している。模擬授業を行うことで、授業者の考えをアウトプットできるようにし、それらを基に子どもの思考の流れに寄り添った発問や授業展開、板書などを考え合っている。

【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

①　本時の主題に関わる子どもたちの実態を事前アンケート等で捉え、子どもたちが本時の価値を自分事として考えることができるように、事前アンケートを提示するタイミングを検討するなど、その有効的な活用を図る。
②　子どもたちの問題意識を高める「中心発問」と「補助発問」を精選する。
③　子どもたちが道徳的諸価値について考え合うことを通して、互いの価値観を交流させ、多面的に考えることができるようにする。
④　身近な人物や出来事を取り上げ、考えさせることを通して、道徳的諸価値について多角的に考えることができるようにする。

【視点３】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

①　学級担任が一人一人の成長を積極的に受け止めながら、適切に評価できるようにするために、評価に関する研修を校内で実施する。
②　子どもたちの道徳性の高まりを評価するために、自己を振り返る時間や授業で考えたことを表現するための時間を確保する。
③　同じ価値項目について、学習の振り返りシートをＩＣＴの活用により、子どもたちの道徳性の高まりを可視化し、自己を見つめることができるようにする。

【視点４】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について

①　全学年の年間指導計画に「ふくしま道徳教育資料集」を教材や読み物として扱う時間を、位置付ける。
②　東日本大震災の記憶を風化させないために、防災教育や放射線教育と関連させながら、積極的に「ふくしま道徳教育資料集」を活用する。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

①　学校だよりや学年だより、学校ホームページで道徳科の授業の様子や子どもたちの考え等を地域や保護者に伝える。
②　子どもたちの豊かな道徳性を育むために、地域人材の活用を図り、地域の方や関係団体、ＰＴＡと積極的に連携する。
③　公民館の青少年育成事業と連携し、地域の方にも授業参観や講演を聞いてもらい、地域全体で子どもたちの道徳性を養う風土を培う。

6「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

家庭、地域と連携を図りながら、子どもたちの道徳性の育成を図る。

【概要】

・　授業参観で「親子道徳」を行い、親子で話し合ったり、それぞれの考えを聞き合ったりする活動を行う。
・　道徳の学習や学校の様子を学校ホームページや学校だより、学年だよりを通して発信し、家庭、地域と連携し、子どもたちの道徳性の育成を図る。
・　農業科支援員との関わりを通して、あいさつや礼儀、命の大切さについて学ぶ。

【成果と課題】

○　「親子道徳」の実践を通し、親子で話し合ったり、それぞれの考えを聞き合ったりする活動を行うことで、いつも以上に互いの価値観の違いを感じるとともに、道徳的価値についてより深く感じることができた。
○　保護者や地元公民館等の地域の方にご協力を得ながら、交流を図った教育活動や道徳の学習を展開することができた。それらを学校ホームページや学校だより、学年だよりを通して発信し、保護者や地域との連携・協働を進めることができた。
○　農業科支援員や家庭、地域の方との関わりを通して、子どもたちは熱心に活動される姿や専門的な知識、優しい関わりを含めた生き方について考える機会となり、他者と関わる素地などが育まれた。
●　「親子道徳」の実践は、同じ地域で子どもを育てる保護者の方々にもよい機会となったので、継続的に取り組んでいきたい。次年度は年間指導計画に位置付け、全学年で実施していく。

〈一緒に考えてみよう〉

〈豊かな関わりの中で・・・〉

7　成果と課題

○　道徳科の教科書や「ふくしま道徳教育資料集」を基に、身の回りのことを取り上げたり、地域の方に協力してもらったりしながら、考える活動を充実させ、発問を工夫することで、より子どもたちが道徳的価値について自分事として捉え、深く考えることができた。
○　全ての学年の道徳科の授業を全職員で協議・検討を重ね授業研究を行ったことにより、道徳科の指導力の向上のみならず、道徳科で培った指導力を他教科にも生かすことができ、それぞれの教師の指導力の向上につながった。
○　全職員で研究に取り組んできたことにより、教職員の相互理解、協力関係が醸成され、学校としての組織力が向上し、学校行事等においても連携、協力して進めることができた。
○　保護者や地域の方々との関わりによって、相手意識や周りから認められていると感じる気持ちの高まりが見られた。そのような機会を通して、これまで以上に子どもたちの道徳性が育まれていると感じるとともに、地域に開かれた学校の具現化に向けた本校の方向性を見いだすことができた。
●　道徳教育を推進していく上で、家庭・地域との連携は必要不可欠である。今年度は、コロナ禍における制限が緩和されたことにより、家庭・地域と関わる機会を増やすことができた。今後更に、計画的に実施し、学校だけではなく、家庭や地域にとっても豊かな学びになるようにしていきたい。

喜多方市立第三小学校 道徳教育 の全体計画

日本国憲法
教育基本法
学習指導要領
福島県の重点事項
喜多方市の重点事項

（学校の教育目標）
「高き松の子」の育成
○　たくましい子
○　考え合う子
○　希望にあふれ，助け合う子

児童の実態
・　素直な児童が多い。
・　興味のあることに進んで取り組む。
・　苦手なことはすぐにあきらめてしまう児童が多い。

特　別　活　動
（学級活動）
学級を単位とする自発的，自治的な活動を通して，望ましい人間関係を形成し，よりよい生活づくりに参画する態度を育てるとともに，自らの生活を振り返り健全な生活を送ろうとする態度を育てる。
（児童会活動）
異年齢集団による自発的，自治的な活動を通して，異年齢による望ましい人間関係を形成し，よりよい学校生活づくりに参画する態度を育てる。
（クラブ活動）
共通の興味・関心を追求する活動を通して，望ましい人間関係の形成，個性の伸長，よりよいクラブ活動づくりに参画する態度を育てる。
（学校行事）
学校生活の充実に資する活動及び社会的，自然的体験活動を通して，望ましい人間関係，自律的態度，協力，責任，公徳心，勤労，社会奉仕などにかかわる道徳性を育てる。

道徳教育の重点目標
＊　正しく判断し，進んで行動する子どもを育てる。
＊　<u>他人の立場を理解し，助け合い励まし合う子どもを育てる。</u>
＊　命を慈しみお互いの心を大切にする子どもを育てる。
＊　<u>めあてを持って，根気強くやり遂げる子どもを育てる。</u>
（下線部，今年度の重点）

保護者教師の願い
・　相手の心の痛みがわかり，相手の立場や気持ちを考えて行動する。
・　目標に向かって粘り強く実行する。

特別の教科 道徳　の指導
児童が，ねらいとする道徳的価値を自分の課題として受け止め，多面的・多角的な考えをもち，対話的な活動を通して，よりよく生きようとする意欲を育むことを目指す。
・　自らを振り返って成長を実感したり，これからの課題や目標を見つけたりできるようにする。
・　児童同士の協働，教員や地域の人との対話等から自分と異なる意見と向き合い議論する。

各　教　科
○　指導内容・方法の改善，充実を図り，児童一人一人の感じる力や考える力の育成に努める。
○　児童一人一人の個性，能力に応じた指導の展開に努めるとともに相互に協力し合い励まし合う学習態度の育成に努める。
○　各教科の指導内容，教材等で道徳教育に深くかかわるものを通して，道徳性を養う。
○　見学，実験，観察，グループ学習，共同製作などの学習方法や学習形態を通し望ましい人間関係のあり方を児童に示し，児童を感化していく。

生　徒　指　導
○　日常生活全体を通して，基本的な生活習慣，礼儀等の生活上の約束，社会生活にかかわるきまりを身に付けせるとともに，集団や社会の一員として自覚をもって行動しようとする態度を育てる。
○　教師と児童，児童相互の人間関係を豊かにし，信頼と尊敬，助け合いと思いやり，協力や感謝の心などを育てる。
○　いじめ防止基本方針にもとづき，居心地のよい学校づくりにつとめるとともに早期期発見・早期対応で未然防止に努める。

重点化に対応した指導内容
《全学年共通した重点内容》
Ａ善悪の判断，自律，自由と責任
Ｃ規則の尊重　約束や社会のきまりの意義を理解しそれらを守ること。
【発達段階に応じた重点内容】
《低学年》
Ｂ親切，思いやり　身近にいる人にあたたかい心で接し，親切にすること。
《中学年》
Ｂ親切，思いやり　相手のことを思いやり，進んで親切にすること。
《高学年》
Ｂ親切，思いやり　誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること。

総合的な学習の時間
○　現代社会の課題に対する積極的，総合的な学習や探究的な学習を通して，自己の生き方を考えようとする態度を育てるとともに，粘り強く考えようとする態度，他者と協調して解決を図ろうとする態度を育てる。

指導方法の工夫
児童が多様な感じ方考え方に接する中で，考えを深め，判断し，表現する力を育むために言語活動の充実を図る。
・問題解決的な学習
・道徳的行為に関する体験的学習
・いじめ問題に対応する指導

<u>道徳科の別葉の活用</u>を意図的・計画的に行い，横断的・総合的に道徳的判断力を育成するようにする。

・別葉は週案にとじる

豊かな体験
全教育活動において，道徳的実践力を培ったり，道徳的実践を促したりするための豊かな体験の場を充実する。
・人，物，自然とのふれあい
・各教科の学習
・特別活動の学習
・総合的な学習の時間の学習
・外国語活動の時間
・道徳科に生かす

家庭・地域等との連携
学校，家庭，地域三者の相互理解を深め交流を密にし，協力体制をととのえる。
・　PTA の諸活動，授業参観日の活用
・　学校・学年だよりでの児童の姿の積極的な情報発信
・「ふくしま道徳資料集」の活用

道徳と教科等との関連　小学校 3学年 年間カリキュラム

喜多方第三小学校

各教科の指導計画作成の手引き　及び
道徳テーマ別関連表　をもとに

全学年を通しての重点指導内容	
	A　善悪の判断，自律，自由と責任
	C　規則の尊重

中学年の重点指導内容	
	B　親切、思いやり
	C　規則の尊重

	教科他／月		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	道徳		貝がら	ソフトボールで金メダルを　上野由岐子	フローレンス・ナイチンゲール物語	しんぱんは自分たちで	まっかなタ日	六さいのおよめさん	一まいの銀貨	パラリンピックにねがいをこめて（総）	すきなことだから　高橋尚子物語	家のパソコンで	メニューにない料理
		価値	B　友情・信頼	A　希望と勇気、努力と強い意志	B　親切、思いやり	C　公正、公平、社会正義	D　感動、畏敬の念	D　生命の尊さ	C　家族愛、家族生活の充実	C　公正、公平、社会正義	A　希望と勇気、努力と強い意志	C　規則の尊重	B　親切、思いやり
			あめ玉	目の見えない犬	あと、ひと言	ひきがえるとろば	見つからないリコーダー	鬼太郎をかいたゲゲさん	心をつないだ合言葉	わらじ作り	ふくしま道徳教育資料集<がんばらやんばい>	思いをこめて	幸福の王子
		価値	C　規則の尊重	D　生命尊重	A　善悪の判断、自律、自由と責任	D　生命の尊さ	A　節度、節制	A　個性の伸長	D　伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	C　勤労、公共の精神	B　感謝	C　国際理解、国際親善	D　感動、畏敬の念
			金色の魚	アメリカから来たサラさん	まどガラスと魚	けい君の秋田竿燈まつり	なかよしポスト	おじいさんの「こんにちは」	絵葉書と切手	ハチドリのひとしずく	言い出せなくて	明るくなった友だち	
		価値	A　節度・節制	C　国際理解、国際親善	A　正直、誠実	D　伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	C よりよい学校生活、集団生活の充実	B　礼儀	B　友情、信頼	D　自然愛護	A　善悪の判断、自律、自由と責任	B　友情、信頼	
							心にひびくかねの音	みんなの学級会	ぼかぼか言葉				
		価値					A　善悪の判断、自律、自由と責任	B　相互理解、寛容	B　親切、思いやり				
	学校行事		1学期始業式　　入学式 発育測定 交通教室 遠足　避難訓練　眼科検診 視力検査	運動会 歯科検診 防犯教室 内科検診	避難訓練 耳鼻科検診	1学期終業式 校内水泳記録会 8月 2学期始業式	避難訓練 森林環境学習 鑑賞教室	ファミリー参観 持久走記録会 学習発表会 交通安全鼓笛パレード	収穫祭	2学期終業式	3学期始業式	節分集会 避難訓練 スキー教室	6年生を送る会 修・卒業式
	特別活動		学級の係と前期の委員会を相談しよう 学級の問題を話し合おう 3年生になって	運動会の参加の仕方を考えよう 議題箱を設置しよう 放射線の特徴を知ろう 学級力アンケートを通して考えよう	議題箱から 雨の日の過ごし方を考えよう 食べ物のはたらきを知ろう 本を大切に	1学期の反省をしよう メディアとのつきあい方を考えよう	学級の係について話し合おう 学級力アンケートを通して考えよう ことばづかいについて考えよう	学習発表会について話し合おう よい歯の教室 ホットスポットってなんだ 持久走記録会に向けての目標を持つ	○○集会の相談をしよう ○○集会をしよう 進んで働こう	2学期の反省をしよう 楽しい冬休みにしよう	3学期のめあてを決めよう 学級の係を決めよう かぜなんかに負けないぞ	心のおにをたいじしよう 6年生を送る会について話し合おう 3年生さよなら会の相談をしよう	3年生さよなら会をしよう 防災について 1年間の反省をしよう もうすぐ4年生
	外国語活動		Hello!あいさつをして友だちになろう	How are you?ごきげんいかが？	How many?数えてあそぼう	I like blue.すきなものをつたえよう	What do you like?何がすき？	ALPHABETアルファベットとなかよし	This is for you.カードをおくろう	What's this?これなあに？①	What's this?これなあに？②	Who are you?きみはだれ？①	Who are you?きみはだれ？②
	総合的な学習		○総合って何？ ○喜多方の食べ物を調べよう ・どんな食べ物があるかな	・有名なものを選んで調べよう	・選んだ食べ物について調べよう ・生産者の方に話を聞こう	○大豆について調べよう	○喜多方の食べ物について調べよう ○大豆のことを調べよう			○大豆の学習についてまとめよう ○こづゆについて調べよう	○こづゆについて調べよう ○こづゆを作って食べよう	○ふるさとの食べ物についてまとめよう	○ふるさとの食べ物について調べたことを発表しよう
会社	教科		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
光村	国語		「きつつきの商売」⑧ 「春のくらし」② 「もっと知りたい、友だちのこと」②	「言葉で遊ぼう こまを楽しむ」⑧	「なつのくらし」②			「ちいちゃんのかげおくり」⑫ A善悪の判断、自律、自由と責任 「秋のくらし」②		「短歌を楽しもう」① 「三年とうげ」⑥ B親切、思いやり	「冬のくらし」②		「モチモチの木」⑮ B親切、思いやり
東書	社会		1わたしのまち　みんなのまち ○学校のまわり 1　市の様子	1わたしのまち　みんなのまち 1　市の様子	1　市の様子 2はたらく人と私たちのくらし 1農業の仕事/工場の仕事（選択）	2はたらく人とわたしたちのくらし 1農業の仕事/工場の仕事（選択）	2はたらく人とわたしたちのくらし 2　店ではたらく人	2はたらく人とわたしたちのくらし 2　店ではたらく人	2はたらく人とわたしたちのくらし 2　店ではたらく人	3　くらしを守る 1　火事からくらしを守る	3　くらしを守る 2　事故や事件からくらしを守る	4　市のうつりかわり 1　市の様子と人々のくらしのうつりかわり	
東書	算数		「九九を見なおそう」 「時こくと時間のもとめ方」	「同じ数ずつ分けるときの計算を考えよう」 「大きい数の筆算を考えよう」	「たし算とひき算の筆算」 「長い長さをはかって表そう」 「暗算」	「わり算を考えよう」 「10000より大きい数を調べよう」	「大きい数のかけ算のしかたを考えよう」	「大きい数のかけ算のしかたを考えよう」 「わり算や分数を考えよう」 「まるい形を調べよう」 「小数」 C　規則尊重	「数の表し方やしくみを調べよう」 「重さをはかって表そう」	「分数を使った大きさの表し方を調べよう」	「口を使って場面を式に表そう」 「かけ算の筆算を考えよう」	「かけ算の筆算を考えよう」 「三角形と角」	「わかりやすく整理して表そう」
東書	理科		「春のしぜんにとびだそう」	「たねをまこう」 「チョウを育てよう」	「どれくらい育ったかな」 「トンボやバッタを育てよう」 「風やゴムで動かそう」	「花がさいたよ」	「実ができたよ」 「こん虫を調べよう」 「太陽とかげの動きを調べよう」	「太陽とかげの動きを調べよう」 「太陽の光を調べよう」	「太陽の光を調べよう」 「音を出して調べよう」	「物の重さをくらべよう」	「明かりをつけよう」	「じしゃくにつけよう」	「つくってあそぼう」
教出	音楽		「春の小川」 「キラキラおひさま」	「茶つみ」	「ゆかいなまきば」 「この山光る」		「うさぎ」 「白鳥」	「日本や世界の子どもの歌」 「十五夜さんのもちつき」	「ふじ山」 「森の子もり歌」			「パフ」 「ありがとうの花」	「校歌」 「君が代」
日文	図工		[絵のぐ＋水＋ふで＝いいかんじ！]					「ペタパタ」ひらくと 「小さな自分」のお気に入り			「ねん土マイタウン」		
東書	保健				けんこうな生活								

【資料】

今年度の主な取組

【模擬授業】

今年度は事前研で模擬授業を行い、指導案で想定した発問が有効かについて検討した。また、事後研究会の後には、授業研究を通して学んだことを今後の授業づくりにどのように生かしたいかを書いてもらい、それらを研究だよりとしてまとめ、全員の学びを共有した。

【メッセージカード】

児童相互に認め合ったり、励まし合ったりする活動を通し、自己肯定感や自己有用感を高めてきた。また、清掃をがんばっていた友達を放送で紹介したり、それぞれの学年と交流してのよさをメッセージカードで送り合ったりする活動を行った。さらに、お世話になったゲストティチャーの方や給食の食材を作ってくださる生産者さんにお礼の手紙を書く活動にも取り組んだ。

【農業科】

喜多方市には市独自の取組として農業科があり、その中で、農業科支援員の方との関わりを通して、子どもたちに自己の生き方について考えさせることや他者との関わり方の素地を育てる機会になった。また、地域の方と関わりながら学ぶことで、地域を大切に思う心が築かれていくのではないかと考えている。

【縦割り班活動】

本校道徳教育の重点目標の１つである「他人の立場を理解し、助け合い励まし合える子どもを育てる」ために、縦割り活動等に重点を置いて教育活動を行った。清掃をはじめ、縦割り班で遊んだり、収穫祭で芋煮を作って一緒に食したりするなど、異学年交流を通して、協力することの大切さやお互いに思いやる心を育てた。

南会津地区道徳教育推進校「南会津町立南会津中学校」実施報告書

1　学校紹介

学校名	南会津町立南会津中学校
所在地	南会津町鴇巣字平林 573
校長名	渡部　学
教育目標	夢を求めて自ら磨き 思いやりの心でふれあい 仲間とたくましく伸びる
学級及び児童生徒数	学　級　数　　５ 生　徒　数　６０名

2　研究テーマ

「自他を大切にし、心を豊かにする生徒の育成」～考え・伝え合う授業の実践を通して～

3　研究テーマ設定の理由

本校は南会津町西部に位置し、旧南郷中学校と旧伊南中学校が統合され、昨年度１０年の節目を迎えたところである。今年度は気持ちを新たに、これまで築き上げてきた伝統に新たな挑戦をという気持ちをもって、生徒・職員一丸となってスタートした。

生徒は素直で何事にも一生懸命取り組むことができる。しかし、自分の考えを表現することを苦手とする生徒が多くみられる。そのため、今年度は各教科において「表現力」の育成を目指し、サブテーマである「考え・伝え合う授業の実践」に取り組む。

道徳教育においては、「自分」と「友達」「家族」「地域の方々」そしてふるさと「南会津町」との関わりを大切にする心を、道徳科の授業を土台に、多様な体験活動等を通して育みたい。特に「相互理解・寛容」の精神を養うために、生徒が自分の考えや意見を相手に伝える場を意図的に設定するなど、授業の手立てを工夫し研究テーマに迫りたい。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備考
５月～	○各学年での実践（ローテーション授業等）	
６月　２日（金）	○SDGｓのカードゲーム研修（全校生）	
７月　５日（水）	○命の授業　（全校生）	
７月１２日（水）	○人権の授業（１年生）講師：地区人権擁護委員様（３名）	
７月１８日（火）	○道徳科校内授業研究会：１学年（管理職による授業） 講師：南会津教育事務所 指導主事 君　佳子	
９月　５日（火）	○要請訪問Ⅰ　　道徳科：３学年 講師：南会津町教育委員会 主幹兼指導主事 塩生 敬久 様	
９月２７日（水）	○道徳科校内授業研究会 講師：秋田公立美術大学 副学長 毛内嘉威 様 模範授業（２学年）及び授業についての解説	
１０月３０日（月）	○福島大学附属中学校研究公開（１名参加）	
１１月　１日（水）	○　　同　　（１名参加）	
１１月２２日（水）	○校内研修：検証授業（３学年）及び指導案の検討 講師：南会津教育事務所 主任指導主事 菅家　崇 指導主事 君　佳子	
１１月２９日（水）	○只見町立只見中学校授業研究会（１名参加）	
１２月　１日（金）	○校内研修：検証授業（１学年）及び最終確認	
１２月　５日（火）	○ゲストティーチャー活用授業　講師：地域の方（各学年）	
１２月　７日（木）	○研究公開（２学年授業提供） 講師：秋田公立美術大学 副学長 毛内嘉威 様 福島県教育庁義務教育課 指導主事 江花 洋介	
２月中旬	○めばえ教室～生命誕生～（３学年）	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育の組織的取組について

①　道徳教育全体計画、別葉の充実と活用

〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉

○「相互理解・寛容」の心を育む１年間とし、全教育活動を通して「相互理解・寛容」に重点を置いた学習に取り組む。

○教育活動全体を通して行われる道徳教育を意識し、別葉は道徳科、各教科、特別活動等が１枚に網羅されている。次年度に向け、別葉の形式について教育課程編成協議会道徳部会において検討を加えている。

〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉

○ローテーション授業を導入し、学年を中心とした体制で担任だけでなく、副担任や管理職も含めた全教員が授業を実践する。担任外の教員は、生徒の実態を把握し信頼関係を築くため、道徳のみならず普段から学級活動等に積極的に参加し、生徒との交流を深める。

②　道徳教育推進教師を中心とした組織的取組

○率先して研究会等へ参加し伝達講習を行うとともに、ローテーション授業の推進を図る。

③　一人一授業の実践

○管理職の道徳授業実践とローテーション授業での一人一授業の実践により、ICT や思考ツールの効果的な活用について共通理解が図る。

【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

①　自己を見つめるために

○生徒が自らの行動や考え方を振り返ったり見つめ直したりすることができるような教師の発問やコーディネートの工夫を話し合い、授業ごとに実践する。

○生徒が多面的・多角的に考えられるように、他者との意見交流の場の設定や「道徳アーカイブ」と銘打った掲示板を設けるなど、友達の考えに触れる場面の工夫を図る。

②　深い学びを実現するために

○ＩＣＴの活用に積極的に取り組むとともに、これまでも活用してきた「心情円」や「心のものさし」等も有効に利用し、「見える化」を通して他者との考えを比較し自分の考えを深めることができるようにする。

【視点３】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

○ワークシートや道徳のノートに授業者が励ましのコメントを書くことで、一人一人の考えを受け止め、道徳的心情の育成につなげる。

○学年ローテーション授業を実施し、生徒の理解の深まりや変容を確実につかむために、教師間の情報交換を密に行う。また、生徒に対してもその都度言葉がけをし、心の成長が意識できるように努める。

【視点４】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について

①　各学年の指導計画に位置付け関連教材として活用を図るとともに、重点を置きたい価値項目の教材を教科書と同等に位置付け、実践する。

②　防災教育や東日本大震災に触れる学習の際には積極的に活用し、福島県民の一人として、自分事として当時の人々の思いに寄り添える心情を育み、記憶を風化させないための取組を行う。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

○学年通信やホームページ等で道徳科の授業実践における生徒の様子を紹介し、道徳教育に対する関心を高める。

○授業参観の機会に、各学年で道徳科の授業を公開し保護者の関心を高める。

○各教科や行事等でゲストティーチャーや地域人材を活用し、道徳教育との関連を図り、「自分と地域の方々」「自分とふるさと」に対する思いや考えを深める。

６「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

地域の方々とのふれあいを通して、「自分」と「地域の方々」「ふるさと南会津」についての考えを深めるとともに、地域の一員として生きていこうとする心を育てる。

【概要】

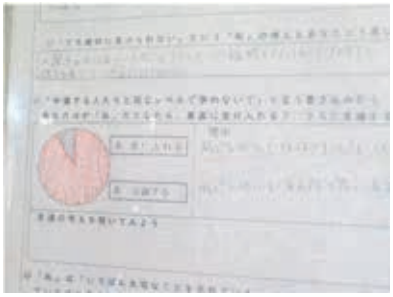
・　地域の行事に全校あげて参加し、地域の一員であるという意識を高めることができるようにする。
・　毎年、故郷の豊かな自然にふれる体験活動を設定し故郷のよさについて理解を深めるとともに、豊かな自然を継承していこうとする態度を育てている。
・　各学年で南会津町在住の方をゲストティーチャーとして招き、南会津町のよさや南会津町に住むことで感じる魅力を伝えていただいた。
・　年に１回、全学年道徳科の授業を授業参観で実施している。

【成果と課題】

○　地域の豊年まつりや運動会に参加することで、地域の方々から声をかけていただくことは、行事を楽しむことだけでなく、地域の中での自分たちの役割を確認するよい機会となった。
○　各学年でのゲストティーチャー活用授業では、故郷の魅力について深く考えることができた。また、海外とのつながりをもった仕事に従事していても南会津を拠点に就労できることや、南会津町には魅力的な「人と人とのつながり」「継承していく文化」があることを実感することができた。
●　ゲストティーチャー活用授業は、各学年の実態や活動状況を考慮して選考し実施したが、内容的には全校生に聞かせたい内容であった。

７　成果と課題

○　毛内嘉威先生のご指導のもと、「考え、議論する道徳科の授業」の実践として「子どもたちの思考を揺さぶる発問」「テンポのよい指名」等について、研究を深めることができた。
○　心情円や心のものさし等の思考ツールの効果的な活用により、他者の考えにふれる時間の確保や、自分の思いや考えの変容を自身で確認することにつながった。
○　ICT の効果的な活用や、掲示板に「道徳アーカイブ」と銘打ち、授業の終わりに記載したそれぞれの思いを掲示したことは、他者の思いに触れることと「見える化」の意図としては大いに効果があった。
○　「ローテーション授業」として、担任のみならず副担任の授業実践や管理職による授業提供は、「道徳科」に対する全職員の意識の高揚につながった。
●　研究の成果を生かし道徳教育全体計画の見直しを図るとともに、各学年の作成している別葉を内容項目ごとに精選し、重点項目に絞ったものにするなどの見直しを図りたい。
●　子どもたちの表現しようとする意欲をかき立てる主発問の吟味や教師のコーディネートの在り方などを、校内研修でさらに深め、全教員で習得していきたい。



令和５年度 道 徳 教 育 の 全 体 計 画

南会津町立南会津中学校

南会津町教育大綱

次世代の地域を担う人材の育成

【基本目標】
Ⅰ 自ら学ぶ人を育みます
Ⅱ 町を愛し、協働の心を持った思いやりのある人を育みます。
Ⅲ 伝統文化の保存と継承に努め、心豊かな人を育みます。

教 育 目 標

夢を求めて自ら磨き
思いやりの心でふれあい
仲間とたくましく伸びる

生徒の実態

・奉仕活動などにしっかり取り組む。
・部活動や諸活動に一生懸命取り組む。
・素直な心をもち、指示を守れたり助言に耳を傾けたりできる。
△周りの目を気にして自分を表現することができない。

道 徳 教 育 の 重 点 目 標

・よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的にとらえ、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

保護者の願い

・楽しく積極的に学校生活をおくってほしい。
・良い生活習慣、健康の自己管理をしてほしい。

学 年 別 の 重 点 目 標

第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
・心身の健康に心がけ、節度のある生活態度を育ての る。 ・他者の立場を理解し、思いやる心を育む。 ・よい目標を目指し、着実にやり抜く強い意志を育てる。	・自己の役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める。 ・互いに高め合い励ま意欲を育てし合える友情を育む。 ・自主的に考え、誠実に実行し、その結果に責任を持つ態度を育成する。	・自己を見つめ、個性を伸ばし充実した生き方を追求する態度を育成する。 ・相手の立場を認め、助言や忠告を謙虚に受け入れ、自己の向上に生かそうとする態度を育てる。 ・地域から国際社会にまで目を向け、社会に貢献しようとする態度を育てる。

特別の教科 道徳の指導方針

・道徳的実践力の育成及び道徳的価値の主体的自覚を重視する。
・振り返りの時間を設定し、これからの生きき方について深く考えさせながら内面からの道徳性の育成に努める。
・道徳の時間を、学校教育活動全体の中での補充・深化・統合の場と位置づけ、各教育活動との相互補完の働きを重視する。
・本校の「学校いじめ防止基本方針」をもとに、居場所作りや絆作りもくしまの念頭に置いた指導を行い、いじめの未然防止に努める。
・「ふくしまの道徳教育資料集」を並行教材として用いることで、郷土に誇りを持ち生きていく心情の育成に努める。

各教育活動における道徳指導の基本的方針

・教育活動全体を通して行う道徳教育と、道徳の時間の関連を図る。
・生徒理解に努めながら親密な人間関係を確立して、道徳性の高揚を図る。
・振り返りや議論する場を設定するなど指導の改善充実に努める。
・地域や生徒の実態を踏まえ、指導の重点化・効率化を図る。
・教育活動全体を通して道徳的実践を進める。
・主題のねらいを明確にして、指導する。
・道徳的判断、心情、態度、実践意欲のどこに重点を置くのか、指導の構想を明らかにして指導する。
・評価やワークシートの累積など、事後指導に留意する。
・発達段階、個人差に応じた指導をする。
・体験的な活動も取り入れながら、成就感、充実感を求める。
　○SDGsの授業6/2　○人権の授業（１年生）7/12
　○命の授業7/5　○めばえ教室（３年生）2/20
・互見授業を通して、指導法の改善を図る機会をもつ。

特別の教科 道徳

指導方針に基づき、生徒の実態や身につけさせたい道徳性を意識しながら、人間としての生き方について自覚を深める時間となるように努める。自分の考えや意見を相手に伝える場を設定した授業を心がけ、「相互理解・寛容」の精神を養う。その手段としてICTを有効に活用しながら生徒の道徳的実践意欲と態度を育てる。

各教科における道徳教育の指導方針

国語	人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝えあう力を高める。
社会	伝統と文化を尊重する態度を重視し、我が国と郷土に対する愛情を養う。
数学	筋道を立てて正しく理解する態度を養う。問題解決への粘り強い態度を養う。
理科	科学的、合理的に真理を追求する態度を養う。
音楽	音楽的情操を養い、豊かな心情を育てる。
美術	美的情操を養い、豊かな人間性、創造力を養う。
保体	健康安全の指導と集団のきまりや規則を守る公正な態度を身につけさせる。
技家	協力と責任、安全を重んじる態度を育成すると共に、物を大切にする心を育てる。
英語	国際的視野に立って、生活や物の見方や考え方の基礎を養う。

特別活動における道徳教育の指導方針

学活級動	・自主的・実践的態度を育成する。集団生活の中で、協力する態度を育てる。好ましい人間関係を育て集団生活の適応能力や進んで協力する態度を養う。
生活徒会動	・自治的活動を推進し、責任感の育成や、協力して問題を解決していこうとする姿勢を育てる。 ・学校生活での連帯感を深め、自主的な生活態度を養う。
学校行事	［儀式的行事］ ・儀式の意義を認識させるとともに、目的達成のために努力し、連帯感の高揚に気づかせる。
	［学芸的行事］ ・個人の価値を認め合うと共に、お互いに協力し合い、理想を目指して創造性や情操を高める。
	［保健安全・体育的行事］ ・健康の保持増進、安全を心がける態度を養う ・継続的な練習とその成果のためには、強い意志力を持って遂行し、全力を尽くす態度を育てる。
	［旅行・集団宿泊的行事］ ・見聞を広め、集団の一員として行動する態度を養う。
	［勤労生産・奉仕的行事］ ・勤労の尊さや意義を理解し、社会奉仕の精神を養う。

生徒指導における道徳教育の指導方針

・基本的生活習慣を身につける。
・差別のない人権尊重の精神を養う。
・実践を通し社会奉仕の精神を養う。
・インターネットの正しい活用方法を理解させる。

総合的な学習の時間における道徳教育の指導方針

・自ら進んで学び考え、よりよく問題を解決する態度を育てる。
・自己の生き方の自覚を高める。

生きる力の育成にかかわる道徳教育の指導方針

・自分の生き方を選び取る力を育成する。
・自分の人生を自分で作りあげていく力を育成する。
・問題発見力、問題解決力、人間関係能力を育成する。

体験的活動における道徳教育の指導方針

・体験的な活動の中から、道徳的な価値を体感し、それを自己のものとして取り込めるような姿勢を養う。

その他の活動	読書・進路学習	・読書を通して視野を広げ、進路学習においては自己の特性を見つめながら将来を見据えた進路学習を進める。
	保健・安全指導	・健康の維持増進と安全な生活を心がける態度の習慣化を図る。
	礼儀・作法	・登下校などのあいさつの励行に努め、お互いに理解し合い、望ましい人間関係を育成する。
	部活動	・互いに信頼し友情を深め、強い意志力で活動を進める。
	学級・学校環境	・生徒同士、先生と生徒の好ましい人間関係を作るよう努力するとともに、定期的に教育相談を実施する。 ・清掃活動や奉仕活動を通して心なごむ環境を作り、道徳教育に資するよう努力する。 ・図書館や学級文庫を整備し、読書を通じて道徳教育に資する。
	家庭との連携	・学校、学年通信、ＰＴＡ会報等により保護者との連携を図る。また、授業参観等を通して学校の道徳目標についての理解と協力を得る。
	地域社会との連携	・各種機関等との連携を密にして環境美化・安全指導を進め、生徒の健全育成に努力する。

令和5年度道徳教育全体計画（別葉） 南会津中学校　第3学年

本校の道徳教育目標	夢を求めて自ら磨き 思いやりの心でふれあい 仲間とたくましく伸びる

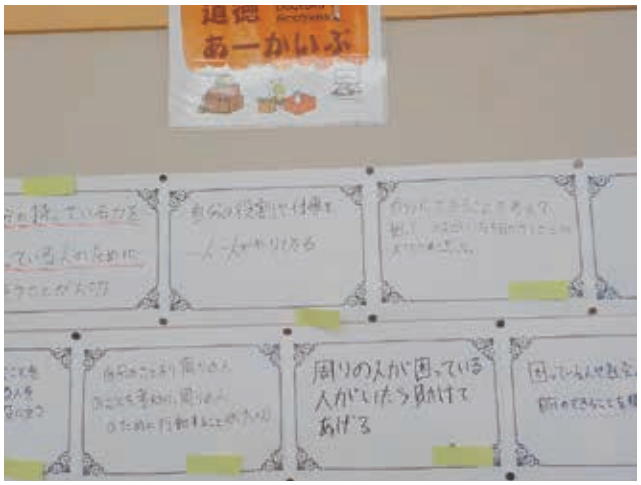
本校の重点目標	より良く生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値を基に、自己を見つめ、物事を多目的にとらえ、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

内容項目＼教科・領域など		道徳	月	関連する特別活動 学級活動及び行事	月	委員会・部活動	月	各教科	その他の関連活動及び地域・家庭との連携	月
A－(1)	自主、自立、自由と責任	私も高校生 町内会デビュー	6 2	最高学年になって	4			故郷(国)より良い社会を目指して (公)今を生きる私へ(美)あなたへ 明日への巣立ち(美)		適宜
A－(2)	節度、節制	独りを慎む	10	歯科指導	9	係活動	通年		週番活動	通年
A－(3)	向上心、個性の伸長	新しい夏のはじまり	7	各学期の目標、反省 夏・冬休みの計画と反省	適宜			私の色　みんなの色(美)	定期テスト	
A－(4)	希望と勇気、克己と強い意志	銀メダルから得たもの	4	最後の中体連大会に向けて	5	部活動	通年	Unit 1(英)Let's Read 3(英)		
A－(5)	真理の探究、創造	iPS細胞で難病を治したい	12					三平方の定理の利用(数)化学変化と電池(理)計測・制御のプログラミングによる問題解決(技)Let's Read 2(英)		
B－(6)	**◎思いやり、感謝**	電車の中で 塩むすび	10 1	**将来の自分へ、みんなへ**	3			**握手(国)温かいスープ(国)歌い継ごう　日本の歌(音)幼児の生活と家族(家)**	全校ボランティア	
B－(7)	礼儀	出迎え三歩，見送り七歩	5					文字を使い分ける(書)	着任式　始業式 入学式　卒業式 等の儀式的行事	通年
B－(8)	友情、信頼	違うんだよ，健司 ゴリラのまねをした彼女を好きになった	6 9	中学校生活ラストスパート 青年期の心と性	9 2					
B－(9)	**◎相互理解、寛容**	**言葉の向こうに**	9	**修学旅行、学習旅行、職場体験、文化祭準備**	適宜	**専門委員会および代表者会**	通年	**作られた「物語」を超えて(国)式の計算の利用(数)個人の尊重と日本国憲法(公)これからの家族と地域(家)**	**全校ボランティア SDGs研修会、フィールドワーク、地域運動会**	
C－(10)	遵法精神、公徳心	二通の手紙 ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ジャパン	10 2	交通教室	5			個人の尊重と日本国憲法(公)生活や社会の中の音楽(音)社会の発展と情報の技術(技)	校内美化活動	通年
C－(11)	公正、公平、社会正義	卒業文集最後の二行 命の大切さ	5 9	薬物乱用防止教室				個人の尊重と日本国憲法(公)		
C－(12)	社会参画、公共の精神	No Charity,but a Chance! サトシの一票 自分・相手・周りの人	7 2 11					文字を使い分ける(書)現代の日本と私たち(歴)個人の尊重と日本国憲法(公)地域社会と私たち(公)より良い社会を目指して(公)科学技術と人間(理)曲の良さをプレゼンしよう(音)		
C－(13)	勤労	あるレジ打ちの女性 失った笑顔を取り戻す	7 11	地域・社会に生きる一員	5					
C－(14)	家族愛、家庭生活の充実	一冊のノート、500人の大家族【ふくしま道徳教育資料集から】	2					これからの家族と地域(家)		
C－(15)	よりよい学校生活、集団生活の充実	お別れ会	3	学級組織づくり 生徒会活動への貢献	通年	生徒会活動	通年	現代の日本と私たち(歴)現代社会と私たち(公)標本調査(数)Amazing Grace(音)	町民運動会	9
C－(16)	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	「稲むらの火」余話	8	文化祭	5 10			2次方程式の利用(数)自然災害と地域のかかわりを学ぶ(理)能「敦盛」(音)		
C－(17)	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	昔と今を結ぶ糸 父は能楽師	5 1	修学旅行	7			君待つと(国)二度の世界大戦と日本(歴)現代の日本と私たち(歴)現代社会と私たち(公)Unit 2(英)		
C－(18)	国際理解、国際貢献	命のトランジットビザ 本とペンで世界を変えよう	6 1	SDGsの授業	6			温かいスープ(国)二度の世界大戦と日本(歴)現代の日本と私たち(歴)現代社会と私たち(公)地域社会と私たち(公)あの日を忘れない(音)体育理論(保)		
D－(19)	**◎生命の尊さ**	エリカ―奇跡のいのち― 臓器ドナー 希望	6 12 3	防犯教室/避難訓練 命の授業 めばえ教室	6 7 2			持続可能な社会をつくるために(理)健康な生活と病気の予防③(保)Let's Read 1(英)		
D－(20)	自然愛護	「川端」のある暮らし	11					域社会と私たち(公)宇宙の広がり(理)健康と環境(保)技術分野の学習を終えて(技)		
D－(21)	感動、畏敬の念	風景開眼	12		2					
D－(22)	よりよく生きる喜び	風に立つライオン 世界を動かした美	4 3					学びの探究と未来(美)体育理論(保)		

【資料】

【〈見える化〉の実際 】

「道徳アーカイブ」



（授業後の子どもたちの思い）

「なんかいの木」

（行事に向けた子どもたちの思い）

【ゲストティーチャー活用授業】

〈1学年〉

○講師：月田農園　代表　月田禮次郎　様

○内容

郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度を育むために地域のひめさゆりや縄文土器等の文化を紹介していただいた。

○感想

・栽培が難しく、咲いている場所も少ないひめさゆりが、南会津町の自慢できるものだと思う。

〈2学年〉

○講師：NPO 法人福島県森の案内人の会
南会津支部　平野　健一　様

○内容

自然のありがたさに感謝し、町の自然を守り、大切にしていこうとする態度を育むために、森林の働きについて具体的な話をしていただいた。

○感想

・森と人にはたくさんのつながりがあることを知った。

・森の大切さが理解できたので大切にしたい。

〈3学年〉

○講師：ゼスプリインターナショナルジャパン
APAC マーケティング本部長　猪股可奈子　様

○内容

よりよく生きていくために必要な心構えを育むため、将来に向けて今、大切にしなければならないことは何か、実体験をもとに話をいただいた。

○感想

・セルフコントーロールをしっかり身に付けたい。

・目標をもつ、自分で考える、調べる、努力する、感謝することを意識して生活していきたい。

相双地区道徳教育推進校「南相馬市立原町第一中学校」実施報告書

1　学校紹介

学校名	南相馬市立原町第一中学校
所在地	南相馬市原町区南町三丁目 23
校長名	塙　　広治
教育目標	自ら考え正しく判断できる生徒 心豊かで最後までやり抜く生徒 健康で活力ある生徒
学級及び児童生徒数	学　級　数　　１３ 生　徒　数　３２２名

2　研究テーマ

思いやりの心をもって、主体的に生きようとする生徒の育成
～道徳教育推進教師を中心とした組織的な道徳科の授業改善を通して～

3　研究テーマ設定の理由

本校は､南相馬市原町区の中心に位置し､区内３校の小学校から生徒が進学してくる。小学校の頃とは違う新たな人間関係を築く機会を得ることができる一方、学級内でなじめずにいる生徒の姿も見られる。そのため、新たな学年、学級集団において、自分の考えを話すことに抵抗を感じている生徒の姿も見られる。生徒が互いに他者の立場を尊重したり、励まし合ったりして安心して学校生活を送ると共に主体的に学習に取組んでいくためには、相手を思いやる心が大切であると考え､「思いやりの心の育成」を今年度の道徳教育の重点目標に設定した。

本校では日常的に教師がお互いに道徳科の授業を見せ合い、授業改善を図っている。そのため、教師は道徳科の授業に対する意識が高く、生徒も主体的に道徳科の授業に取組んでいる。

今年度の重点目標を達成するためには、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自分事として考えを深める道徳科の授業の充実は欠かすことができない。そこで、互見授業が日常的に行われているという本校の特長を生かし、道徳担当教師を中心として指導方法や指導体制の工夫を組織的に取組んでいくことが大切であると考え、上記研究テーマを設定した。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備　　考
５月　中旬	○校内道徳アンケート実施・テーマ設定	
６月　下旬	○校内教育全体協議会	
８月１０日（木）	○道徳授業パワーアップセミナー参加 東京学芸大学　（３年　新井　雄輔教諭）	
１０月　３日（火）	○道徳部会内研究授業　（２年　武口　春菜教諭）	
１０月　４日（水）	○校内研究授業　（３年　新井　雄輔教諭） 指導助言　福島大学特任教授　宮武　泰　様	
１０月３０日（月）	○福島大学附属中学校「学習指導法研究会」参加 （２年　武口　春菜教諭）	
１１月１０日（金）	○相双地区内研究公開　（３年　新井　雄輔教諭） 指導助言　福島大学特任教授　宮武　泰　様	
１１月２８日（火）	○道徳部会内研究授業　（１年　鈴木　英史教諭）	
１２月　中旬	○校内道徳アンケート実施・研究のまとめ	

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育の組織的取組について

①　道徳教育全体計画、別葉の充実と活用

〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉

・　生徒の実態や、保護者の願いを踏まえ、重点目標を思いやりの心をもった生徒の育成とし、全体計画を作成する。

・　別葉の作成に当たっては、道徳教育と各教科等との関連が明確になるようにする。

〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉

・　別葉を基に、総合的な学習の時間と道徳教育との関連を学年内で確認する。その上で、指導に当たっては総合的な学習の時間の目標に加えて道徳教育の視点を踏まえて子どもの学びを見取り、それを教師間で共有することで、学年として一貫した指導ができるようにする。

②　道徳教育推進教師を中心とした組織的取組

・　道徳教育推進教師は、道徳科の授業改善の視点を明確にすると共に教員に周知し、互見授業や授業研究に生かすことができるようにする。また各学年が道徳教育を円滑に進めることができるよう、校長の指導の下推進体制を整える。

・　各学年に道徳担当教師を設け、道徳教育に関わる取組を行う際、道徳担当教師が道徳教育推進教師と連携しながら中心的役割を果たすことができるようにする。

③　組織的取組について

・　学年ごとに道徳科の時間割をそろえ、学年に所属する担任以外の主任や副担任の空き時間にすることで、互見授業を行いやすくする。

【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

①　自己を見つめ、考えを深めることができる発問の吟味

・　中心発問の在り方

・　道徳的価値の理解を深めることができる発問の在り方　等

②　多面的・多角的に考えることができる学習活動の工夫

・　ＩＣＴの活用

・　補助教材の工夫　等

③　人間としての生き方について考えを深めることができる振り返りの工夫

【視点３】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

○　道徳科の授業においては「道徳的価値を自己との関わりで捉えることができたか」「物事を多面的・多角的に考えることができたか」の二つの視点で授業ごとの生徒の姿を具体的に想定し、評価に生かすことができるようにする。

○　教師が生徒の振り返りにコメントを書く際は、いわゆる「価値の押しつけ」にならないよう配慮しながら、生徒一人一人の学びや成長を認め、励ますことができるようにする。

【視点４】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について

①　年間指導計画を見直し、今年度の重点項目である「親切、思いやり」に関わる教材を積極的に活用する。

②　本市は東日本大震災において原発事故や津波の被害を受けた。生徒の実態に配慮しながら、資料集における原発事故や津波に関わる教材を道徳科の授業だけでなく、放射線教育や防災教育に関わる教育活動等でも活用することができるようにする。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

○　各教科等でゲストティーチャーや地域人材を活用した際、学習の振り返りの中で道徳教育の視点でも振り返ることができるようにする。

○　「モラル・エッセイ」コンテストの過去の作品を扱った授業等を通して、生徒自身のこととして考えさせたり、まとめさせたりする機会を設定する。

6「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

・　過去の「モラル・エッセイ」コンテスト優秀作品を授業で活用したり、その授業をホームページ等で家庭や地域に発信したりすることで、道徳教育に関する本校の取組みを家庭・地域と共有することができるようにする。

【概要】

・　令和４年度「モラル・エッセイ」コンテストの優秀作品を題材に道徳科の授業を行った。また、校内放送で「モラル・エッセイ」コンテストの優秀作品を紹介した。

・　「モラル・エッセイ」コンテストの一般の部応募のお知らせし家庭・地域も道徳教育に関心をもつことができるようにした。

・　学校ホームページや各種通信等で、実施した道徳科の授業内容を共有できるようにした。

〈生徒による「モラル・エッセイコンテスト」優秀作品の紹介〉

【成果と課題】

○　令和４年度「モラル・エッセイ」コンテスト優秀作品を資料として授業を行ったことで、同学年の思いに共感しながら授業に主体的に取組む姿が見られた。

○　「モラル・エッセイ」コンテストの一般の部応募のお知らせを家庭へ発信することを通して、本校の道徳教育への取組やコンテストの意義を伝えることができ、実際に応募する家庭も見られた。

●　家庭での道徳教育について考えるきっかけとなるよう、本校生徒の応募作品を本校ホームページや各種通信に活用していきたい。

学年道徳（7月26日（水）5校時実施）

事前アンケート（期末テスト後実施）

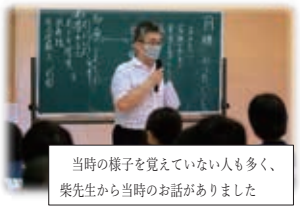
・志望校が決まっている人は、77人（全体の81%）。

⇔しかし、多くの生徒が「テスト勉強について、理解できるまでやらなかった・勉強しなかった」と回答。

⇒理由として「勉強時間が足りなかった」「わかったつもりでいた」と自己を振り返る生徒がいる。

⇔「テスト範囲が広いのが悪い」「直前まで中体連だったのが悪い」「周りがうるさいのが悪い」など、他人を非難する意見もあった。

⇒　学年全員で、「東日本大震災時に避難した人々がやりたいこと・目標を達成するためにどんなことを考えたか」を話し合うことで、「高い目標を達成するためにどんなことが必要か」を考えました。



当時の様子を覚えていない人も多く、柴先生から当時のお話がありました

学年学活（7月27日（木）4校時実施）

⇒　学年道徳の翌日、事前アンケートで聞いていた進路の悩みや不安へコメントを全員で考えました。

～進路の不安や悩みと、実際のコメント（抜粋）～

Q テストが近づいてもやる気がなかなか起きない

→タイマーなどを使い時間を区切って休憩しながら勉強する。あとどれくらいなのか可視化する。

Q みんなが一つに向かって一緒に勉強するには？

→ひとりひとり声をかけてみる。目標を立てる

Q 家での勉強の集中力を長続きさせたい

→誰もいない部屋でやる。兄弟や親の責任にするな！集中して勉強するのは自分だ！

Q 参考書を買ったのに、手をつけられていません

→私も夏休みから頑張ります。簡単な問題からやる。

Q 苦手教科を受験までに克服できるか不安

→自分がどこの単元ができないか把握することが大事。長所を生かそう！先延ばしにしないようにする。

Q どんな計画で勉強していけば良いかわからない

→苦手教科：得意教科 →９:１。逆算しよう。今日授業でやったところを復習する。

Q 自分はどこの高校があっているか

→自分自身に将来何をしたいのか質問する事が大切だと思います。決めなきゃいけない時はいずれくるけど、それまではたくさん悩んでもいい。

Q 入試が怖い

7　成果と課題

○　授業研究会では、協議内容を「【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫」に関することに絞ったことで、自己を見つめることができる発問の在り方について協議を深めることができた。

○　道徳科の時間割を学年ごとに同一時間帯に設定することで、互見授業を積極的に行う先生が増えた。そのため、指導方法の共有化が図られ、授業改善につなげることができた。

○　「ふくしま道徳教育資料集」での授業では、学年道徳を実施した。当時の様子を語る先生や板書をする先生など、役割を明確にして行うことができた。

●　互見授業の効果を高めるため、Ｔ１Ｔ２の調整を行ったり、事後研究の時間を確保したりしていきたい。

●　今後も多様な指導の在り方について学校全体で考えていきたい。

道徳教育全体計画

南相馬市立原町第一中学校

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
同施行規則
学習指導要領
新世紀ふくしまの学び
市教委重点施策

・いじめ防止対策推進法
・学校いじめ防止基本方針
・いじめ防止対策推進計画
　早期発見・未然防止

本校の教育目標

○自ら考え正しく判断できる生徒
○心豊かで最後までやり抜く生徒
○健康で活力のある生徒

令和５年度の重点目標

未来をみつめ　ともに学び　高め会える生徒

道徳教育の重点目標

基本的生活習慣を身につけ、思いやりの心をもって主体的に生きようとする生徒の育成

目指す生徒像

○思いやりのある生徒
○基本的生活習慣をきちんと身につけた生徒
○協力して根気強くやり抜く生徒
○自主的に行動する生徒

令和５年度の重点項目

○我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度（C17）
○思いやり・感謝（B6）

学校・地域の実態
○３つの小学校からの入学がある。

教師・保護者の願い
○通徳の授業で学んだことを、自分の生活で役立てようとしてほしい。

生徒の実態
○お互いのよさを認め合ったり、学び合ったり、高め合ったりする生徒が多い
●意欲的に活動を行う生徒と、他人任せになる生徒の差が大きい。

道徳科の指導方針

○自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方について深める学習を行う。
・教師が交代で学年の全学級を回り、道徳の授業を行う工夫
・ICT機器を活用し、生徒の意見を共有する工夫

・一人一役の係活動　・奉仕活動
・学校行事　・防犯教室（警察署との連携）

学級経営

○道徳全体計画の具現化を図る
○望ましい人間関係の形成に努める
　・仲間づくり　・体験の重視
○学習指導の改善に努める
　・学習方法　・学習形態

教科

国語	・思考力 ・判断力 ・文章表現力 ・豊かな心情
社会	・郷土愛 ・愛国心 ・勤労 ・社会規範 ・国際社会
数学	・合理性 ・論理的思考 ・探求心
理科	・生命尊重 ・自然動植物愛護 ・探求心 ・敬虔
音楽	・美的情操 ・協調性 ・個性伸長
美術	・美的情操 ・創意工夫 ・創造性
保体	・協力性 ・規律 ・忍耐力 ・健康安全
技家	・家庭愛、感謝 ・礼儀 ・健康安全 ・創意工夫
英語	・国際平和 ・国際協力 ・表現力

総合的な学習の時間

（道徳的体験の場）
1　学習内容から
・情報、環境、歴史などの課題、生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などに取り組むことを通して自らの生き方を探求する態度を育てる。

2　学習活動から
・体験的な学習、問題解決的な学習、グループ学習、地域の人々との触れ合う学習など他の人との関わりを通して自己を見つめ、互いに認め合い、高め合うことの大切さに気付き、道徳性を高める。

特別活動

学級活動

・生命尊重
・協力性
・協調性
・個性伸長
・思慮反省
・話し合いの仕方
・自立心
・明朗

生徒会

・生命尊重
・実践的態度
・愛校心
・勤労奉仕
・計画性
・規則尊重
・創意工夫
・自立心

学校行事

・豊かな体験活動
・規律
・協力性
・責任
・自主的参加態度
・礼儀
・尊敬感謝
・社会的役割

生徒指導

・基本的生活習慣
・道徳的実践
・判断力
・相互理解
・信頼感
・正しい価値観

家庭地域との連携

・家庭教育力の向上
・道徳的意義の向上
・基本的生活習慣
・一貫した道徳教育
・礼儀

近隣小中学校との連携

・市教育委員会
・道徳教育委員会
・中教研道徳部会
・生徒指導ﾌﾞﾛｯｸ会議

その他の教育活動

（登下校）
・生命尊重
・規則
・思いやり
・礼儀
・中学生としての自覚
（朝の学活）
・責任
・向上心
・礼儀
・集団行動
（休み時間）
・生命尊重
・友情
・礼儀
・健康
・責任
・体力づくり
（給食指導）
・正しい食事
・協力
（清掃指導）
・整理整頓
・愛校心
・勤労、奉仕、責任
・助け合い
・協力

環境整備

○勤労の貴さを理解し、愛校心を持って環境整備に努める態度を育てる。
（清掃・奉仕作業・美化ボランティア）
○掲示板及び掲示資料の充実に努め、環境を通して道徳性を育てる。
（掲示物・生徒会コーナー・進路情報コーナー・道徳コーナー）
○生徒相互、生徒と教師の望ましい人間関係の形成に努める。
（言語環境の充実・QUテスト・生活班・教育相談・アンケート調査）

第３学年　道徳教育の全体計画（各教科との関連）

南相馬立原町第一中学校

			特別の教科 道　徳	月	国　語	月	社　会	月	数　学	月	理　科	月	音　楽	月	美　術	月	保健体育	月	技　術	月	家　庭	月	英　語	月	学級活動	月	総合的な学習の時間	月	学校行事	月
A　主として自分自身に関すること																														
(1)	自主，自律， 自由と責任	自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	4-2　ある日の午後から ①　スイッチ	5	学びて時に之を習ふ						探求活動	通年							情報を安全に利用しよう	通年					夏休みの反省と2学期の計画 冬休みの反省と新年の抱負	8 1	体験学習			
(2)	節度，節制	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をすること。	10　早朝ドリブル 13　スマホに夢中！	7 9													【保健】 健康な生活と疾病の予防		情報を安全に利用しよう	通年	幼児の生活と家族				「休み」を有効に活用しよう	7				
(3)	向上心，個性の伸長	自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	7　ぼくにもこんな「よいところ」がある	6	誰かのかわりに				問題演習		基本操作の習熟 問題演習	通年	ギター										Let's Read3 A Graduation Gift from Steve Jobs		自分の個性と、友達の個性 自分らしい進路選択 進路選択を万全にしよう 将来を見通した進路計画	5 11 12 2			定期テスト 実力テスト 新体力テスト	5
(4)	希望と勇気， 克己と強い意志	より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。	21　高く遠い夢	12													【体育】 陸上競技								中学校最後の1年間 ３年間を振り返って	4 2	オリエンテーション		壮行会 中体連 新人戦	6 6 9
(5)	真理の探究，創造	真理を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。	26　日本から世界へ、そして宇宙へ―インスタントラーメンの誕生	2					探求活動		地球と私たちの未来のために	2													将来につなぐ、今の学び	4				
B　主として人との関わりに関すること																														
(6)	思いやり，感謝	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々との善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。	県　命のおにぎり 27　一冊の漫画雑誌	5 3	エルサルバドルの少女　ヘスース								式歌	1							幼児とのかかわり				思いやりの心を育もう	5	体験学習		文化祭	10
(7)	礼儀	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。	1　言葉おしみ	4													【体育】 柔道				幼児とのかかわり						体験学習		着任式・入学式 始業式・終業式 卒業証書授与式	
(8)	友情，信頼	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	17　合格通知 22　ライバルどうしの友情―スピードスケート　小平奈緒と李相花	11 12							班内での実験・観察活動や話し合い活動	通年	合唱の喜び	10			【体育】 体つくり運動		情報を安全に利用しよう	通年					支え合う人間関係をつくろう	10	文化祭準備・本番		中体連 新人戦 文化祭	6 9 10
(9)	相互理解，寛容	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に学び、自らを高めていこと。	23-1　しあわせ 23-2　おたがいの「ちがい」を認め合おう ②　心にしみこむ“言葉”の力―池上彰	1 1	作られた「物語」を超えて		【公民的分野】住民として地方自治を考えよう	10	グループ学習												幼児とのかかわり				いじめ防止のための取り組み	5	体験学習 意見交換・発表		生徒会役員選挙	3
C　主として集団や社会とのかかわりに関すること																														
(10)	遵法精神，公徳心	法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。	16-1　缶コーヒー 16-2　缶コーヒーをめぐるやりとりの場面をやってみよう ③　二通の手紙	10 11			【公民的分野】私たちの生きる現代社会の見方・考え方	7									【体育】 球技		情報を安全に利用しよう	通年	持続可能な家庭生活								修学旅行	4
(11)	公正，公平 社会正義	正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。	3-1　無実の罪 19　伝えたいことがある	4 12			【公民的分野】私たちと民主政治	9			実験・観察活動における役割分担	通年							情報を安全に利用しよう	通年	家庭生活と地域とのかかわり		Unit1 Spors for Everyone						修学旅行	4
(12)	社会参画， 公共の精神	社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。	14　加山さんの願い 28　社会からの無言の賞賛を感じる感性	10 3			【公民的分野】私たちと民主政治	9													家庭生活と地域とのかかわり				社会を支える一員として	7			奉仕委員会 美化作業	
(13)	勤労	勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。	2　たんぽぽ作業所 15　好きな仕事か安定かなやんでいる	4 10			【公民的分野】私たちと経済活動	11																	働くこと、生きること あなたの働く理由は	6 5			奉仕委員会 美化作業	
(14)	家族愛， 家庭生活の充実	父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	6　背筋をのばして	6			【公民的分野】私たちと現代社会	7													家庭生活と地域とのかかわり								三者相談	12
(15)	よりよい学校生活， 集団生活の充実	教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。	20　受け継がれる思い	12			【公民的分野】私たちの生きる現代社会の見方・考え方	8									【体育】 球技				家庭生活と地域とのかかわり				前期の学級組織 学級生活を充実させるために 後期の学級組織	4 4 9	文化祭準備・本番		卒業証書授与式練習	3
(16)	郷土の伝統と文化の尊重， 郷土を愛する態度	郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	8　島唄の心を伝えたい	6			【公民的分野】私たちと現代社会	7																			体験学習		文化祭	10
(17)	我が国の伝統と文化の尊重， 国を愛する態度	優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。	9　花火と灯ろう流し	7			【公民的分野】私たちと現代社会	7					荒城の月 能「敦盛」 文楽「義経千本桜」	4 12 1			【体育】 柔道						Unit2 Haiku in English				体験学習			
(18)	国際理解， 国際貢献	世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	25-1　その子の世界、私の世界 25-2　そのこ ④　命見つめて	2 2	温かいスープ		【公民的分野】私たちと国際社会	1					アイーダ ボレロ	11 12	デザインで変える現在と未来								Unit5 A Legacy for Peace Unit6 Beyond Borders							
D　主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること																														
(19)	生命の尊さ	生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	12-1　生まれてきてくれて、ありがとう―助産師からのメッセージ 12-2　くちびるに歌をもて 12-3　人間の命と正一人間の命の尊さ・大切さを考える ⑤　たとえぼくに明日はなくとも	8 9 9			【歴史的分野】第二次世界大戦と日本	5			生命の連続性	6 7 8			ゲルニカは語る		【保健】 健康な生活と疾病の予防				幼児の生活と家族		Let's Read1 A Mother's Lullaby						避難訓練	4
(20)	自然愛護	自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。	18　よみがえれ、日本海！	11	アラスカとの出会い												【保健】 健康と環境						Unit3 Animals on the Red List		放射線の基礎知識 放射線利用と性質 放射線による人体への影響	6 10 1	体験活動			
(21)	感動，畏敬の念	美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	11　ハッチを開けて、知らない世界へ	7							地球と宇宙	10 11 12	花	4															PTA教養講座	
(22)	よりよく生きる喜び	人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだすこと。	5　背番号15が歩んだ―黒田博樹 24　足袋の季節	6 1	握手				関数		持続可能な社会をつくるために	3	式歌	2			【体育理論】 文化としてのスポーツの意義		情報を安全に利用しよう	通年	持続可能な家庭生活									

【資料】　「モラル・エッセイ」コンテストを活用した実践

（１）「モラル・エッセイ」コンテスト優秀作品を題材にした授業（学年合同）

題材：「やさしさと母の愛情」
＜C-10　遵法精神、公徳心＞

Q1：私はどんな気持ちで悪い言葉を母に向かって連発してしまったのだろう。
→　自己嫌悪・ゲームをやりたい

Q2：母親は手紙を書きながらどんなことを考えたのだろう。
→　ルールの大切さを考えてほしい
裏切られて悲しい

Q3：約束は何のためにあるのだろう。
→　信用のため　秩序を守るため

やさしさと母の愛情

大玉村立大玉中学校

一年　佐原　凜

今年の連休明けの頃でした。私と両親との約束で、私がゲームをするのは一日一時間です。しかも、必ず宿題を終えてから、です。その日は、確か金曜日だったと思います。帰宅したら誰もいませんでした。机の上に、「仕事で少し遅くなる。ゲームはちゃんと宿題を終わらせてからね。」というメモがありました。私はすぐに机につき、学校のカバンを開けました。しかし、金曜日で明日は休みだ、という気のゆるみからか、カバンのふたを戻してゲームを始めました。時計を見ると、五時半でした。あと一時間ゲームを楽しんでから、宿題をやろうと、悪い心が決めました。その時です。予想外に早く母が帰ってきました。ゲームの画面が

〈『令和４年度「モラル・エッセイ」コンテスト優秀作品集』福島県教育委員会より（一部）〉

〈積極的に意見を交流する生徒たち〉

〈母親の立場から本時の話題について話す教師〉

（２）実際に「モラル・エッセイ」コンテスト応募作品を書く時間の設定

〈エッセイを書く生徒たち〉

モラル・エッセイ

組　　番　名前

○ 東日本大震災以降、私たちはさまざまな経験をしたことと思います。
○ 新型コロナウイルス感染症による生活の変化で、毎日の暮らしや人間関係を見つめ直すことがありました。
○ 日本人は、災害時における助け合いの精神や冷静な行動など、世界中から高い評価を受けています。
○ ふだんの生活の中で、家族、友達、学校や地域のさまざまな人々とのふれあいを通して感じた心温まる話、あなたが体験したちょっといい話、今伝えたいメッセージなどをぜひ、聞かせてください。

＜体験したこと＞

〈使用したワークシート（一部）〉

いわき地区道徳教育推進校「いわき市立赤井中学校」実施報告書

1　学校紹介

学校名	いわき市立赤井中学校
所在地	いわき市平赤井字大門 13
校長名	川村　雅茂
教育目標	自立 剛健 友愛
学級及び児童生徒数	学　級　数　　5 生　徒　数　９７名

2　研究テーマ

自己を振り返り、自分の生き方・考え方を深く考えることができる生徒の育成
～他者理解を通して～

3　研究テーマ設定の理由

本校は、いわき市の中心に近い場所に位置し、山と田畑に囲まれた静かな場所にある。

生徒たちは、「自立」「剛健」「友愛」の校是の下、日々学習や部活動に取り組んでいるが、中学校に入学する生徒は赤井小学校の児童のみであり、限られた友人関係で生活している。そのため、相手は自分のことを分かっていると思い込んで自分の意見を伝える努力をしなかったり、相手のことを幼い頃から知っているつもりになっていて、それ以上理解しようとしない様子が見られたりする。

そこで、世の中にはいろいろな人や考えが存在することを知ってもらうため、「他者理解」をテーマとした。今後、いろいろな機会でさまざまな人たちに触れ、その人の考えや気持ちを聞くことを通し、自分を見つめ、考えを深めてほしい。

4　研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備　　考
５月１７日(水)	教育事務所指導主事との打ち合わせ	管理職、研修主任、指導主事
６月　６日(火)	第１回福島県道徳教育推進協議会	教頭
６月１５日(木)	研修(宇都宮大学附属中　道徳授業参観)	道徳主任
６月２０日(火)	研修(授業充実ﾊﾟﾜｰｱｯﾌﾟ研修：白河市)	研修主任
６月２１日(水)	第１回校内授業研究会全体会	全職員
６月２２日(木)	第１回生徒、保護者、教職員アンケート	研修主任、教頭
６月３０日(金)	県立平支援学校との交流（1/3 回目）	１学年
７月　７日(金)	授業参観 県教育庁、市教委指導主事による参観	全職員
９月　４日(月)	小・中連携授業を見合う会 ○要請訪問① 講師　秋田公立美術大学　教授　毛内　嘉威　様	全職員
９月１５日(金)	県立平支援学校との交流（2/3 回目）	１学年
１０月　５日(木)	中教研県大会道徳部会公開授業参観	発表者
１０月２７日(金)	○要請訪問②	発表者
１１月　６日(月)	○要請訪問③	発表者
１１月１５日(水)	地区別推進協議会授業公開 講師　秋田公立美術大学　教授　毛内　嘉威　様	全職員
１１月２２日(水)	県立平支援学校との交流（3/3 回目）	１学年
１１月３０日(木)	第２回生徒、保護者、教職員アンケート	研修主任、教頭
１２月１８日(月)	実施報告書提出	道徳主任

５　研究推進にあたって

【視点１】道徳教育の組織的取組について

①　道徳教育全体計画、別葉の充実と活用

〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉

今年度を、生徒の自己理解を進める１年間とし、教育活動全体を通して生徒たちがいろいろな意見に触れたり様々な体験活動をしたりすることを通し、新たな自分に気付き、それを表出する学習に取り組めるようにする。

〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉

全職員で取り組めるよう、全体会議で推進計画や方針を確認する。また、授業参観や小・中連携授業を見合う会などの機会に道徳の授業を設定するなど、保護者が参加したり、他校種の教員から意見や感想を得たりすることができるようにする。

学校教育全体で道徳教育を進めるため、別葉を作成し、他教科との連携を図る。

②　道徳教育推進教師を中心とした組織的取組

道徳主任が推進教師を担い、研修主任と共に大学付属中学校の公開授業で研修したり、大学教授の講演を聴いたりする。さらにその情報を全職員で共有し、道徳の授業に活かす。

③　担任のみならず、副担任や教務主任、教頭も入り、ローテーションやＴ・Ｔによる授業を取り入れる。

【視点２】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

①　一人一人の考えを生かす協働的・対話的な言語活動の工夫

・トリオ学習の形態で、自分の考えを書いた後に他者と共有する場を設定する。

②　様々な状況にある人たちとの触れ合いを通した学習の工夫

・障がいのある人たちと接する機会や職場体験の時間を設定する。

③　目の前の生徒の実態を捉え、自分事として考えるための問い

・価値観の一方的な押しつけではなく、「考える道徳」にするための、精選した発問の工夫について研究を重ねる。発問が分かりやすいか、生徒が考えやすいか、授業の前にデモ授業を行い、数名の教師が生徒の立場になって考える場を設ける。

【視点３】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認めて励ます個人内評価として行う。

評価のポイントとして、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、さらにその中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかについて見取るため、生徒が「道徳のあしあと」（感想用紙）に一年間書きためる。

【視点４】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について

・　別葉に、各学年で扱うべき題材を一つ位置付け、実践する。

・　著名人の演説や資料として有効な映像を最大限利用し、視覚的に印象付けることで、イメージしやすくしたり心に残したりする。

・「紫紺の襷」「ありがとうの唄」を活用する。

駅伝を題材にした「紫紺の襷」の資料を基に、頑張るとはどういうことかを考えることで、生徒が自身の言動を振り返ることができるようにする。また、部活動に関連付ける。さらに、「ありがとうの唄」を全学年で実施する。

【視点５】家庭・地域との連携を生かした取組について

・　市教委主催の長崎派遣事業に３名の生徒会役員が参加し、学んだこと文化祭で発表する。また、演劇により、生徒、保護者、地域の方々が平和について考える。

・　保護者へのアンケート、親子道徳を実施することで、保護者参加型の道徳教育を目指す。

・　学校での取り組みをプリントやホームページで紹介し、家庭内で話題にするきっかけとするとともに、学校教育の理解を促進する。

6「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

・学校と保護者が連携し、保護者参加型の道徳教育を推進する。
・地元出身で活躍している人や企業を知ることにより、自分が住む地域に誇りをもち、郷土を愛する態度を養う。

【概要】

・年度当初に保護者にアンケートをとり、保護者の子どもに対する願いを把握した。
・授業参観日に、全学級で道徳の授業を行い、学校で行っている道徳教育の実態を知ってもらう一助とした。
・道徳の資料を生徒が持ち帰り、資料を読んで感じたことや考えたことを、親と子がそれぞれ同じプリントに書く「親子道徳」を全３回実施した。
・いわき市出身でプロの演奏家に来校してもらい、生の演奏を聴く機会を設けた。

【成果と課題】

・ アンケートの結果から、保護者が子どもにどのような力を身につけてほしいかを知ることができ、道徳教育の参考にすることができた。
・ 親子道徳により、道徳教育に保護者に参加してもらうことができた。生徒たちにとって、友人たち、教師、親という多様な考えに触れる機会となった。
・ 地元出身の演奏家が日本各地で活躍している様子を知ることで、多様な生き方の一つについて知ることができた。また、農園や選果場を訪問することで、地元の企業が市内外に大きな影響を与える実態を知り、地元理解につながった。
・ 生徒アンケートの結果、「自分と皆の意見が違うことが分かった」「いろいろな人がいることが分かった」「いじめの基準は人によって違うことを学んだ」など、他者理解を通して自分の言動を振り返り、自分自身について深く知る生徒がいることを確認することができた。

〈「親子道徳」のワークシート〉

7　成果と課題

○　道徳の授業終了後、毎回「道徳のあしあと」に、その授業で感じたことや学んだことを記録した。（全学級で実施。）生徒たちが何を考えたか、どう考えたかを教師が知ることができたと同時に、生徒の変容をみることもできた。
○　テキストマイニングを活用したことで、学級全体の考えの傾向を知ることができ、生徒たちが考えを深める一助となった。また、オクリンクを使うことで、自分の考えのみならず、友達それぞれの考えや意見を瞬時に全員で確認できるなど、ＩＣＴの効果的な使い方について考えることができた。

〈「道徳のあしあと」での振り返り〉

○　今回の推進事業を通し、教師の道徳の授業に対する考え方が変わった。発問のタイミングや、自分の考えを表出する方法と手段などについて、これまでの教職人生における道徳の授業を振り返り、今後どう授業を展開するべきか、全員が考えるきっかけとなった。
●　職場体験や一般企業の面接官による面接、プロによる演奏など、親や教師以外の大人と触れ合い、目標や多様な考えに触れることによる効果は大きい。多忙化解消がうたわれ、行事の削減を考えなければならない中、それを次年度の教育計画にどれだけ組み込めるかが課題である。
●　保護者や地域の方々に、道徳教育にどう関わっていただくかについては、親子道徳以外になかなか方法が見つからなかった。今後、他校や他県の例を参考にしたい。

令和５年度　　道 徳 教 育 全 体 計 画

いわき市立赤井中学校

◇日本国憲法
◇教育基本法
◇学校教育法
◇学習指導要領
◇いじめ防止対策推進法
　など

学校の教育目標

【自立】志をもって学力を高める生徒

【剛健】心身ともに健康で最後までやり抜く生徒

【友愛】互いに敬い切磋琢磨する生徒

時代や社会の要請

・国際化、高齢化、情報化など社会の変化に対応した指導を工夫する。

学校、学級における教育環境の整備計画

・道徳教育に有用な展示物の掲示や、情報の活用を工夫する。
・校舎内外や周辺の環境の美化を図る。

『ふくしま道徳教育資料集』活用の基本方針

・特別の教科　道徳で計画的に活用する。
・震災の体験を通じ、思いやりや感謝、命の尊重、敬愛、人の崇高さなどの価値項目に迫る際に用いる。

道徳教育の重点目標

(1) 人間としての生き方についての自覚をもつ。

(2) 自主・自律の精神を重んじ、規律ある生活ができる。

(3) 自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする。

(4) 国際社会に生きる日本人としての自覚を身につける。

各学年の重点目標

１年の目標	２年の目標	３年の目標
・自然の摂理の崇高さを知ることによって、自然環境を守ろうとする意欲を育てる。 ・自分や友だちのよいところを知り、相手の気持ちを大切に生活しようとする態度を育てる。	・集団での生活を意識し、互いに切磋琢磨する態度を育てる。 ・他者理解を通して自分自身を見つめ、自らの生活を振り返り、相手のことを考えた言葉遣いと行動を心がけようとする態度を育てる。	・自分の将来について目標をもち、着実に努力する態度を育てる。 ・社会の一員としての自覚をもち、責任を理解し、進んで社会に貢献しようとする意欲を育てる。

生徒の実態

・素直で学習意欲もあり、物事に一生懸命に取り組む生徒が多い。

学校や地域の実態と課題

・幼少より同じ人間関係での生活が長いため、競争心や粘り強くやり抜くことに欠ける生徒も見られる。

教師・保護者の願い

・自分の考えをもって行動し、困難に負けない強い心をもつ生徒。
・他の人の心の痛みがわかり、思いやりのある優しい生徒。

総合的な学習の時間

・勤労奉仕活動や施設訪問活動などのボランティア活動を行い、感動や充実感をもって問題に取り組む態度を育てる。

特別活動

A 学級活動	一人ひとりが自分の役割を認識し、協力し合う態度を育てる。
B 生徒会活動	学校生活向上のために、自主的・自律的に活動を計画し、課題に取り組む態度を育てる。
C 学校行事	各行事への参加を通して、より充実した学校生活を築こうとする態度を育てる。

特別の教科　道徳の指導方針

・生徒一人ひとりの道徳的価値の自覚を促し、しっかりした道徳的判断力に基づく実践力を育てる。
・体験的な活動と密接に関連づけて指導する。
・生徒の考え方、感性の違いを大切にし、お互いの個性を認め合うようにする。

各教科

国語	・各教科において教科の目標を達成する中で、郷土愛、伝統・分化、人権、国際理解、生命尊重、健康・安全、人権について学び、それらについて自分の考えをもち、行動しようとする態度を養う。 ・生徒一人ひとりの個性・能力に応じた指導の展開に努めるとともに、相互に協力し合い励まし合う学習態度の育成に努める。 ・集団の中での学習活動を通して、望ましい人間関係のあり方を啓発していく。
社会	
数学	
理科	
音楽	
美術	
保体	
技家	
英語	

特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導との関連

・全教育活動において、募金活動やボランティア活動など、実社会の中での役割を実感できるような体験の場を設定する。

日常生活における指導 生徒指導との関連

・集団の一員として、自覚をもって目標を立て、自己実現に努める態度を育成する。

・教師と生徒相互の望ましい人間関係を構築する。

小学校・高等学校・特別支援学校との連携

・小学校との情報交換を密にし、生徒の実態をつかむ。

・高等学校の公民科の内容を把握し、関連を図る。

家庭・地域社会との連携

・福祉施設などとの交流によって思いやりの心をもたせる。

・家庭や地域に向けた様々な通信を充実させ、道徳教育への理解を深める。

令和５年度 道徳教育の全体計画別紙１　（道徳科と教科指導・特別活動等との関連表）

道徳教育の重点目標	自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成を目指す。	学校の重点指導	A－(6)　思いやり、感謝　　B－(9)　相互理解、寛容

いわき市立赤井中学校　３年

内容項目		道徳科	特別活動 学級活動	生徒会活動	学校行事	総合的な学習の時間	各教科 国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語	地域・家庭との連携	内容項目	
A-(1)	自主，自立，自由と責任	父のひと言	・最上級生としての心構え ・1学期の反省と夏休みの学習計画 ・望ましい食習慣 ・2学期の反省	あいさつ運動(通年)	オリエンテーション，身体計測，修学旅行，始業式・終業式，三者相談・二者相談		・誰かの代わりに						・体つくり運動		SA1 My Activity Report		A-(1)	自主，自立，自由と責任
A-(2)	節度，節制	歩きスマホをどうするか（モラル）			入学式，卒業式			消費生活と経済	・相似な図形の面積				・水泳		Let's Write 2 記事への意見 投稿文		A-(2)	節度，節制
A-(3)	向上心，個性の尊重	ひび割れ壷	・充実した学校生活 ・２学期の目標 ・進路実現に向けて		文化祭		・私を束ねないで						・陸上競技 ・ダンス		U1 Sports for Everyone		A-(3)	向上心，個性の尊重
A-(4)	希望と勇気，克己と強い意志	片足のアルペンスキーヤー・三澤拓	・3年生としての学習 ・進路を考える ・進路選択に備えて ・進路選択の決定 ・進路実現に向けて ・将来に向けて		弁論大会，英語弁論大会										Let's Read 3 A Graduation Gift from Steve Jobs		A-(4)	希望と勇気，克己と強い意志
A-(5)	真理の探究，創造	無限の道	・放射線による影響				・人工知能との未来	国際社会の仕組み	・式の計算の利用	・生命の連続性		・「イメージを追い求めて」		・計算・制御をプログラミングによる問題解決			A-(5)	真理の探究，創造
A-(6)	思いやり，感謝	足袋の季節		あいさつ運動(通年) 壮行会 ３年生を送る会	離任式	文化祭での合唱			・相似な図形				・集団行動		Let's Talk 2 町中での手助け		A-(6)	思いやり，感謝
B-(7)	礼儀	校長先生の模擬面接															B-(7)	礼儀
B-(8)	友情，信頼	フットライト 僕は友達を裏切ったのか？ ありがとうの唄	・体育祭を成功させよう		修学旅行，文化祭，		・初恋		・2次方程式の利用		・旅立ちの日に		・バスケットボール ・バレーボール				B-(8)	友情，信頼
B-(9)	相互理解，寛容	uta	・男女理解と協力		全校集会(通年)		・握手	第二次世界大戦と日本 戦後の日本の発展と国際社会　人権と共生社会		・地球と私たちの未来のために			・集団行動 ・チームプレイ		U4 Be Prepared and Work Togather		B-(9)	相互理解，寛容
B-(10)	遵法精神，公徳心	二通の手紙	・情報モラルを守ろう	あいさつ運動（通年）	修学旅行，文化祭，交通安全教室、情報モラル教室、あいさつ運動								・ダンス				B-(10)	遵法精神，公徳心
B-(11)	公正，公平，社会正義	それでも僕は桃を買う 音楽は対話の始まり						第一次世界大戦と日本 世界恐慌と日本の中国侵略							U5 A Legacy for Peace		B-(11)	公正，公平，社会正義
C-(12)	社会参画，公共の精神	鳩が飛び立つ日～石井筆子～ 裁判員制度を考える 憧れの消防団	・社会の一員として生きる		避難訓練，不審者対応訓練			新たな時代の日本と世界 現代社会と私たちの生活 現代の民主政治と社会 国の政治の仕組み 地方自治と私たち			・卒業式歌				LR1A mother's Lullaby		C-(12)	社会参画，公共の精神
C-(13)	勤労	ふきのとう	・働くことと生きること		クリーン作戦	職場体験		これからの地球社会と日本								PTA奉仕作業 授業参観	C-(13)	勤労
C-(14)	家族愛，家庭生活の充実	テーブルの卵焼き			三者相談・二者相談			現代社会と私たちと生活 現代社会の特色と私たち 政府役割と国民の福祉						私たちの成長と家族・地域			C-(14)	家族愛，家庭生活の充実
C-(15)	よりよい学校生活，集団生活の充実	旅立ちの日に	・学級の目標と組織 ・学級の諸問題の解決 ・集団生活の向上 ・後期の学級組織 ・文化祭を成功させよう ・卒業までの生活 ・中学生活のまとめ	生徒会対面式 生徒会総会 生徒会本部役員選挙 生徒会専門委員会				現代社会と私たちと生活 現代社会の見方や考え方 現代の民主政治			・校歌				SA3 Let's Have a Mini Debate		C-(15)	よりよい学校生活，集団生活の充実
C-(16)	郷土の伝統と文化の尊重，国を愛する態度	かき縄 琵琶湖の水を京都に送る						私たちの生活と文化 これからの経済と社会		・地球と私たちの未来のために					SA2 Discover Japan	山外舞の見学と体験	C-(16)	郷土の伝統と文化の尊重，国を愛する態度
C-(17)	我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度	日本の伝統文化　将棋 世界に誇る「BONSAI」					・故郷 ・和歌の世界 ・君待つと ・夏草	第一次世界大戦と日本 二度の世界大戦と日本 現代の日本と世界			・羽衣 ・荒城の月				U2 Haiku in English		C-(17)	我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度
C-(18)	国際理解，国際貢献	あふれる愛 平和への願い					・学びて時に之を習ふ ・温かいスープ	第一次世界大戦と日本 二度の世界大戦と日本 現代と日本の世界 戦後の日本の発展と国際社会 新たな時代の日本と世界	・母集団と標本調査	・生命の連続性					U6 Beyond Borders		C-(18)	国際理解，国際貢献
D-(19)	生命の尊さ	ハゲワシと少女 いのちの花プロジェクト 家族の思いと意思表示カード		長崎派遣事業		職場体験		第二次世界大戦と日本 戦後の日本の発展と国際社会 これからの人権保障		・生命の連続性 ・地球と私たちの未来のために			・健康な生活と疾病の予防				D-(19)	生命の尊さ
D-(20)	自然愛護	サルも人も愛した写真家 変わりゆく地球					・作られた「物語」を超えて ・挨拶一原爆の写真によせて	これからの経済と社会 さまざまな国際問題		・地球と私たちの未来のために					U3 Animals on the Red List		D-(20)	自然愛護
D-(21)	感動，畏敬の念	もう一つの時間 カムイモシリとアイヌモシリ								・地球と私たちの未来のために							D-(21)	感動，畏敬の念
D-(22)	よりよく生きる喜び	カーテンの向こう 償い	・不安や悩みの解決 ・充実した冬休み ・新年の抱負					新たな時代の日本と世界	・三平方の定理	・生命の連続性		・「今を生きる私へ」 ・「自分へ贈る卒業記念」					D-(22)	よりよく生きる喜び

※黒字は教科書（教育出版）、赤字はふくしま道徳教育資料集（福島県教育委員会）　による。

＜他者理解を通した自己理解への工夫＞

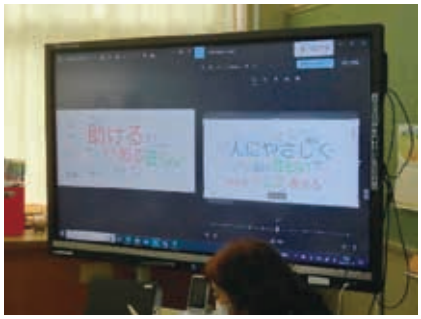
・テキストマイニングにより、他の生徒がどう考えているのかを知り、自分の考えと比較させた。（テキストマイニングは、授業前と後で生徒たちの考えの変容を見るためにも活用した。）

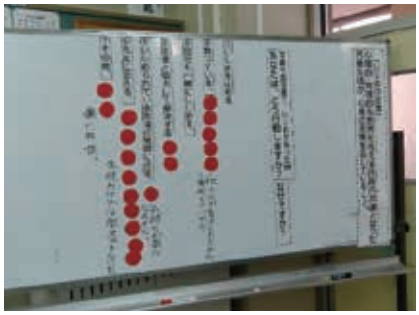
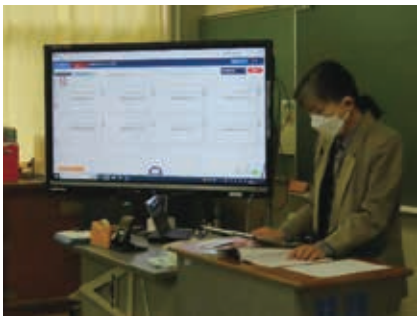
・ポジショニングにより、自分と他の生徒の意見の分布を把握させることで、意見を発表する際のきっかけとなるようにした。

・オクリンクを活用し、生徒たちが書いた感想を電子黒板に映し、友人がどう考えているかを知る機会を設定した。

・親子道徳の資料を教室前の廊下に掲示し、生徒たちが、教師以外の大人がどう考えているのかを知り、自分の考えを確認する場を設定した。

・進路説明会や企業面接講座で、多くの人と接する機会が多い方々の意見に触れることにより、これまでの自分の考えを振り返ったり、今後の自分について考えたりする機会を設けた。



＜道徳の授業を通して分かったこと、考えたこと＞（生徒アンケートから一部抜粋）

- ○ 自分の言動をもう一度考えようと思った。
- ○ いじめのとらえ方や、同じ行為でもその受け止め方は、人によって違うということが分かった。
- ○ これからはもっと相手の気持ちを考えて行動するようにする。
- ○ 友達に対しての言葉遣いは、相手を思って使わなければならいことを学んだ。
- ○ 言葉遣いに気を付けたい。
- ○ 人の気持ちを考えてから行動したいと思う。

飯野小学校第１学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和５年１１月１０日（金）第２校時
授業者：福島市立飯野小学校　教諭　松本光里

授業テーマ	おおかみがくまの優しさに触れ、感動する場面の役割演技で、児童一人一人がおおかみに共感しながら心の中をじっくりと考えることを通して、親切にされたり親切にしたりすることの心地よさを実感することができる授業

１　主題名　親切の心地よさ　Ｂ－（７）親切、思いやり
２　教材名　はしの上のおおかみ（出典：わたしたちの道徳１・２年）
３　主題設定の理由
（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本主題は、低学年の内容項目Ｂ（７）「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」をねらいとしている。指導内容は、よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心をもち親切にすることに関するものである。家族だけでなく身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考えて、優しく接することができるようになることは、対人関係において欠かせないものである。そして、相手の喜びを自分のこととして受け入れられるようにし、親切な行為ができるようにすることが重要である。

（２）　児童の実態（子ども観）

本学級は、素直で優しい児童が多く、誰かが困っていたら自分から声をかけ、励ましたり手助けをしたりする姿が多く見られる。また、学級や学校のためを思って進んで行動するなど、様々な人々との関わりを通して、相手の気持ちに気付いたり、想像したりすることができるようになってきた。一方で、相手が困っていることに気付かなかったり、自分の思いを優先したりする自分本位の考えで行動してしまう児童も見られる。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

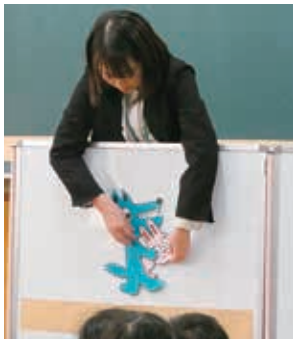
本教材は、大きなくまとの関わりで変化したおおかみの気持ちを考えることを通して、ねらいに迫るものである。一本橋で、自分よりも小さいうさぎやきつねを追い返していたおおかみだったが、大きなくまに優しくされたことから、相手を思いやり、親切にすることの心地よさに気付く内容である。おおかみが、大きなくまの優しい態度に接して、今までの自分の行動を振り返り、誰に対しても思いやりの心をもって接することのよさに気付いた点から、親切にすることの大切さについて考えることができる教材である。

指導にあたっては、まず、自分より小さい動物に対しては威張って、優越感を感じているおおかみの気持ちに気付かせる。そして、自分より大きなくまの優しさに触れて感動する気持ちについて、保護者も参加する役割演技を通してじっくり考えさせることで、誰に対しても思いやりの心をもって接することについてより深く考えることができるようにしたい。終末には、これまでの自分は、周りの人に優しくすることができていたかを振り返ることで、「親切にすること」について自分事として捉え、身近な人に温かい心で接し、親切にすることの心地よさについて、実感をもって考えることができるようにしたい。

４　本時のねらい

優しいくまと出会った場面の役割演技を通して親切にされたときの心地よさに気付き、身近な人に対して思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。

５　板書計画（実際の板書）



〈パネルシアターで教材提示〉

６　学習過程

学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価
１　本時の学習テーマをつかむ。 （１）　アンケートの結果から、身近な人に親切にしてもらったことを紹介する。 ○　この時、どんな気持ちでしたか。 ・　助けてもらって、嬉しかった。 （２）　本時の学習テーマをつかむ。 やさしくすると、どんなきもちになるのかな。	3	○　親切にされた経験のアンケート結果を提示し、その時の気持ちを考えることで、ねらいとする道徳的価値に対する問題意識を高めることができるようにする。
２　教材文を読んで考える。 （１）「はしの上のおおかみ」のお話を聞く。 （２）　おおかみの気持ちについて考え、話し合う。 ○　うさぎやきつねを追い返した時、おおかみはどんなことを思っていたのでしょう。 ・　俺は大きくて強いから先に渡る。 ・　通せんぼうするのはおもしろいな。 ・　いい気持ちだ。 ◎　くまに抱き上げられ、反対側に下ろしてもらったおおかみは、どんなことを考えていたのでしょう。 ・　渡らせてくれてありがとう。 ・　俺は、うさぎやきつねにいばって通せんぼうしてしまったのに、くまは渡らせてくれてすごいな。 ・　追い返すのではなくて、抱えて渡らせてあげるといいのか。 ○　うさぎを抱き上げて反対側に下ろしてあげたおおかみは、どんなことを考えていたのでしょう。 ・　今度は、うさぎに優しくできてうれしいな。	27	○　登場人物と場面を紹介し、教材への関心を高め、パネルシアターでより深く物語の世界に入り込めるようにする。 ○　自分より小さくて弱い動物に対して自己中心的な行動をとるおおかみの気持ちに気付かせることで、相手によって態度を変えず、親切な行動をとるくまと対比できるようにする。 ○　全体の前にグループで役割演技をすることで、児童一人一人がおおかみの気持ちを考えることができるようにする。くまの優しさへの感動や憧れ、これまでの自分への反省など、多様な考えを引き出すことができるようにする。 ○　役割演技では、くま役を教師と保護者が、おおかみ役を児童が演じることで、児童がおおかみに共感しながらおおかみの心の中をじっくりと考え、親切にすることのよさを実感できるようにする。 ○　児童が考えたおおかみの気持ちを受けて、保護者にはくまの気持ちを話してもらうようにする。 ○　役割演技を見ている児童からも考えを引き出すことで、親切についての考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。 ※　くまに抱き上げられ、反対側に下ろしてもらったおおかみの心の中について、自分の考えと友達、保護者の考えを比べて考えているか。（発言） ○　親切にすると、相手だけでなく自分もいい気持ちになることに気付くことができるようにする。
３　自分を見つめ直す。 （１）　これまでの自分を振り返る。 ○　これまでの自分は周りの人にやさしくすることができていましたか。 ・　年長さんとの交流会の時、並ぶ場所を教えた。 ・　学習発表会の劇の練習で、台詞を忘れた友達に教えた。 （２）幼稚園の先生や園児からもらった、幼小交流活動についてのお礼のメッセージ動画を視聴する。	15	○　写真を提示し、共通体験を生かして振り返ることで、自分をじっくりと見つめられるようにする。できた理由やその時の気持ちについても引き出すことで、親切にすることの心地よさについて実感をもって考えることができるようにする。 ※　身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることができていたか、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えているか。（ワークシート・発言） ○　幼稚園の先生や園児からの、エピソードと感謝のメッセージを聞くことで、親切にすることの心地よさを感じ、実践意欲を高められるようにする。

7　考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳指導の工夫の視点から

（１）「多面的・多角的に考える」（つながる）について

○　役割演技を取り入れることで、児童が自分事としておおかみの気持ちをじっくりと考えることができた。全体での役割演技に加えて、小グループで役割演技を行い、全員がくま役の保護者に抱きかかえられることで、親切にされるよさを感じ取ることができた。

○　教師が「どうしてそう思ったのか」理由を尋ねたり、見ている児童にも「どう思うか」問いかけたりしたことで、役割演技をしている児童だけでなく、見ている児童も、考えを深めることができた。

〈保護者との役割演技〉

○　授業に参加している友達のお父さんやお母さんにも、振り返りカードを見せに行くなど、友達や保護者と、自らつながろうとする児童の姿が見られるようになった。

●　「なんで意地悪がしたくなったのかな」という児童のつぶやきを取り上げ、意地悪をした理由を考えた後に、意地悪をした時よりも親切にした時の方がいい気持ちになることに気付かせたかった。

〈幼稚園・保育園の先生からのメッセージを聞く姿〉

（２）「自己を見つめ直す」（見つめる）について

○　言葉での表現が難しい児童には、教師が言語化することで、自己を振り返ることができていた。回数を積み重ねることで、自己を見つめることができるようになった。

○　幼稚園の先生や園児からの感謝のメッセージを嬉しそうに聞く姿から、親切にすることの心地よさを感じ、今後の実践意欲を高めることにつながったようであった。

（３）「家庭・地域とつながる」について

○　保護者の授業参加を複数回行ってきたことで、児童も保護者も積極的に役割演技に取り組むことができた。児童がおおかみの気持ちをうまく言えないときには、役割演技を２回行ったり、保護者が「どう思ったの」と児童に問いかけたりするなど、保護者が個々の児童に柔軟に対応することで、教師が想定する以上に多様な考えを引き出すことができた。

○　２学期の道徳授業参加のお願い（計４回分）を早めに保護者に伝えたことで、毎回１０名以上の保護者の参加につながった。自分の子どものみならず、学級の児童全体に目を向け、多くの児童と関わっていただいた。

〈保護者に振り返りカードを見せる姿〉

＜保護者の感想＞　くま役として前に立ちましたが、子どもたちが言った言葉に対して“優しい気持ち”を言葉で伝える難しさを感じました。物語を読んで思うことはたくさんありましたが、それを相手に伝えるということは簡単ではなく伝わったのかな？と不安になりました。やはり言葉だけでなく、日頃から行動で表していくことで子どもに優しさや思いやりの気持ちは伝わると改めて考えさせられたので、今後は今まで以上に行動や態度で示していきたいと思います。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

○　日頃から教師も児童も友達のよさに目を向け、学校生活のあらゆる場面でそれを伝えたり、道徳コーナーにメッセージを書いたものを掲示したりしてきた。

○　保護者参観や参加の授業を計画し、保護者に見守られながら、温かい雰囲気の中で授業を行ってきたことで、児童は素直な考えを意欲的に発表することができた。さらに、友達の発表の際には顔を見て聞き、それにつなげて発表したり、振り返りの際には、自己をじっくりと見つめて振り返りを書いたりすることができた。

〈振り返りカードへの保護者からのコメント〉

須釜小学校第４学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和５年１１月９日（木）第５校時
授業者：玉川村立須釜小学校　教諭　永山　光司

授業テーマ	学級新聞作りにおける相手への思いを話し合うことで、自分と異なる意見や立場も受け止めようとする姿勢を育む授業

１　主題名　広い心をもって　B－（11）相互理解、寛容

２　教材名　「学級新聞作り」（出典：小学道徳　豊かな心４年　光文書院）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが不可欠である。自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止めて相手への理解を深めることで、自らを高めていくことができる。広がりと深まりのある人間関係を築くためには、自分と異なる意見について、その背景にあるものは何かを考え、傾聴することができるようにすることが必要になる。

（２）　児童の実態（子ども観）

本学級は、児童数１５名の学級である。児童は、自他の立場や感じ方、考え方などの違いをおおむね理解することはできるようになってきているが、違いを受け止められずに感情的になったり、それらの違いから対立が生じたりすることも少なくない。また、「自分の考えが正しい」と相手の考えを受け入れようとしなかったり、自分の考えが相手に伝わらないもどかしさから、発信することを諦めてしまったりしている様子もみられる。

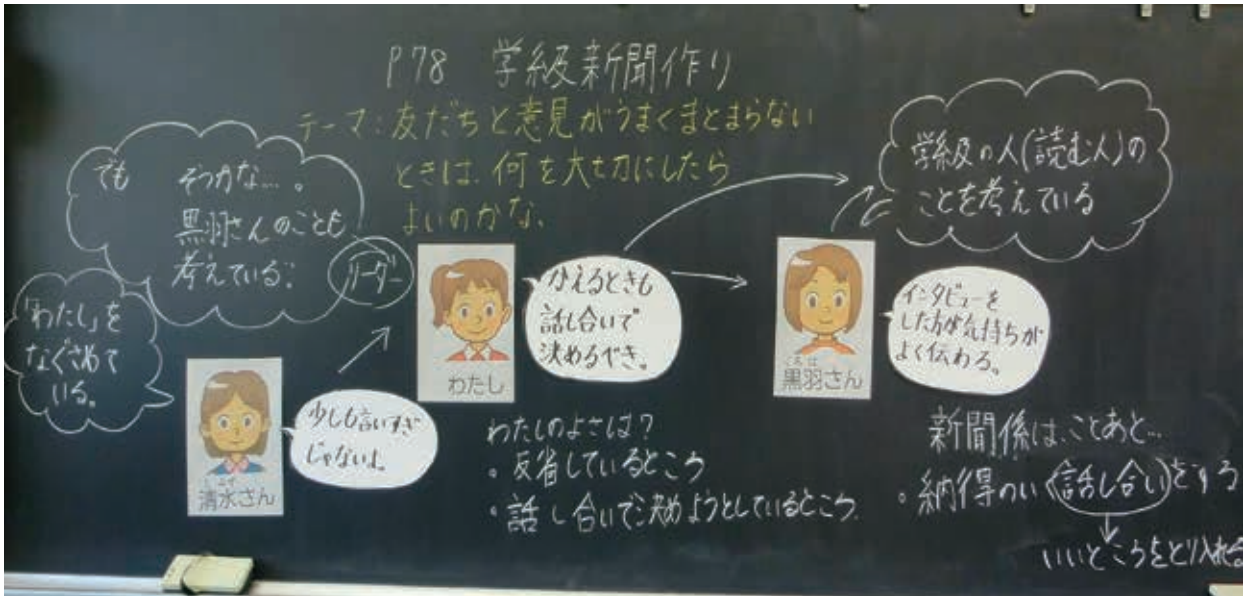
（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、学級新聞を作る「新聞係」の中で主人公である「わたし」と「黒羽さん」の考えが違うことから主人公が悩む物語である。主人公の悩みの中には、「黒羽さんの考えも正しい」という相手を受け入れる姿も描かれており、どうして主人公が迷っているのかを考えさせたい。指導にあたっては、「わたし」に焦点化して迷っている理由を考えさせ、両者の考えが正しいということをとらえることができるようにする。その上で、黒羽さんの思いを受け入れようとしている「わたし」が、相手の言葉の裏側にある思いを知り、相手への理解を深めようとしていることを価値付けるようにしたい。

４　本時のねらい

学級新聞作りにおける３人の思いを話し合うことで、自分と異なる意見も大切にしようとする道徳的判断力を育てる。

５　板書計画（実際の板書）



６　学習過程

学習活動・内容 （◎中心発問・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価
１　本時の課題をつかむ。 （１）アンケートを振り返る。 ○　友だちとの間でうまく意見がまとまらなかった時、どのようにしていましたか。 ・　自分の意見を伝え続けた。 ・　自分の考えは伝わらないとあきらめた。 （２）本時のねらいをとらえる。 友だちとの間で意見がまとまらないときは、どんなことを大切にすればよいのかな。	3	○　事前にアンケートをとることで、児童の考えを把握できるようにする。また、そのアンケートを提示することで、本時の課題を端的に把握できるようにする。 ○　アンケートに児童の考えや思いが書かれていた場合にはそれを取り上げることで、行動の基になった思いがあったことを確認し、課題意識を高めることができるようにする。
２　教材文を読んで考える。 （１）教材文の範読を聞き、内容を確認する。	37 (7)	○　教材文には３人の登場人物（わたし、黒羽さん、清水さん）が出てくることを確認する。その上で、「３人はそれぞれ誰のために発言しているのだろう」と問いかけてから範読することで、３人は誰のことを考えて意見を言っているのかに注目することができるようにする。
（２）自分と関連付けて話し合う。 ◎　３人の中で、相手のことを一番考えているのは誰でしょうか。 ・　新聞係のリーダーとして、係のことや新聞を読む人のことを考えているから「わたし」だと思う。 ・　学級のみんなに、より伝わりやすい新聞を書こうとしている「黒羽さん」だと思う。 ・　困っている友だちを支えてあげているから、「清水さん」だと思う。	(25)	○　タブレット端末に児童の考えを入力させる際、カードの色を変えることで立場が明確になるようにする。さらに、カードにその立場を選んだ理由を記入させるようにすることで、立場と理由を整理できるようにする。 ○　新聞は学級みんなのものであることを確認し、それぞれの思いがそこに向かっていることを押さえるようにする。 ○　３人の考えの中でも、「わたし」のよさを取り上げることで、意見がまとまらない時にどうすればよいかを考える手がかりにできるようにする。
○　これから、新聞係は何を大切にして活動をするとよいでしょうか。 ・　もう一度、お互いの考えを話し合う機会をもつ。 ・　友だちの考えをよく聞く。 ・　相手の考えのよいところを受け入れるようにする。	(5)	○　今後の新聞係の行動は、「話合いの機会をもつ」→「話を聞く」→「相手の考えのよさを受け入れる」という段階的に分かれることを取り上げることで、自分と異なる考えを受け入れるための選択肢を示すことができるようにする。そうすることで、終末で自己の振り返りを行う際に選ぶことができるようにする。
３　これまでの自分を振り返る。 ○　友だちと意見がうまくまとまらなかった時の自分に点数をつけると、１０点中、何点でしょうか。また、１０点に近づけるためには何を大切にすればよいと思いますか。 ・　自分の考えばかりを優先していたから４点。相手の考えも聞くようにしたい。 ・　相手の考えも聞いていたけれど、受け入れていなかったから７点。相手の考えも受け入れるようにしたい。	5	○　友だちとうまく意見がまとまらない場面が思いつかない児童には、導入のアンケートを再提示することで、自分の経験に基づく振り返りができるようにする。 ※　自分の生活や内面を振り返って、今までの友だちとの関わりについて考えているか。（ワークシート）

7　考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

（1）「児童がより深く考えられるような学習過程の工夫」について

○　タブレット端末を活用して価値に関連した日常生活のアンケートを実施し、その結果を見せることで、本時の課題を設定するようにした。自分や友だち、生活に関する振り返りを事前に行うことで、授業の導入から課題意識を高くもたせることができた。

　また、導入で活用したアンケートの場面を終末に再提示して、「今のあなたなら、このとき何を大切にするか」という振り返りの問いかけをするようにした。そのことで、実生活に即した振り返りを行わせることができた。

○　「あなたが主人公なら…」「あなたが登場人物なら…」という中心発問をすることで、教材に自我関与させることができるようにした。そのような中心発問を繰り返し行うことで、児童が登場人物に自分を投影して考えることができるようにした。

●　中心発問に至るまでの補助発問や教材のあらすじの確認において、限られた時間の中で「何を」「どのように」取り上げるかが課題である。それらを行う際には、ねらいに照らし合わせて、厳選して行うようにしていきたい。

（2）「問い返し発問の工夫」について

○　特に中心発問における児童の考えが出た時に、問い返し発問を行った。「あなたには、主人公と同じような経験があるか」と問うことで、児童が実体験を根拠として考えられるようにした。

○　問い返し発問を繰り返し行ってきたことで、児童同士が意見交流をする際にも、お互いに「それは○○ということか？」「その考えは、どんな経験から考えたのか？」などと尋ね合う姿が見られ、話し合いに深まりがみられた。

●　問い返し発問をするためには、事前に教材を深く読みこみ、児童の思考を予想しておく必要がある。その準備が甘く、ねらいとはずれた問い返しをしてしまうことが多かった。

●　問い返し発問をすると、意見を話した児童のみが考えるようになってしまうことがあった。発言した児童の考えを認めつつ、その問い返しを全体に行うように意識した。

（3）「共に学ぶ道徳科の授業実践」について

○　他の学年の授業構想シートを読んだことで、「自分の授業では…」と見通しを持つことができた。

○　授業構想シートを書いたことで、価値やねらいを明確にすることができ、指導案に１本の軸を通すことができた。

○　事前研究会で自分の悩みをアウトプットする場があったことで、自分の思考を整理することができた。加えて、様々な意見を聞いたことにより、中心発問や学習活動に新たな気付きをもたらすことができたり、それらのバリエーションを増やすことができたりした。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　毎回の授業において、学習カードを作成して児童の考えや振り返りを書くことができるようにした。そして、教員が励ましのコメントを書いてファイルに蓄積することで、年間を通して評価をする材料とした。また、帰りの会で行う「ほめ言葉のシャワー（児童同士でよさを伝え合う活動）」から児童の成長の様子を見取るようにした。

○　中心発問に対する考えは、タブレット端末に表出させるようにした。その際、クラウドを活用することで、過去の道徳科の学びをいつでも振り返ることができるようにした。

光南高等学校　第１学年「産業社会と人間」学習指導の実際と考察

日　時：令和５年１０月１８日（水）　第５校時
授業者：福島県立光南高等学校　教頭　深谷　亮幸
教諭　星　貴夫　教諭　瀬川　恵
教諭　藤井　智之　教諭　佐藤　由美
教諭　鈴木　庸子　教諭　満山　和樹

授業テーマ	インターネットを使ったコミュニケーションの特性を理解し、情報化社会に必要な態度などの情報モラルの育成を図る授業

１　単元名　社会の中で生きること「情報モラル」

２　単元設定の理由

（１）　教科及び単元について

高等学校においては、特色ある教育課程の編成に資するため学校設定教科を設けることができる。総合学科のある高等学校では、学校設定教科として「産業社会と人間」が設けられることが多い。この教科は、高等学校学習指導要領において、「産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養う」とされている。この点が、高等学校の道徳教育の目標である「人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」と重なる部分が多い。このことから、本校では、教科「産業社会と人間」を要として道徳教育を進めている。

本単元では、社会の中の様々な問題を自分の考えを持ち、話合いを通して自己の在り方生き方を考えていく授業を展開していく。その中の一つに「情報モラル」を学ぶことが含まれている。本教科では、情報モラルを変化の激しい情報化社会を上手に生き抜くために必要となる「心がけ」と「知恵」と定義している。特にこの教科では、その「心がけ」を学ぶ。ちなみに、「知恵」の部分は、教科「情報」で学んでいくこととなる。また、情報モラルの「心がけ」とは、他人の人格や権利を守り尊重しようとする態度と定義され、道徳教育との関わりが深い。

（２）　生徒の実態について

本校の生徒は、自分で選択した授業を受けており、また部活動が盛んであるため、活気があり、楽しく充実した学校生活を送っている。一方、自分自身に対して自信が持てず不登校になる生徒がいたり、スマートフォン等の誤った使い方によるトラブルが発生したりしているのも事実である。そのため、自他との深い関わりを通じて、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考える場を充実させることで、それぞれの個性や立場を尊重し合えるような態度を育成することが必要である。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

本授業は、一般財団法人 LINE みらい財団・静岡大学の「楽しいコミュニケーションを考えよう！基本編」の教材を教科・単元のねらいに合わせて活用する。本教材は、コミュニケーションを行う際に重要となる自分と相手との価値観の違いに気づくことができ、自分の考えや気持ちをよりよく相手に伝える方法を考えることができるものである。

指導に当たっては、SNS でのコミュニケーションの具体的な場面における他者と自分の考えを比較したり、グループ学習を通して自分事として問題に向き合い考えたりすることで、情報を活用する当事者としての自覚を促したい。なお、第１学年全体に対しての授業のため、ICT 機器を活用しオンライン形式で授業を行う部分と担任が各学級の生徒の実態に合わせて指導を行う部分を設けている。

３　中学校道徳科の内容項目との関連

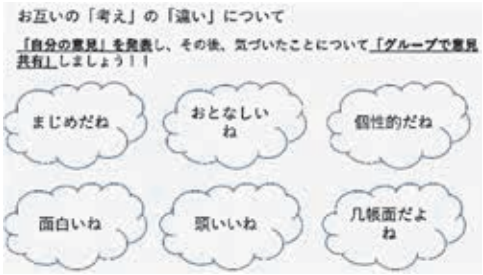
「B（９）相互理解、寛容」

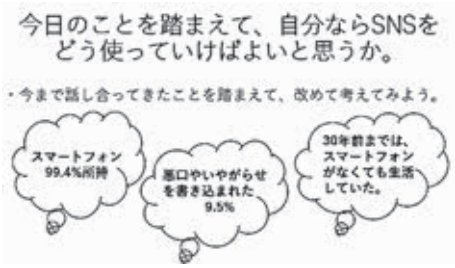
自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。

４　本時のねらい

互いの価値観の違いを理解し、正しいコミュニケーションについて考えを深めることができる。

5　板書計画（実際の板書）ICT を活用のためスライドの一部を掲載





6　学習過程

学習活動・内容 （・生徒の反応）	時間	○　指導上の留意点　　※　評価
1　本時のねらいを把握する。 （１）コミュニケーションの手段や種類を把握する。 （２）コミュニケーションはいつ必要なのか考察する。 ○夜遅い時間といえば何時から？ ○お寿司のネタで「定番」といえば？ 価値観の違いを理解し正しいコミュニケーションについて考えよう。	10	○　あらかじめグループ分けを行っておき、グループで意見を出し合うようにさせる。 ○　意見の相違が出やすい質問をすることで、活発に意見を出させる。 ○　意見の違いに気づかせ、それが価値観の違いであることを意識させ、本時のねらいにつなげる。
2　お互いの「考え」の「違い」について考察する。 （１）自分とみんなの言われて「イヤだと感じる言葉」は何か。自分でワークシートに記入したのち、グループ活動により意見を共有する。 まじめだね、おとなしいね、面白いね、個性的だね、頭いいね、几帳面だよね 3　SNS の特性について考察する。 グループラインの会話や実際起こった例をもとに、気づいたこと、注意点をワークシートに記入し、意見共有を行う。 ・　自分自身は、悪気なく送ったLINE のメッセージでも、他の人からすれば不快に思うこともある。 4　今日のことを踏まえて、自分ならSNS をどう使っていけばよいと思うか、今まで、話し合った内容をもとに、考察し、共有する。 ・　自分が嫌だと思う言葉でも違う人からすれば褒め言葉になることもある。そのことを意識して SNS を使っていくことが大切である。	30	○　提示された言葉について、「イヤだな」と感じる言葉を考えさせ、グループで話し合わせる。 ○　自分と相手の意見に違いがあることを共有する。 ○　「イヤな言葉」は、相手によって違うことについて気付くよう強調する。 ○　SNS でのコミュニケーションでは、感情が伝わりづらいことや誤解が生じやすいということに気づくよう促す。 ○　答えがない問いをなげかけ、生徒の主体性や思考力・判断力・表現力が養えるよう促す。
5　本時の内容を振り返る。 本時で学習した内容について振り返りシートに記入する。	10	○　「イヤな言葉」は、相手によって違うことや SNS 上では、感情が伝わりづらいこと、誤解が生じやすいことについて振り返る。 ※　本時をとおして考えた自分の意見を記述しているか。 （振り返りシート、Google Forms）

7　考察

自己を見つめ、深い学びを実現する視点から

（１）「自己を見つめる場の設定」について

○　導入時に、生徒へ「夜遅い時間といえば何時から？」「お寿司のネタで定番といえば？」など答えやすい質問について Google Forms を使って行った。そして、即時に集計した結果を教師から紹介した。そのことで、生徒が自己を見つめるためのウォームアップができたと共に、その回答の違いを意識させることができた。そのことから、お互いに様々な価値観に違いがあることを意識することができ、本時のねらいの設定へつなげることができた。

○　「SNS をどう使っていけばよいと思うか。」という発問の後に、自分の意見をワークシートにまとめる時間をしっかりと確保することで、自分の考えを持った上で、グループでの話合いにつなげることができた。

〈考えをまとめる時間の確保〉

（２）「深い学びを実現する場の設定」について

○　SNS をどう使っていけばよいかについて、グループで話し合う時間を十分に取るようにした。そのことで、互いの考えの相違点について積極的な話合いができた。「自分が嫌な言葉でも、違う人からしたら褒め言葉になる場合もある。」「人によって言葉の意味は違う。」「価値観が人によって異なる。それを意識して SNS を使わないと誤解される時もある。」など、様々な立場や場面を多面的・多角的に考える機会となった。

〈グループ活動の様子〉

●　授業を主として進める教員は、オンライン配信の教室からの授業を行ったため、生徒の学習状況等を各教室のカメラから把握した。しかし、各グループの話合いの細かい内容を把握ができないというデメリットがあった。そのため、各教室にいる担任がグループの話合い状況を確認し、生徒への助言や価値付けを行った。今後、同じ授業をどの教室でも行えるオンライン配信による授業のメリットを生かせるように、グループの話合いの状況を配信側の教員も把握できるオンライン配信による授業の在り方を工夫・改善していきたい。

〈オンライン配信の様子〉

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

（１）振り返りの場の確保

○　「価値観の違いを理解し正しいコミュニケーションについて考えよう。」という課題に対して、この授業で考えたことを振り返る場を確保した。生徒は、タブレットへ入力して担当教師へ提出するという形式をとった。ワークシートと合わせてその振り返りにより、生徒の考えの変容を把握できるようにした。

（２）生徒を認め励ます評価について

○　高等学校には道徳科の授業がないため、生徒の気持ちを受け止めて、認めたり励ましたりする場面が少ない。しかし、今回の授業で課題に対して、様々な考えを主体的に話し合い、よりよい在り方・生き方について意見交換できる生徒であることを学校として把握することができた。今後、その生徒のよさを生かす道徳教育を学校の教育活動全体を通して行っていくことで、さらに生徒の道徳性を養っていきたい。

喜多方市立第三小学校第１学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和５年１１月１３日（月）　第２校時
授業者：喜多方市立第三小学校　教諭　野田陽香

授業テーマ	役割演技や友だちの考えを聞き合う活動を通して、自分だけでなく年下の子の気持ちを考えて接するという道徳的実践意欲を育む授業

１　主題名　あいての気もち　Ｂ―（６）親切、思いやり
２　教材名　ないちゃった（出典：学研「新・みんなの道徳」）
３　主題設定の理由
（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）
本指導内容は、身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることに関するものである。幼い子や高齢者、友だちなど身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深めることが必要である。身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え優しく接することができるようにすることが求められる。
（２）　児童の実態（子ども観）
入学して半年が経ち、家族以外の関わりが増えて、様々な人と触れ合うことを楽しんで生活している。しかし、まだ自分中心の考え方をすることが多く、友だちと言い合いになったり、友だちに自分の気持ちを伝えられなかったりする児童も見られる。「年下の子と遊んで困ったことはありますか」というアンケートでは、困ったことがあると答えた児童は３人だけであった。４ヶ月後に上級生になることを見据えて年下の子と関わるときの心構えを学習するのは有意義である。
（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）
１年生のきみえさんがボールで遊んでいると、年下ののりくんがそのボールを取ろうとしてきて、取り合いになるうちに、のりくんは転んで泣いてしまったという話である。導入では、場面絵から何が問題なのかについて気付けるようにする。展開では、どちらも嫌な気持ちだったことをおさえた上で、きみえさんがこの後どうすればよいかについて考えさせていく。どう行動するかを問いかけた後、教科書の考えを提示し、動作化や役割演技をしたり気持ちを問うたりする中で、児童のつぶやきや表情から内面を見取り働きかけに生かすことで、多様な考えにふれながら考えることができるようにしたい。終末では、本授業以降に行われるこども園との交流会について紹介し、その際の関わり方について、ワークシートに書かせ、発表させる。さらに、身近な人にも視野を広げながら、道徳的実践意欲につなげたい。
４　本時のねらい
相手の立場や気持ちを考えて、お互いによい気持ちになれる方法を考えて動作化することで、相手に対して温かい気持ちで接しようとする道徳的実践意欲を育む。
５　板書計画（実際の板書）

6　学習過程

学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点※　評価
1　場面絵から内容をつかむ。 (1) 場面絵を見て、場面を想像し、その後を想像する。 ・男の子がいじわるをしている。 ・女の子、困った顔しているなあ。 ・男の子が転んでないちゃった。	3	○　場面絵を１枚ずつ見せることで、場面や次に起こりそうなことを想像させながら、児童が興味をもって、登場人物の表情などに注目できるようする。
2　本時のねらいを捉える。 (1) きみえさんの気持ちを考える。 ○　取り合いをしているときの、きみえさんの気持ちは。 ・いやな気持ち。困るなあ。 ○　のりくんが泣いたときの、きみえさんの気持ちは。 ・やっちゃった。どうしよう。 (2) のりくんの気持ちを考える。 ○　取り合いをしているときの、のりくんの気持ちは。 ・一緒に遊びたいなあ。 ・貸してほしいなあ。 きみえさんはこの後どうすればいいかな。 3　のりくんが泣いてしまったあと、きみえさんはどうしたらよいかを考える。 (1) 泣いてしまったあとの気持ちから、どの考えがよいと思うか考える。 ◎　自分がきみえさんなら、どうするかな。 ・けい：のりくんがわるい。 ・かな：いっしょにつかう。 ・たくむ：しかたない。 ・その他：保健室に連れて行く。 (2) 考えを動作化や役割演技をし、感じたことを発表する。 ・かなさんの考えが、どちらもニコニコになっていいと思う。	7 15 10	○　教材文や、児童の考えを板書し、２人の立場や気持ちを捉えられるようにする。 ○　近くの友だちと話し合わせ、考えを聞き合うことで、多様な考えにふれ、より多面的に考えを深めさせる。 ○　のりくんが泣いてしまった後の行動について考える中で、お互いに嫌な気持ちだったことをおさえ、よい気持ちで関係を築いていくために大切にしたい気持ちを考えることができるようにする。 ○　自分の考えに近いものにネームカードを貼らせることで、自分の考えを明確にさせる。 ○　選んだ理由について「どうして選んだのかな」と問い返すことで、相手の気持ちや自分の気持ちについて考える事ができるようにする。 ○　教科書の３つの考えに近い考えがなかったり、迷っていたりする場合にも貼ることができる場を作ることで、多様な考えを認めることができるようにする。 ○　教師がのりくん役、児童がきみえさん役を演じ、動作化や役割演技によってどんな気持ちになるかを感じさせる。 ※　動作化や役割演技によって感じたことを話したり聞いたりして自分の考えと比べ、考えを深めているか。（発言、つぶやきや表情）
4　学習のまとめをする。 (1)　昨年度のこども園との交流会などの写真を見て、どのような気持ちで関わりたいかを考え、ワークシートに書く。 ○　交流会等で、どのように年下の子や友だちと関わりたいかな。 ・困っていたら声をかけて助けてあげたい。	10	○　今年の近隣こども園との交流会（第四こども園）でどのような気持ちで関わりたいかを書かせ、発表させることで、道徳的実践意欲につなげることができるようにする。 ※　相手の立場や気持ちを考えて、温かい気持ちで接しようと考えていたか。（発言、ワークシート）

7　考察

自己を見つめ，深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

（１）事前アンケートの有効的な活用について

○　事前アンケートから、児童の実態を把握し、実態に即した発問を検討した。そうすることで、発問に対する児童の反応を想定することができ、その後の展開に生かすことができた。

●　年下の子との関わりについての事前アンケートの結果は実態把握のみに活用した。しかし、授業の中で、多様な場面を想起し、話す子もいたことを受け、多角的に考えるきっかけとして、結果を提示するなど、柔軟な授業づくりを工夫していきたい。

（２）子どもたちの問題意識を高める発問の精選について

○　常に価値項目に立ち返って主発問を考え、補助発問を精選する際も、価値項目に子どもが迫りやすいものや、生活経験と重なるよう配慮した。どの場面の、誰の立場について考えるのかを明確にしたことで、道徳的価値について焦点化した話し合いをすることができた。

●　動作化し、その時の気持ちだけではなく、なぜその考えを選んだのか、理由についても問い返してみるなど、多様な意見を引き出し、価値に迫るための発問や展開の工夫をさらに追究していきたい。

（３）道徳的諸価値について多面的に考えることができるようにすることについて

○　教科書に提示されている複数の考え方を動作化したことによって、考えを具現化し、より自分事として考えることができた。さらに、感じたことを発表することで、互いの価値観を交流させることができた。

●　動作化は、教師と子どもで行い、中心人物である女の子の気持ちに寄り添いながら思考できるようにした。一方で、事後研では、男の子役も子どもに動作化させたらまた違った考え方にもふれることができたのではないかという意見もあった。今後も、効果的な動作化や役割演技について考えていきたい。

〈どんな気持ちがするかな〉

（４）道徳的諸価値について多角的に考えることができるようにすることについて

○　昨年度、自分たちが園児の時に経験した交流会の写真を提示し、自分が１年生からしてもらったことを思い出すことで、自分も優しくありたいという道徳的実践意欲につなげることができた。

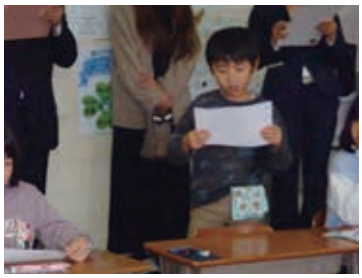
●　場面や相手が限定的なので、多様な場面でも実践できるようにするために、様々な機会に本時で学んだことを思い出すことができるようにしていく必要がある。

〈こんなこともあったね〉

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　教科書で提示された考えには、一方的に相手を悪く言うものもあり、それを選ぶ子もいた。しかし、その後の学習活動を通して、振り返りには、相手を思いやることができるようにしたいという内容をワークシートに書いていた。子どもがより高い道徳性に近づくことができるように、その子の話を聞いたり、友だちと交流させたり、じっくり考える時間を設けたりするなど、今後も授業改善に努めていきたい。

●　発達段階として、内省し、考えたとおりに記述することは難しい。そのため、振り返りシートは使うが、授業での様子、普段の生活の中から、子どもの道徳性の高まりや変容を見取り、蓄積しながら評価を考えていく必要がある。



〈やさしい気持ちで行動したいな〉

南会津町立南会津中学校第２学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和５年１２月７日（木）３校時目
授業者：南会津町立南会津中学校　教諭　柴田 亘

授業テーマ	ライバル関係にある友だち同士の心の葛藤や信頼関係を捉えることを通して、真の友情についての理解を深める授業

１　主題名　主題名　真の友情　Ｂ－（８）　友情，信頼
２　教材名　「ライバル」（出典：明日を生きる２　日本文教出版）
３　主題設定の理由
（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底にある。中学生の時期には、信頼できる友達を求め、友だちとの関係に時には悩み、意見がぶつかることもある。感情の起伏が目立ち、ささいなことから感情の行き違いが生じ、せっかくの友だち関係が台無しになることもあるが、これらの悩みや葛藤を乗り越えることで、真の友情は培われていくものである。分かち合い、高め合い、心からの友情や友情の尊さについて理解を深め、自分を取り囲む友だちとの友情をより一層大切にしようとする心情を育てることが大切である。

（２）　生徒の実態（子ども観）

本学級の生徒は、現在まで単学級で生活しているため、限られた人間関係のもとで生活してきた。「選べない友人関係」の中で過ごしてきた生徒は、真の友情について深く考えることや、互いに支え、競い合い、高め合うというような友情の深まりを感じる経験をする機会もあまりない。このような環境もあってか、相手の内面的なよさに目を向けようとせず、安易に相手を傷つける恐れのある言葉を発している生徒の様子をしばしば目にする。友情の尊さを理解して、心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めようとする道徳的心情を育てることが必要である。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

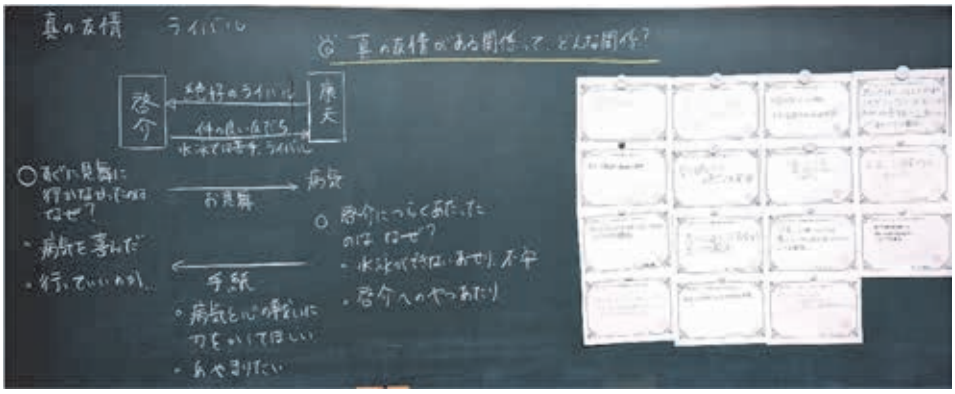
本教材は、友人であり、ライバル関係にある登場人物たちの心情を捉えることを通して、真の友情について多面的・多角的に考えたりすることができる教材である。

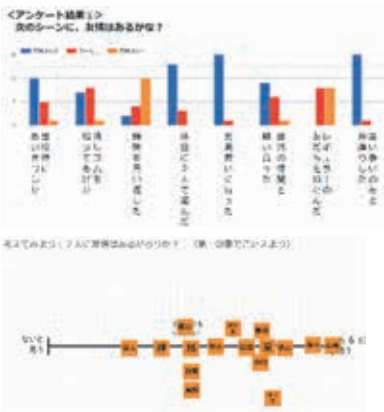
生徒の主題に対する価値観や登場人物の関係性についての意見を、ICT を活用して全体に共有する。これにより、異なる考えをもつ生徒を指名したり、考えをゆさぶったりしながら議論を進め、登場人物の友情が葛藤を乗り越えた先に深まることを捉えさせる。授業を通じて考えた「真の友情がある関係」についての意見を、生徒間で広く共有させ道徳的価値について多面的・多角的に捉えさせることにより、互いに認め、高め合おうとする道徳的心情を育てていきたい。

４　本時のねらい

生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた真の友情について考えさせることを通して、互いに認め、高め合おうとする心情を育てる。

５　実際の板書





６　学習過程

学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される生徒の反応）	時間	○　指導上の留意点　※　評価
1　友情についてのアンケート結果から、「真の友情」の姿について問題意識をもつ。 ・一緒にいて楽しい　・安心する ・支えてくれる　・切磋琢磨する 真の友情がある関係とはどんな関係？	5	○事前アンケート結果から、自分の友情の捉え方を振り返らせ、本時の主題を自分事として考えられるようにする。 ○考え、議論する時間を確保するため、教材は予め読ませておく。その際、友情の視点に立ち、康夫の心情に寄り添いながら読むことができるようにする。
2　資料を通して話し合う。 (1)啓介と康夫の友情について考える。 ○２人に友情はあるだろうか。 ・見舞いに行ったから友情はあると思う。 ・２人ともひどい態度だが、手紙を送ろうとしているし、どちらともいえない。 ・お互いにひどいことを言っているし、そんな関係は友情ではない。 (2)内容を確認しながら、啓介と康夫の友情について議論する。 ○康夫が見舞いに来た啓介につらくあたったのはなぜだろう。 ○自分も康夫と同じような気持ちになるときはあるだろうか。 (3)康夫が手紙を書く時の思いを考える。 ○康夫はどんな思いで手紙を書くのだろう。 ・ひどいことを言ったが、これからも友人として支えてほしい。 ・だれよりも啓介を頼りにしている。 (4)啓介と康夫の友情について再び考え、グループで協議する。 ◎２人に友情はあるだろうか。 ・お互いを信頼していたので友情はある。 ・この後２人は仲直りして、さらに友情が深まるのではないか。	32 (4) (10) (6) (12)	○登場人物を確認し、２人に友情はある、ない、どちらともいえないといった第一印象的な考えをまとめることができるようにする。 ○自分の意見をもたせるため、ワークシートの記入を終えてから Jamboard 上の数直線に考えを位置付けるよう促す。 ○Jamboard を用いて指名し、意見を述べさせる。対照的な考えの生徒を指名しながら前の人の意見を聞いてどう思ったかなどを問い、２人の友情の姿について考えることができるようにする。 ○あらすじを確認しながら、自我関与させる発問を行い、友情への考えを深めることができるようにする。 ○康夫が手紙を書く決意をしたことを確認する。 ○葛藤を乗り越えて深まる友情の尊さに気付かせるため、康夫が手紙を書く時の心情に寄り添って考えることができるようにする。 ○人間的な弱さゆえの葛藤や、それを乗り越えて育まれる友情の存在を理解させるため、２人の友情についてこれまでの話合いを踏まえて改めて考えることができるようにする。
3　真の友情について、自分の考えをまとめる。 ・ケンカをしても揺るがない、互いを思い合う気持ちがある関係 ・最終的には相手を信頼して支え合う関係 ・悩むことがあっても、最後には乗り越えていける関係 4　本時で考えたことを振り返りシートにまとめる。	10 3	○自分の考えを専用のプリントにまとめ、周りの生徒と見せ合ったり、黒板にも掲示したりして意見を交流させる。多くの価値観に触れることで多面的・多角的に考えられるようにする。 ※真の友情について自己を見つめ直したり、多面的・多角的に考えたりしているか。 （発言、ワークシート・感想シートへの記述）

7　考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

（１）「自己を見つめるために」について

○　導入で、アンケートの結果を示して生徒の友情の捉え方を確認したことは、生徒に主題への関心をもたせ、現在の価値観を見つめ直すことにつながった。また、アンケート結果の一部を展開での発問に利用することで、新たな考え方を生徒に与えたり、考えを揺さぶって自己の価値観を見つめ直したりするきっかけとなった。

○　他人と意見を交流させる時間の前には、生徒が自分の意見をもたせる時間を設け、一人一人が自分の価値観のもとに考えたことを踏まえて議論に参加できるように配慮した。

●　登場人物の人間的な弱さへの自我関与が十分ではなかった。「物語の登場人物はどんな関係性なのか」を考えるだけではなく、「自分も登場人物の関係性に共感できるな」や、「自分にはよく分からないが、登場人物はどんな考えなのだろう」と自我関与しながら考えることができるよう道徳的な問題場面を明確にする必要がある。

（２）「深い学びを実現するために」

○　Jamboard 上の数直線に自身の考えを示し、リアルタイムに全体に共有できるようにした。その際、ワークシートに自分の考えをまとめ終えてから Jamboard 上に位置付けるよう促し、自信をもって自分の価値観を表出することができるようにした。生徒は、周りの友だちとの考えの違いを手元で確認することができ、教師は対極的な位置に示した生徒の意見を聞くことで、内容項目を手がかりにして、多様な価値観に思いめぐらせることができるようにした。

○　板書は焦点化して位置付け、次々に指名して多くの生徒の意見を聞く形態をとった。表出した多様な意見に対して、「どう思ったのかな」と問い返し、生徒の発言を紡ぎながら意見を交流させていくことで、生徒がじっくり思考をめぐらせる時間を確保することができた。このようなコーディネートは、生徒が教材を読み取って表面的に主題について理解するのではなく、話合いの中で主題に迫る考えをもち、道徳的価値をより深く理解することにつながった。

●　教師からの発問が多く、教師―生徒間のやりとりに終始した。教師は、発問のレパートリーはいくつか用意し、その中から実際に行う発問は授業の中で精選するべきであり、生徒主体の議論になるようコーディネートするべきだった。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　ワークシートからは、自身の意見をしっかりと表現しつつも、共感や納得した友だちの意見をメモしており、さまざまな考え方を理解しようとし、多面的・多角的に考えようとしていたことが確認できた。また、感想シートには、「今ある友情を大切にし、よりよいものにしていきたい」などと記述しており、自らの行動を見直そうとしていた。本時の中で価値観を広げ、自身の生活に生かそうとした生徒の姿勢を普段の学校生活の中でも見取り、称賛するなどして生徒を認め、励ましていきたい。

原町第一中学校第３学年４組　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和５年１１月１０日（金）第３校時
授業者：南相馬市立原町第一中学校　教諭　新井　雄輔

授業テーマ	千里やその父親の心情について話し合うことを通して、家族の支えや思いを大切にしようとする態度を育むことができる授業

１　主題名　家族の支えがあるから……　Ｃ―（１４）家族愛、家族生活の充実

２　教材名　「背筋をのばして」（出典：東京書籍「新しい道徳３」）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

家族はかけがえのない存在であり、生徒は家族から深い愛情を受けて育っている。しかし、中学３年生の発達段階では、我が子を思い、無私の愛情をもって育ててくれた家族に対して、自分の本心をうまく表現できないこともある。家族と自分との関係を見つめ直して、家族に対して敬愛の気持ちを深め、自らも家族の一員としての自覚を高め積極的に協力していくことが自分の課題であることに気付くことができるようにすることが大切である。

（２）　生徒の実態について（生徒観）

３年生に進級すると同時にクラス替えがあったが、当初の硬さはなくなり、数々の学校行事を協力して行いまとまってきた。また、男女の仲も比較的よく、授業中の意見を交流する活動には意欲的に参加している。さらに、先日に高校説明会があり、進路に向けての意欲が高まっており、進路を決定する時期になっている。

事前の進路希望調査の結果では、進路選択に悩みを抱えている生徒や親と進路希望先が一致せず悩んでいる生徒がいる。家族に対して自分の視点だけではなく、家族それぞれの立場になって多面的・多角的に考えることができるようにしたい。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

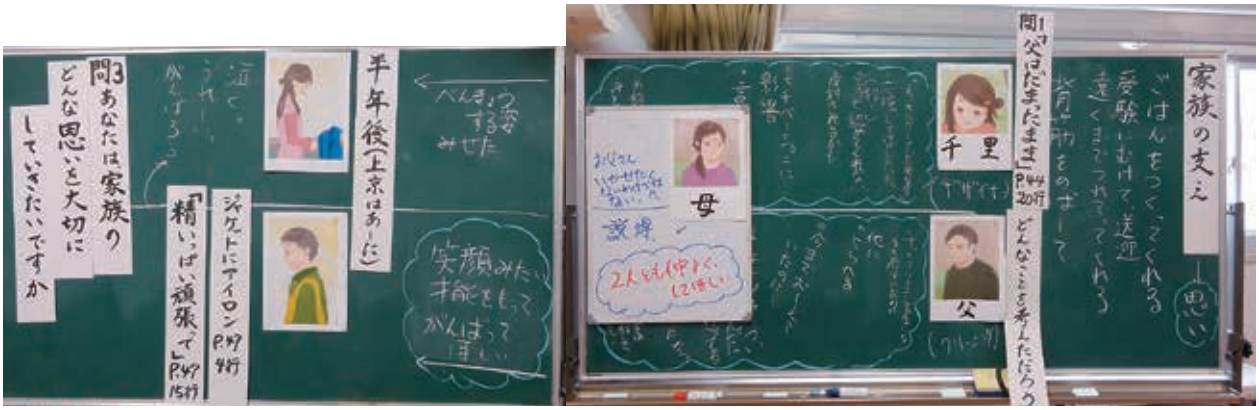
本教材文は進路において自分の思いと家族の思いとのすれ違いを経験した中学３年生の千里が、改めて自分のことを家族が支えてくれていることに気付くことで、家族に感謝の気持ちをもって人生の新たな一歩を踏み出すという物語である。

指導にあたっては、教師は千里の心情を話す生徒に自分にも同じような経験があるかと問い返すことで自己を見つめることができるようにしたい。また、父母の思いについても考えることで、家族愛について多面的・多角的に捉えることができるようにしたい。授業の終末においては「家族のどのような思いを大切にしていきたいか」を考えることを通して家族の一員としての自覚をもち、よりよい家庭生活を築こうとする態度を育んでいきたい。

４　本時のねらい

千里やその父親の心情について話し合うことを通して、「家族の支えや思い」を大切にしようとする態度を育む。

５　実際の板書



６　学習過程

学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される生徒の反応）	時間	○　指導上の留意点　※　評価
１「家族の支え」について振り返る。 （１）　家族にしてもらっていることを話し合う。 ・　料理を作ってくれる。 ・　送り迎えをしてくれる。	5	○　家族の自分に対する行為について振り返るとともに、その行為に込められた思いについて考えていくことを生徒に伝えることで、本時の話題となる価値について想起することができるようにする。
２「背筋をのばして」を読んで登場人物の気持ちを話し合う。 （１）　進路希望用紙を渡す場面における登場人物の気持ちを話し合う。 ○　進路希望用紙をだまったまま見ていたお父さんと千里はどのような気持ちだったのだろう。 （千里の気持ち） ・　父親のことを傷つけてしまった。 ・　どうして理解してくれないのだろう。 （父親の気持ち） ・　一緒に仕事ができると期待していたので寂しい。 （２）　お父さんに励まされたときの千里の気持ちを話し合う。 ○　千里はどのような気持ちでジャケットの温かさを感じていたのだろう。 ・　父親の言葉を胸に頑張りたい。 ・　家族に感謝	20 10	○　千里と父親の両方の立場から考えることができるよう発問することで、多面的・多角的に家族愛について考えることができるようにする。 ○　父親が沈黙している場面における母親の気持ちについても追発問することで、多面的・多角的に家族愛について考えを広げることができるようにする。 ※　登場人物それぞれの立場から気持ちを考えているか（記述・発言） ○　ワークシートを提示し、発問に対する自分の考えを書く時間を設けることで、一人一人が考えを明確にして話合いに参加することができるようにする。 ○　千里の気持ちを話す生徒に対し、そのように考えた理由や、同じような状況になったことはあるかと問い返し、家族に対する思いについて自己を見つめて考えることができるようにする。
３「家族愛」について考えたことを話し合う。 （１）　これから大切にしたい自分に対する家族の思いを考え、話し合う。 ◎　あなたは、家族のどのような思いをこれから大切にしていきたいですか。 ・　期待してくれる気持ち ・　応援してくれる気持ち	10	○　家族の思いについて考えが浮かばない生徒には、普段家族にしてもらっていることが何かを問いかけ、その行為にどのような思いがあるかを問うことで、自分の考えを持つことができるようにする。 ○　家族の思いを話す生徒には、なぜそのような思いを大切にしたいかと問い返し、さらに自己を深く見つめることができるようにする。
４　本時の学習を振り返る。 ・　家族に対する感謝の思い ・　家族のありがたさ ・　家族愛について改めて感じたこと　等	5	○　自分の今までの行動を振り返り、これからのことを考えて書くようにする。 ※　自分の生活を見つめ、振り返りながら考えているか。（記述・発言）

7　考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

（１）「自己を見つめ、考えを深めることができる発問の吟味」について

○　授業の導入時に、本時のテーマを提示することで、生徒の作品を読む際の視点を明確にすることができた。

○　生徒の進路決定の時期にあった教材を扱うことで、登場人物に対して自我関与をしながら考えることができた。

●　自己を見つめ、考えたことを全体で共有することができるよう働きかけることで、考えをより深めることができるようにしたい。

〈僕にも千里と同じようなことがあって･･･〉

（２）「多面的・多角的に考えることができる学習活動の工夫」について

○　両親の思いを深く考えることで、普段考える機会が少ない家族の思いを多面的・多角的に考えることができた。

○　父親と千里の気持ちの変化を可視化できるような板書構造にしたため、登場人物それぞれの考えが理解しやすくなり、多面的・多角的に考えることにつなげることができた。

●　教師側が前に出すぎてしまう場面があったため、伴走者として生徒同士の意見を引き出し、つなげることに徹していきたい。

（３）「人間としての生き方について考えを深めることができる振り返りの工夫」について

○　振り返りの時間を十分に確保することで、自分ごととして考えを深めることができた。

●　振り返りの内容を共有する時間を十分にとっていきたい。

●　自己を見つめることができる発問の在り方について、さらに考えていきたい。

一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

○　積極的に発表している生徒だけを評価するのではなく、ワークシートの記述をしっかりと教師が確認して一人一人の考えのよさを価値付けたり、周囲の友だちと考えを交流することができるような学習場面を意図的に設定したりしてきた。そのため、一人一人が人としての生き方についてしっかりと考える姿が見られるようになった。

［生徒の振り返り（一部抜粋）］

・　家族が自分のことを心配したり助けたりしてくれる優しさを、うっとうしいと思わずに、気にかけてくれる家族の思いを大切にしていきたいと思いました。

・　自分のことを応援し続けてくれるあたたかい思いを大切にしていきたいです。

赤井中学校第１学年　道徳科学習指導案

日　時：令和５年１１月１５日(水)第２校時
授業者：赤井中学校　教諭　内藤智子

授業テーマ	学校生活の中で実際に起こりうる事例を通して、正しいことを判断し行動に移していこうとする態度を育む授業

１　主題名　いじめをなくすために　Ｃ－（１１）　公正、公平、社会正義

２　教材名「あなたならどうしますか」（出典：教育出版「とびだそう未来へ」１年）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

よりよい社会を実現するためには正義と公平さを重んじる精神が不可欠であり、それは学校生活においても同様である。しかしこの時期の生徒は、自己中心的な考え方や偏った見方が強く、他者に対して不公平な態度をとることがある。人間としての正しいあり方や正しい道筋を考えた場合、正義を重んじることこそが、誰に対しても公正・公平になることを気付かせたい。また、正義を重んじることは、狭い仲間意識や利己心を克服することにつながるということを考えさせ、普段から仲間作りとはどのようなことを大切にしていかなければならないのかという視点をもたせたい。

（２）生徒の実態（子ども観）

男子１０名、女子８名、計１８名による明るい雰囲気の学級である。小学校から一緒の生徒達がほとんどである。お互いに、自分のことは周りの人はよく知っていると思っているが、実はお互いのことをよく知っていない面が見られる。また人間関係が限定的で、仲の良い生徒としか会話ができないという生徒も多く見られる。

相手の行動が好ましくないことだと知っていても面倒なことに巻き込まれたくないという思いをもっていたり、相手の立場や気持ちを考えない言動が見られたりなど、改善が必要な場面も見受けられる。そこで、この資料を通していじめに対して周りに流されず、自分で善悪を判断し、強い意思で正しい行動ができる態度を身につけさせたい。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、中学校生活で起こりそうな二つの場面を設定している。前半の資料、後半の資料ともに共通しているのは、一方的な思い込みから他人を巻き込んで困らせようとしている友人の提案から、どのように行動していくかということを生徒達に考えさせようとしている点である。生徒達には、この資料の生徒が行う行動と自分が同じ場面におかれた場合の行動を比較し、正しいとわかっていても行動できないのはなぜかという点を考えさせたい。そして、正しい行動をすることの大切さを理解し、実行していけるようにしたい。

４　本時のねらい

身近に起こりそうな問題場面から、いじめをなくすために大切なことを考える活動を通して、誰に対しても公平に接しようとする態度を育む。

５　実際の板書

６　学習過程

学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される生徒の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価
1　本時の課題をつかむ。 ⑴正義に対するイメージを確認する。 ⑵学習課題を把握する。 正しいと思ったことを行動に移せないのはどうしてだろうか。	5	○事前に「正義」ということばのイメージについてアンケートをとり、テキストマイニングを用いて学級全体で共有することで、考えるきっかけとする。
2　教材文を読んで考える。 ⑴「あなたならどうしますか」の資料を読む。 ⑵正人と葉月の行動について考え、考えに近いものを選択する。 ○このあと、「正人」と「葉月」はどうすると思いますか。 「正人」 ①裕也に返すように言う ②裕也が隠していたことをみんなの前で言う ③こっそり康太に教える ④あとから先生に言う ⑤そのまま黙っている ⑥その他 「葉月」 ①愛の言うとおりにする ②愛の言うとおりにはしない ③愛に自分の意見を言う ④その他 ⑶出された傾向から、正しいと思ったことを実行する難しさについて、話し合う。 ◎正しいと思ったことを行動に移せないのは、どうしてだろうか。 ・みんなから嫌われたくない ・言う勇気がない ・自分がいじめられる ・自分を守るため	25	○資料の内容が理解しやすいよう、２つの場面の登場人物について図式化してから、範読をする。 ○人物の行動を考えやすくするために、「葉月」の行動についても選択肢から選べるようにする。 ○ＩＣＴを活用して、自分の意見、友人の意見を見える化することで、様々な意見に触れ、考えを深められるようにする。 ○全体の前では発表することに抵抗がある生徒もいるので、３人１組で話し合わせる時間をとり、全員が考えを話せるようにする。 ○全体で共有しやすいよう、班ごとに、一人ひとりの意見をホワイトボードに書かせ、黒板に貼る。 ○自我関与をしながら、正しい行動について、実行の難しさや被害者の立場を踏まえて考えられるようにする。 ※正しい行動を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているか。（ 発言・記述 ）
3　自分と関連付けて考える。 ○正しいと思ったことを行動することができたりできなかったりした経験とその時の気持ちを振り返る。	10	○自身の経験を想起する時間をとることで、自分事として価値について考えることができるようにする。
4　本時の内容を振り返る。 ⑴改めて「正義」とはどういうものかを考え、テキストマイニングに入力する。 ○これから、どんな心を大切にしていきたいですか。 ⑵本時を通して考えたことをワークシートに記入する。	10	○導入時と終末のテキストマイニングを並べて提示し比較することで、考えの深まりが実感できるようにする。 ○感じたことや考えたことを整理できるよう、ワークシートに自分の考えを書く時間をとる。 ※今までの自分を振り返るとともに、公正、公平な社会を実現させるための望ましい在り方について考えを深めているか。 （ ワークシート・発表　）

7　考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

（１）「一人一人の考え方を生かす協働的・対話的な言語活動の工夫」について

〈３人一組での意見交換の場〉

○　ＩＣＴ機器を活用することにより、生徒たちが短時間で他の生徒の気持ちや立場を理解することができ、その後の議論の時間確保やスムーズな意見交換へと移行できた。

○　３人一組の班で意見交換を行うことで、班の全員が発言をすることができていた。個から集団、集団から全体へ考えを深めたり、広げたりすることができた。また、普段の生活で話さない級友とも話す姿が見られた。

●　生徒の本音を引き出すための方法として、ワークシートに書かせる、ＩＣＴを活用する、発表させる、などの方法がある。どのような方法を用いても、自分と違う意見の生徒がいるということを生徒自身が知り、それを認め合うことが大切である。教材の内容に合わせて方法を変えて行うことが必要であると思われる。

（２）「主題や教材に対して、生徒が自分事として考えるための工夫」について

〈マグネットを用いた意見共有の場〉

○　なかなか自分の意見が言えない生徒のために、選択肢を設けることにより、自分の意見を言いやすくする一助とすることができた。

○　「今までの生活の中で、正しいことが言えた、行動できたか」という発問に対して全員にマグネットを貼ってもらった。そのことで自分や友人の行動を見える化でき、自分の行動を振り返るきっかけにもなった。また、教師が生徒たちの本音を見ることができた瞬間でもあった。

●　どちらかを選ぶという方法であったので、選べないという生徒が出てきていた。できるかできないかの２択にせず、グラデーションをつけた選択方法を用いてはどうかという先生方の意見もあった。どういう方法で視覚化を図っていくかが必要であると感じた。

〈終末の振り返りの姿〉

【授業終末の振り返りより】
- 困っている人がいたら助けてあげたい。人に優しくしていきたい。
- 少数意見だと受け入れてもらえないこともあるので、本音は言いにくい。
- 正しいと思ったことは人目を気にせず言えるようになりたい。
- 言いにくいことでも、いじめにつながるようなことを止めるようなときは、勇気を出して言うべきだと思う。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　自分と友人の意見は必ずしも一致するものではないため、お互いの考え方を認め合う多様性の考え方が大事である。

●　発問の仕方やゆさぶりの発問などを効果的に取り入れることによって、生徒達の考えをより深めることができように工夫していきたい。

飯野小学校第６学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和５年１１月１０日（金）第２校時
授業者：福島市立飯野小学校　教諭　伊藤美知子

授業テーマ	主人公に対する家族の思いを考えたり、保護者の思いを実際に聞いたりすることを通して、家族の深い愛情や願いを感じるとともに、家族に支えられている自分に気付き、かけがえのない存在である家族について考えを深めることができる授業

１　主題名　かけがえのない家族　Ｃ―（１５）家族愛、家庭生活の充実
２　教材名　「私の誕生日」（出典：ふくしま道徳教育資料集　第Ⅱ集）
３　主題設定の理由
（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本主題は、高学年の内容項目Ｃ（１５）「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること」をねらいとしている。また、指導の要点に、「家族の一員としての自覚をもって、家庭生活に貢献できる」児童を育成するよう示してある。自分の成長を願い、愛情をもって育ててくれている家族に対して、尊敬や感謝の気持ちをもち、家族の幸せのために自分には何ができるのかを考えることが求められる。家族が信頼関係と深い絆で結ばれていることに気付き、家族や家庭生活を大切にしようとする気持ちを深めることが重要である。

（２）　児童の実態（子ども観）

本学級の児童は、友達から親切にしてもらったことに対して「ありがとう」と素直に伝えたり、下級生に対して優しく思いやりの心で接したりすることができる。しかし、家族が自分に対して行ってくれていることに対しては、当たり前のように感じている児童が多い。東日本大震災の年に生まれた自分たちが、困難な状況の中でいかに守られて育てられたのか話を聞いたり成長を振り返ったりして、自分に対する家族の深い愛情や願いについて考える機会は少ない。また、質問紙調査の「自分にはよいところがある」に対して、肯定的ではない回答をしている児童も少なくない。３月に小学校卒業を控える今、家族の深い愛情に支えられながら成長している自分について改めて考えることは、たいへん意義深いことであると考える。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

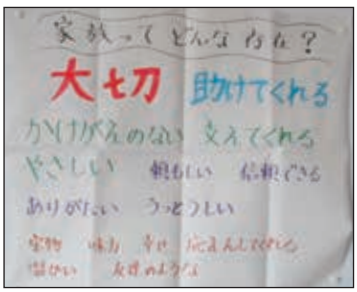
本教材では、誕生日が震災の日と同じ３月１１日である主人公の春香が、自分の誕生日を祝ってもらっていいのか悩むが、春香に対する両親の思いや両親の思いを受け止めた春香の思いを考えることで、家族の深い愛情に気付くことができる教材である。

指導にあたっては、事前に保護者と児童にアンケートを実施することで、家族に対する互いの意識を捉える。導入では、「家族はどんな存在か」という児童アンケートの結果から、肯定的な考え、否定的な考えの両面について提示することで、家族に対する問題意識を高めることができるようにする。展開場面における中心発問では、父と母がほほえむわけや春香が力強くうなずいたときの思いについて、保護者にも話合いに参加してもらい、互いの考えを交流することで、家族の願いや深い愛情に気付くことができるようにする。また、保護者のアンケートから、我が子の出産や子育てにおいて苦労したエピソードをいくつか紹介することで、自分たちに対する親の愛情を受け止めることができるようにする。自己を見つめる段階では、児童一人一人のエピソードをもとに見つめることを通して考えを深めていきたい。終末では、親から子への手紙を読むことで、家族の深い思いを実感できるようにする。また、児童の家族に対する思いを聞いた感想を保護者に話してもらうことで、児童が自己の学びを感じ取ることができる機会にしたい。

４　本時のねらい

親の思いについて考えることを通して、家族が深い愛情をもって自分を大切に育てていることに気付き、かけがえのない家族を大切にしていこうとする心情を育てる。

５　板書計画（実際の板書）



〈事前アンケートより〉

６　学習過程

学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価
１　本時の学習テーマを設定する。 （１）自分にとって、家族はどんな存在なのか、アンケート結果を基に考える。 ・　助けてくれる。 ・　応援してくれる。 ・　うるさいときもある。 （２）本時の学習テーマをつかむ。 自分にとって、家族とはどんな存在なのだろう。	5	○　家族に対する肯定的な考え、否定的な考えの両面を提示する。その後、どのような時にそう感じるのかを問い、自分と家族の関係を想起させることで、家族に対する問題意識を高めることができるようにする。
２　教材文を読んで考える。 （１）「私の誕生日」を聞く。 （２）父母の思いやそれに対する春香の思いを考える。 ○　誕生日に思わずうつむいてしまった春香は、どんなことを考えたのだろうか。 ・　たくさんの命が失われた３月11日に、祝ってもらっていいのかな。 ◎　父と母は、どんな思いで春香の方を見てほほえんでいたのだろうか。 ・　元気に育ってね。 ・　生まれてきてくれてありがとう。 ・　家族にとって、大切な存在だよ。 ○　春香は力強くうなずいたときどんなことを考えていたのだろうか。 ・　家族のみんなが私の誕生日を喜んでくれているのだな。 ・　家族に大切にされているのだな。 ３　保護者の我が子に対する思いを紹介する。 ○　おうちの人は、どのような思いでみんなのことを育ててきたのだろうか。 ・　震災時、子どもたちを守ることで必死だった。 ・　生まれてきてくれたことが、とても嬉しかった。	20	○　あらすじや登場人物を紹介し、話の内容を捉えやすくする。また、震災から１年経った後も、未だに行方不明の方や避難している方がいる状況であることを押さえる。 ○　１年前の震災で未だつらい思いをしている人がたくさんいる中で、自分が誕生日を祝ってもらうことを迷う春香に共感できるようにする。 ○　父と母の思いやそれに対する春香の思いを考えることで、家族の願いや愛情に気付くことができるようにする。 ○　保護者も交えたグループでの話合いを設定し、友達や保護者と考えを交流することで、自分の考えと同じところや違うところを見つけ、考えを広げたり深めたりできるようにする。 ※　父母の思いについて、自分の考えと友達の考え、保護者の考えを比べて考えている。（発言） ○　家族の思いを受け止めた春香に共感し、温かな心の中について感じることができるようにする。 ○　参加している保護者からエピソードを直接聞くことで、親の我が子への切実な思いについて考えることができるようにする。 ○　保護者に対する事前アンケートを基に、事前に打合せを行い、話す内容について決めておくようにする。
４　自己を見つめ直す。 （１）家族に対する思いを伝え合う。 ○　自分はどんな時に、家族に大切にされていると感じるのだろうか。 ・　看病してもらった時 ・　だめなことをだめだと言ってもらえた時 （２）保護者の感想を聞く。 ○　子どもたちの家族への思いを聞いて、どのように感じましたか。 ５　保護者からの手紙を読む。	15 5	○　自分が家族に大切にされていると感じたことについて、じっくりと考える時間を確保する。家族にとって自分も大切な存在であることについて考えることができるようにする。 ※　家族の思いを受け止め、自分が家族に大切にされていると感じたことについて、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えているか。（ノート・発表） ○　参加した保護者に、感想を伝えてもらうことで、児童が自己の学びを振り返ることができるようにする。 ○　事前に親から子への手紙を書いてもらい、児童一人一人が家族の愛情を実感できるようにする。

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「多面的・多角的に考える」（つながる）について

〈保護者と一緒に考える姿〉

○　震災の年に生まれた児童には震災の時の記憶はないが、家族にとっては困難な状況の中で我が子が生まれ、守り育てたという思いが記憶とともに強くあることが事前アンケートからうかがえた。そこで、家族の話である教材「私の誕生日」を取り上げることとした。児童は、家族の深い愛情や願いに直接触れながら考えることができた。

○　主人公春香に対する「家族の思い」と春香自身の「家族への思い」、そして児童の自分たちに対する「家族の思い」と家族への「自分の思い」とを対比させながら板書することで、それぞれの立場から家族とはどんな存在なのかについて、思考をつなげながら考えを深めることができた。また、保護者が話合いに参加し、思いを交流することで、児童は自分の考えをより広げたり深めたりすることができた。保護者からの問いかけに、じっくりと考えながら発言する児童の姿も見られた。

〈家族からの手紙を読む姿〉

（２）「自己を見つめ直す」（見つめる）について

○　授業に参加した保護者から直接思いを聞くことで、児童一人一人が自分の家族と重ね合わせて、自分事として家族について考えることができた。保護者の話を聞く児童のまなざしが真剣で、直接児童に伝えたからこそ児童の心に響いたと実感した。

○　自己を見つめ直す時間を確保したことで、家族に対する思いをじっくりと考えることができた。「自分にとって家族とはどんな存在なのか」、さらに「どうしてそう思うのか」ということを具体的に振り返る発問を投げかけたことで、自分の生活を見つめ、家族に対する感謝の思いについて胸をいっぱいにして話したり、涙を浮かべながら聞いたりする児童の姿が見られた。

〈家族の思いに触れて
涙を流す姿〉

●　児童の発言に対して、「それはどういうことかな」「みんなにもそういう思いをしたことがあるかな」「どんな時にそう思う」といった問い返しや揺さぶる発問を効果的に行うことで、さらに考えを広げたり深めたりすることができたと考える。

（３）「家庭・地域とつながる」について

○　保護者が複数回授業に参加し、多くの児童に我が子のように積極的に関わっていただいた。地域で子どもたちを育てていこうという保護者の思いを感じた。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

○　自分の思いを書き込んだ「飯野っ子心のノート」を持ち帰り、家族からメッセージやサインをもらうようにした。家族に授業のことや自分の思いを伝えることで、家庭と学校が道徳教育の内容を共有し、つながることができた。

●　参加した保護者に授業の感想を伝えてもらうことで、児童が自己の学びを振り返る機会となった。本学級は、全国学力・学習状況調査の質問紙調査「自分にはよいところがある」に対して肯定的でない回答をした児童が少なくない。今後も、児童が保護者や地域の方に認められる機会を増やし、自分のよさに気付くようにしていきたい。

＜児童の振り返り＞自分にとって家族とは信頼できて、いつでも背中を押し、助けてくれる存在です。ドッジボールでかなりのスランプになってしまった時に、お母さんはいつも励ましてくれるからです。…

＜保護者からのコメント＞「信頼できて、助けてくれる存在」と思っていたことを知り、嬉しいです。お父さんもお母さんも、○が私たちの子どもに生まれてきてくれて、健やかに成長してくれて、いろいろな場面で活躍してくれてとても誇らしいです。…

須釜小学校第６学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和５年１１月９日（木）　第５校時
授業者：玉川村立須釜小学校　教諭　五十嵐公美

授業テーマ	困難や失敗にもあきらめることなくよりよい目標をもって努力しようとする心情を育む授業

１　主題名　　あきらめない心　Ａ―（５）希望と勇気、努力と強い意志

２　教材名　　「きぼうの水族館～アクアマリンふくしま～」（出典：ふくしま道徳教育資料）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

高学年の児童は、先人や著名人の生き方に触れる機会が多くなり、憧れをもったり、自分の夢や希望を膨らませたりする時期である。一方で、自分に自信がもてなくなったり、思うように結果が出なかったりして、夢と現実の違いを意識することもある。このような時期だからこそ、苦しくてもくじけずに努力しやり抜き、失敗を重ねながら夢を実現した人に触れると共に、自己の向上のために目標意識を強くもち、くじけることなく夢や目標を目指してやり通すことの大切さを育むことが重要であると考える。

（２）児童の実態（子ども観）

本学級の児童は１５名の少人数である。最高学年になり、行事や縦割り班活動などの学校生活の様々な場面において、具体的な目標を設定して取り組んでいる。事前アンケートの「目標を立てることは大切か」では、児童全員が大切だと答えている。「うまくできないことがあるとあきらめてしまったことがある」と答えた児童は６７％もいる。目標をもちそれに向けて、努力してきたことが結果につながる経験もしている。しかし、その目標自体が無理のない程度だったり、目標を立てたことだけで満足していたりする児童も少なくない。また、「自分にはもうできない」という決めつけや、失敗や間違いを恐れ再挑戦してみようとしない児童も多い。陸上大会や学習発表会、持久走記録会という大きな行事が終わったばかりである。３学期に行うなわとび記録会や卒業式にも、目標を立て練習に取り組ませたい。そこで、本教材を通して、より高い目標をもち、困難であってもあきらめないで前向きに努力しようとする心情を育てていきたい。

（３）教材及び指導について（教材観及び指導観）

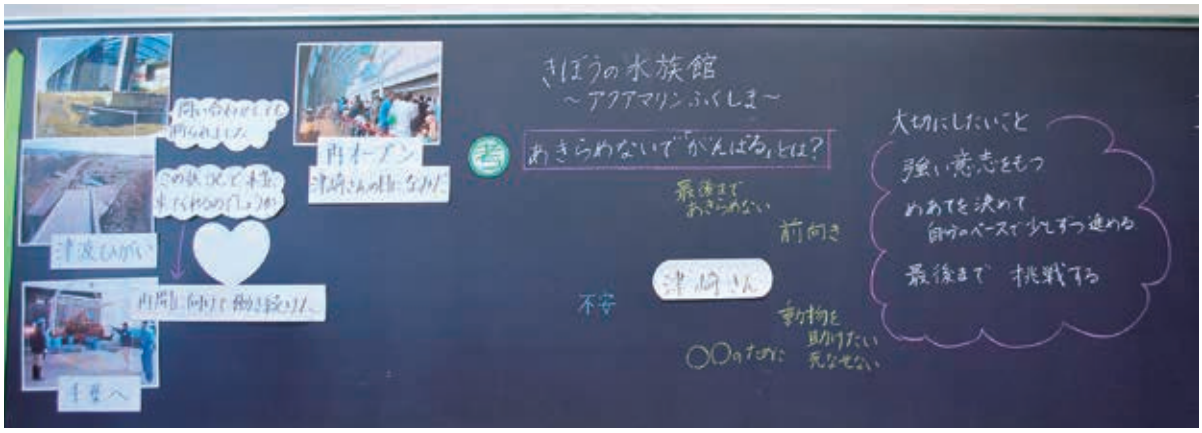
本教材は、震災後のアクアマリンふくしまにおける危機的状況から、わずか１２０日という短期間で再オープンを果たした飼育員たちの実話である。困難な状況にあっても、あきらめずに生き物の命と向かい続けた飼育員たちの献身的な姿から、希望をもつことのすばらしさや努力し続けることの大切さを感じさせることができる教材である。

本時では、事前アンケートを活用し、目標や努力に対する友だちや自分の思いを振り返ることで、自分事としてとらえさせたい。そこから、「あきらめないで、がんばるとは」という問題意識をもたせる。そこで、津崎さんの思いや願い、生き方から、どのような心をもてばやり遂げられるのかを交流活動を通しながら多面的・多角的に考えさせたい。そして、自分を振り返る場では、再度アンケートを提示し、これからの自分の生き方を見つめられるようにする。このような活動を通して、夢や目標に向かってあきらめずに努力しようとする道徳的心情を育てたい。

４　本時のねらい

交流活動を通して、津崎さんの決してあきらめない心について考えることによって、困難や失敗にもくじけることなく、目標に向かって努力しようとする心情を育てる。

５　板書計画



6　学習過程

学習活動・内容 （◎中心発問・予想される児童の反応）	時間	○指導上の留意点 ※評価
1　本時の課題をつかむ。 （1）　目標や頑張りについての事前アンケートの結果を紹介する。 ・　目標は大切だ。 ・　頑張ると決めたからあきらめなかった。 ・　あきらめてしまったことがある ○　頑張ろうと決めたことをあきらめてしまったとき、どんな気持ちになりましたか。 ・　できなくて悔しかった。 ・　面倒になった。 ・　悲しかった。 （2）　本時のねらいをとらえる。 あきらめないで「がんばる」とは？	7	○　目標をもつことは大切だと考えている反面あきらめてしまった経験があったことを振り返ることで、道徳的価値について想起することができるようにする。 ○　あきらめてしまったときの気持ちについてもアンケート結果を提示し、問題意識をもたせ、あきらめないで目標を達成することの難しさにも共感させるようにする。
2　教材文について考える。 （1）　教材文の大体の内容をとらえる。 ・　震災後の建物の様子 ・　動物運搬の写真 （2）津崎さんの気持ちを考える。 ◎　助けを断られてしまう中で、津崎さんはどんな気持ちでしたか。 ・　生き物たちを助けたい。 ・　あきらめないで連絡をしたい ・　助けてくれるところが見つかるか心配。 （3）グループで交流・共有する。 ・　断られてもがっかりしてもあきらめずに行動し続けたのはすごい。 ・　人も生き物も大切な命だから、自分たちが守るという気持ちを感じた。 ・　もし自分だったら、強い気持ちでがんばれるかなあ。 ・　不安もあるけど、お客さんのためにあきらめない。 ・　目標を持つ。	２８ (5) (5) (18)	○　事前に当時の状況を想像しながら読ませておくことで、内容の大筋を確認する程度とする。 ○　東日本大震災当時のアクアマリンの写真等を用いながら、当時の危機的状況を捉えることができるようにする。 ○　各自、津崎さんの思いを想像することができるよう、ハートカードに色を塗る。さらに、その色にした理由を考えさせることで津崎さんに自分を重ねて考えることができるようにする。（ハートカード） ○　交流学習では、ハートカードをワークシートに貼りながら言語化することで、多面的・多角的に考えられるようにする。（グループ用ワークシート） ○　前向きな思いだけ考えているグループには不安な思いがなかったのか、揺さぶりをかける。それにより強い意志を感じ取ることができるようにする。 ○　グループでキーワードとなるところを囲ませ、津崎さんが強い意志をもち続けたことに気付かせる。 ※　津崎さんは強い意志をもって、どんなに困難でもやり遂げたことを考えたか。（ハートカード・ワークシート）
3　これまでの自分を振り返る。 ○　あきらめないで「がんばる」ために大切にしたいことは何ですか。 ・　絶対にあきらめないこと。 ・　強い気持ちをもって信じる。 4　本時の学習を振り、教師の説話を聞く。	１０ (5) (5)	○　事前アンケートを再度提示することで、自分の今の思いやこれからの自分を見つめさせたい。 ※　今までの自分の生活を見つめ直し、あきらめずにやり遂げることについて考えを深めているか。（ワークシート） ○　本時の学びを振り返らせることで、自分の学びの深まりを実感できるようにする。

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「児童がより深く考えられるような学習過程の工夫」について

○　導入時に事前アンケートの結果を提示し、「目標をもつことは大切」と考えていながら「あきらめてしまった」経験の多さに視点を向けたことで、本時のねらいに迫ることができた。

○　大震災を経験していない児童たちには、本教材の内容は難しいと思われた。しかし、家族や教員からの話やコミュタン福島見学での経験といった予備知識をもっていたため、道徳的価値に深く迫るためにも本教材は有意義であった。

○　教材文を事前に読ませたことは、より震災当時の危機的状況の理解を深める一助となった。また、展開(交流学習)の時間を十分に確保することにもつながり効果的だった。

○　これまでの授業同様、ハートカードへの着色の仕方は指定せずに取り組ませたことで、多面的・多角的な考えを引き出すことに効果的だった。また、交流学習の際に、自分の考えを言語で伝えるツールとなった。

●　導入時のアンケート結果は、提示だけにとどめず児童の目標に対する頑張りやあきらめたくなる気持ちにも寄り添った言葉かけをすれば、より深く本時のねらいを捉えさせることができた。

●　グループでの交流後、他のグループでどんなことが出たのか自由に見せ合う時間をとったが、全体として共有する場を設けた方がよかった。

（２）「問い返し発問の工夫」について

○　中心発問後、児童は迷うことなくハートカードに着色し、ワークシートに自分の考え(津崎さんの思い)を記入することができた。前向きな思いだけでなく、本教材ならではの観点から放射線被害にも目を向けて不安・心配な思いも想像していた児童も多く見られた。

○　津崎さんの思いを話し合った交流後に再度アンケート結果を提示し、「『あきらめてしまった』ことがないようにするために」と本時のねらいに立ち返ったことで、自分事として考えようとすることができた。

●　グループでの議論が控えめであったため、「なぜ、津崎さんは頑張れたのか」や「不安な気持ちとは、どんなことに関してなのか」などの補助発問が必要であった。

（３）「共に学ぶ道徳科の授業実践」について

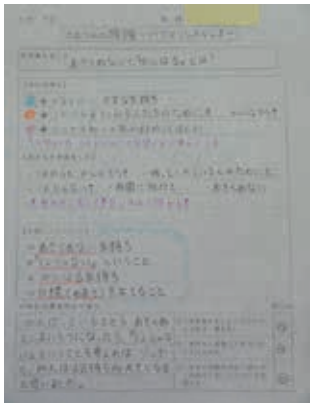
○　児童の実態を把握している教員同士の「チームで」研究を取り組んできたことで、担任の独りよがりにならず、視野を広げた教材研究ができた。また、互見授業を通して、有効な手立てを見出すことができた。

○　教員同士の共同研究の成果が、児童の交流学習の姿にも反映されていると感じた。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　教材のねらいによって「ハートカード」や「心のものさし」などの思考ツールを活用しているため、児童同士の考えの可視化と共有に有効となっている。

○　ワークシートは、毎時間同じ形式を使用している。自分の考え、友だちの考え、学習の振り返りなどの記入から児童の考えを共感的に受け止め、声かけをしている。また、授業後に自分たちができることを実践しようと取り組む姿が見られた。



●　内容項目が同じ授業の際に、これまで記入してきたワークシートを振り返り、自分自身の変容を捉えさせていきたい。

福島県立光南高等学校　第１学年１組　ロングホームルーム（ＬＨＲ）指導の実際と考察

日　時：令和５年１０月１３日（金）第６時限
授業者：教諭　渡邉　康介

授業テーマ	話し合いにより多面的・多角的な考えを交流し、責任ある発言・行動について考えを深めることができる授業

１　主題名　責任ある行動とは　Ａ―（１）自主、自立、自由と責任　※中学校内容項目

２　教材名　チェーンメール
（出典：ふくしま道徳教育資料集〔補訂版〕第１集「生きぬく・いのち」）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

責任とは、ある人の行為がある事態に対して原因となっているとされる場合、生じた結果に対して応答し、対処することである。また、自由とは、自らの意思や判断で行動することである。自由な意思や判断に基づいた行動には責任が求められる。自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任を持つことは、道徳の基本であり、自律的な生き方にもつながるものである。

（２）　生徒の実態について（生徒観）

男子１７名、女子２５名の計４２名が在籍している。全体的に教師の話をよく聞くことができたり、出題された課題に真剣に取り組んだりするという姿が多くみられる学級である。また、運動部に所属している生徒が多く、他者とのコミュニケーションを進んで図ろうとする生徒が多くみられる。その一方、物事を判断してから行動に移すことが困難であり、自分が思うままに行動するという課題もある。

このような実態を踏まえて、教材を通して、自己の発言や行動に責任を持つという道徳性を醸成していきたいと考えている。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

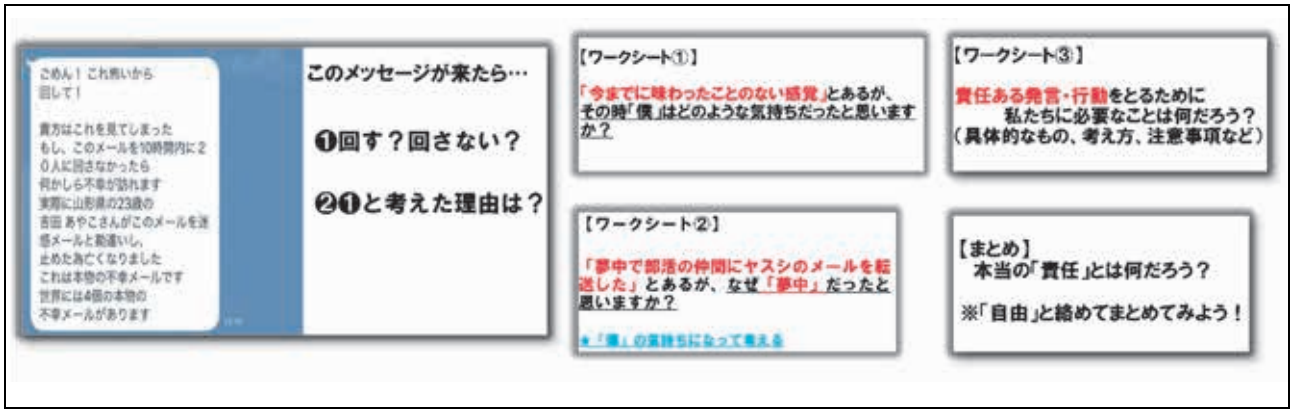
本教材は、根拠のない情報を他者に送ってしまった「僕」が、その責任を感じ、動けなくなってしまった姿を描いている話である。

指導に当たっては、導入では、「不幸の手紙」が届いたとき、自分ならどうするかについて考えさせ、展開へとつなげていく。展開では、チェーンメールを送って後悔している「僕」の心情を読み取らせるとともに、チェーンメールを送ってしまう人の心情や、チェーンメールを受け取った人の心情などを想像させ、自分の行動に責任を持つ態度を養っていきたい。また、責任ある発言・行動をとるために必要なことについて考えさせ、他者と意見交換をする時間を設けることで、「責任」について深く考える時間を設ける。それらの学習を踏まえ、「本当の責任とは何か」について自分の意思と判断の下に考えさせることで、これからの日常生活や学校生活での態度の変化につなげたい。

４　本時のねらい

情報化社会に生きる社会の一員として、自らの意思や判断に基づいた発言・行動に責任を持とうとする態度を育む。

5　板書計画（実際の板書）　※授業で使用したスライドの一部を掲載



6　学習過程

学習活動・内容 （◎中心発問　○発問）	時間	◇指導上の留意点 ◆評価（評価方法）
1　責任ある行動について考え、課題をつかむ 「本当の責任」とは・・・？	5	◇　「不幸の手紙」を紹介し、そのメールが自分に届いたら友人に送るか送らないかを理由も合わせて問い、展開につなげる。
2　資料を読み、内容を理解する。	5	◇　範読前に、東日本大震災や原子力発電所の事故についての生徒の記憶を確認し、この資料の出来事が緊急時の切迫した状況の中で起きたことを理解しながら聞くことができるようにする。
3　教材から考える。 ○　「今までに味わったことの無い感覚」とあるが、そのときノブくんはどのような気持ちだったのだろうか。 ○　「夢中で部活の仲間にヤスシのメールを転送した」とあるが、なぜ「夢中」だったのだろうか。 ◎　なぜ僕は「耳を疑った」のだろうか。「しばらく動けなかった」のだろうか。 4　主題について考えを深める。 ○　「責任ある発言・行動をとるために、必要なことは何だろう？」 (1) 個人で考える。 (2) グループで意見交換をする。 (3) 学級全体で意見を共有する。言語活動	20 10	◇　自分の考えについて周りの生徒と話をさせることで、多様な考えに触れさせ、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ◇　学習活動に遅れている生徒がいないか、自分の考えを表現することが難しい生徒がいないかを机間指導をして確認する。 ◇　学習活動３の自分や周りの生徒の考えを踏まえて考えを深めることができるようにする。 ◇　生徒の意見を踏まえ、「何で来るの？」の読み方の違いだけでも、相手に影響を及ぼしていることに気づかせる。
5　本時の内容を振り返る。 ○　「本当の責任」とは何か。	10	◆　情報化社会に生きる社会の一員として、責任ある行動について深く考えているか。（ワークシート）

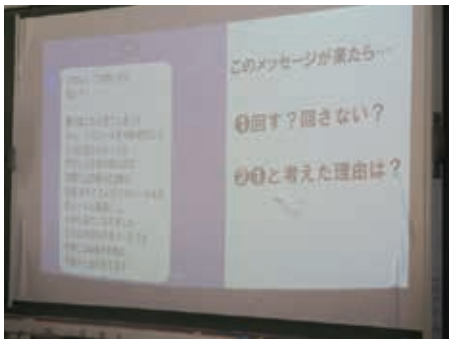
7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（1）「授業のねらい（内容項目）に応じて適切に教材を選定する」について

○　授業を構想するに当たって、ねらいとする内容項目を本校の校訓でもある責任、自由、創造との関連から（自主、自立、自由と責任）とした上で、資料を選定した。

　特に、その中でも、責任ある行動について考え、課題をつかむことができるようにするために、導入では、「不幸の手紙」（これを他の人にメールで送らないと大変なことになるという内容）を送るか送らないかを理由もつけて生徒に考えさせることで、導入において「『本当の責任』とは・・・？」の課題提示につなげていくことができた。



〈課題提示につながる導入の工夫〉

（2）「教材に対して、生徒が自分事として考えるための工夫」について

○　教材を範読する前に、生徒の東日本大震災やそれに伴う原子力発電所の事故の記憶を確認することで、この資料の出来事が緊急時の切迫した状況の中で起きたことを理解しながら教材と向き合わせることができた。

（3）「主題に迫るための発問の工夫」について

○　資料の範読後、「『今まで味わったことのない感覚』とあるが、そのときノブ君はどのような気持ちだったのだろうか。」を問うことで、大規模災害時の冷静さを失った場面において、チェーンメールの真偽を確かめることなく、友達に送ってしまった主人公の気持ちに迫ることができた。そして、得た情報（チェーンメール）を友達のためにという善意の気持ちから「夢中」で送ったことを確認し、それが実は、デマの情報であったというところから「しばらく動けなかった」主人公の気持ちに迫る発問をした。その後、グループで話し合うことで、責任ある言動をとるために必要なことは何かを考えることにつなげることにつながった。

（4）「主題について考えを深める」について

○　主題について考えを深めるために「責任ある発言・行動をとるために必要なことは何だろう」と問い、グループで意見を交換し、学級全体でそれを共有することで、責任ある発言・行動について、多面的・多角的に考える機会となった。

〈考えを深めるグループ活動〉

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　内容項目に焦点化した振り返りができるように「『本当の責任』とは何か。」を最後に一人一人にワークシートへ記述させた。情報化社会の一員として、得た情報の真偽を確かめて他者に伝えることの大切さに気づくことができた生徒が多く見られた。本時の授業だけではなく、その後の生徒の発言や行動の変化を見取り、認め励ましながら「責任ある行動」について、生活場面で実践できるようにしていきたい。

〈生徒の発言等の見取りを大切に〉

喜多方市立第三小学校第５学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和５年１１月１３日（月）　第３校時
授業者：喜多方市立第三小学校　教諭　渡辺顕子

授業テーマ	ゲストティーチャーの話を聞き、高学年として自分たちにできることを友だちと考え合うことを通して、学校生活での自分の役割を自覚し、協力し合ってよりよい学校をつくろうとする道徳的実践意欲を育む授業

１　主題名　みんなの力で　　Ｃ－（１６）よりよい学校生活、集団生活の充実

２　教材名　ぼくたちの学校　（ふくしま道徳教育資料集　第Ⅱ集　敬愛･つながる思い）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導内容は、先生や学校の人々を尊敬し、感謝の気持ちをもって、学級や学校の生活をよりよいものにしようとすることや、様々な集団の中での活動を通して、自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めることに関するものである。高学年としての自覚をもち、集団を支えているのは自分たち自身であるということに気付かせるとともに、集団における自分の役割を自覚し責任を果たそうとする態度を育てることが大切である。

（２）　児童の実態（子ども観）

本学級の児童は、男子６名、女子３名の学級である。活発な発言ができる一方で、自分の意見を通したいため、友だちの話を素直に聞くことが難しい児童が数名いる。高学年になり、委員会活動やクラブ活動、清掃班など、意欲的に活動している姿は見られるが、自分から積極的に下学年の児童に働きかけようとしたり、５年生一人一人が力を合わせてチームとして取り組んでめあてを達成したりする場面は少ない。

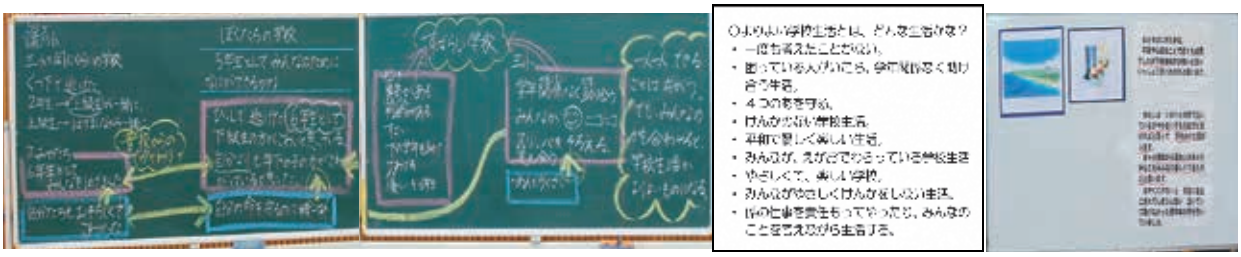
（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

本資料は、震災や津波によってこれからの生活に不安を抱える中、主人公が仲間を元気付けるために、高学年としてできることを考える内容である。その当時、請戸小学校で６年生を担任していたゲストティーチャーから、実際にあった話を聞くことで、高学年としてよりよい学校をみんなでつくっていくことの大切さに気付かせていきたい。導入では、資料を振り返り、史哉が６年生として頑張ったことを想起させ、本時のねらいへの問題意識を高める。展開ではゲストティーチャーの体験を聞き、請戸小の５・６年生が、なぜそのような行動ができたのか、その時の気持ちを考えさせていきたい。展開後半では、５年生として、自分がみんなのために出来ることをワークシートに記入し、全体で交流することで、みんなのためにできることは色々とあることに気付かせ、考えを広げていきたい。終末では、本時に学んだことを学校生活に生かすことができるよう、これから大切にしていくことを考えさせる。最後に、ゲストティーチャーから三小の５年生に期待することを話してもらい、それぞれが自分にできることを考えて行動することで、学校生活をよりよいものにしていこうとする意欲へとつなげていきたい。

４　本時のねらい

集団の中での自分の役割を見つけ、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくっていこうとする実践意欲を育む。

５　板書計画（実際の板書）



6　学習過程

学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点※　評価
1　「ぼくたちの学校」の物語を振り返る。 ○　史哉が、６年生としてがんばったこととは何だったのかな。 ・不安な下学年の子を励ました。	5	○　事前読みした教材を振り返り、史哉の行動を想起させることで、本時のねらいへの問題意識を高めることができるようにする。 ○　震災避難時の子供たちの様子や状況について考えさせることで、ゲストティーチャーの話を聞く必要感を高めることができるようにする。
2　ゲストティーチャーの田中先生の話を聞いて課題をつかむ。 (1) 話を聞いた感想を発表する。 ○　請戸小の５・６年生は、どんな気持ちで下学年の子と一緒に逃げたのかな。 ・年下だから心配した。 ・自分がしっかりしないといけないと思った。 ○　請戸小の５・６年生は、どんな５・６年生なのかな。 ・優しくて、しっかりしている。 ・みんなのことを考えている。 3　自分自身について考える。 (1) 今日のめあてを考える。 ５年生として、自分がみんなのためにできることはなにかな。 ◎　５年生として、みんなのためにどんなことができるかな。 (2) ワークシートに記入する。 (3) トリオで読み合い、さまざまな考えを共有する。 ・上級生として優しくしてあげたいから掃除の時に、一緒に机を運びたい。 (4) 全体で考えを交流する。 ・一人一人が出来ることは違うけれど、みんな（集団）を思う気持ちがあれば、学校生活がよりよいものになる。	15 15	○　実際の状況がイメージしやすいように、ゲストティーチャーの話を聞きながら、キーワードとなる言葉を板書する。 ○　言葉だけでは状況を理解しにくい児童のために、イラストを提示し、出来事と気持ちの関係を捉えることができるようにする。 ○　「請戸小の５・６年生は、心の中の迷い不安がある中で、どうしたのかな」と問うことで、その時の気持ちに気付くことができるようにする。 ○　教材やゲストティーチャーの話から、感じている児童の思いを表出させながらめあてをつくり、学校のために、どのような気持ちをもつことが大切なのかを考えることができるようにする。 ○　事前アンケートの提示をきっかけに自分たちが思い描く学校について考えることができるようにする。 ○　考えが書き出せない児童には、板書を確認させ、みんなのことを考えて行動できることが学校生活や集団生活をよりよくしていくことだと考えることができるようにする。 ※　よりよい学校や学級を思い描きながら、みんなで協力し合って学校や学級をつくるために考えを深めているか。 （ワークシート、発表）
4　本時の学習を振り返る。 (1) 学校生活で大切にしていくことを考える。 ○　今日の学習で感じたことや考えたことを振り返りに書く。 ・みんなのことを考えて行動する。 (2) 田中先生の「子どもたちに期待すること」についての話を聞く。	10	○　学びを振り返る中でゲストティーチャーから本時の児童の学びのよさや最高学年に向けて努力してほしいことなどを話してもらう。そうすることで、児童一人一人が大切にしたいことを生活の中で生かしていこうとする意欲を高めることができるようにする。 ※　これからの学校生活や集団生活の中で大切にしたい考えを深めているか。 （ワークシート、発表）

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）事前アンケートの有効的な活用について

○　事前アンケート結果を、導入ではなく展開で提示することで、自分自身について考える場面にスムーズに移ることができた。また、ふくしま道徳教育資料集やゲストティーチャーの話を聞いて考えたことと事前アンケートの結果をつなげながら多面的に考えることができた。

（２）子どもたちの問題意識を高める発問の精選について

○　ふくしま道徳教育資料集を読んだり、震災を経験したゲストティーチャーの話を聞いたりすることで、子どもたちは、防災や命を大切にすることに着目するのではないかと考えた。そのため一貫して「高学年として」ということを意識できるように発問してきたことで、本時に考えさせたい道徳的な価値に迫っていくことができた。

●　めあてにある「みんなのため」を年下に限定しなかったことで、子どもたちは多様な他者をイメージしながら考えることができていた。しかし、限定しないことで、考えが拡散し、価値に迫ることが難しくなることも考えられた。そのため、本時での子どもたちの思考の流れに応じて、発問を精選する必要がある。

〈自分たちにできることは何だろう〉

（３）道徳的諸価値について多面的・多角的に考えることができるようにすることについて

○　ふくしま道徳教育資料集の話は、子どもたちにとって経験がなく、また内陸に住み、海が身近ではないため、自分事として捉えることが難しい部分もある。しかし、ＧＴが経験したことを話してもらうことで、資料と子どもをつなぎ、資料の内容を自分事として感じ取ることができた。

○　ふくしま道徳教育資料集やゲストティーチャーの話では、出てくる子どもは違っているので、それぞれの子どもたちの思いについて考えることで、道徳的価値を多面的に捉え、行動の根底に「高学年として」という共通の思いがあることを見出していくことができた。

●　多様な価値が含まれている教材であるため、どの道徳的価値を重点的に扱うのかを明確にする必要がある。教材分析を綿密に行うとともに、子どもたちの実態と合わせて教材の持ち味を生かしながら、道徳的価値にどのように迫るのかを今後も考えていきたい。また、震災を経験したことのない子どもたちが、震災を学ぶだけではなく、震災を通して何を学ぶかという視点をもつことも大切にしたい。

〈実際の避難の様子は・・・〉

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　事前アンケートにおいて、「よりよい学校生活について考えたことがない」という子がいた。本時を通して、道徳的価値である「よりよい学校生活、集団生活の充実」について考えることができたことは、これからの生活を充実させていきたいという道徳的実践意欲を育む時間になったと考える。

●　振り返りに、震災の怖さについても記述している子どもがいた。ねらった価値とは異なるが、本時を通して考えたことである。この学びをどのように受け止めて、認め励ますかが課題である。

南会津中学校第１学年　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和５年７月１８日（火）第４校時
授業者：南会津町立南会津学校　教頭　阿部　哲

授業テーマ	考え、議論する道徳科の授業はどうすればよいか

１　主題名　郷土の発展に寄与する　Ｃ―（１６）郷土の伝統と文化の尊重
郷土を愛する態度

２　教材名　よみがえれ！安波祭（出典：ふくしま教育道徳資料集　絆より）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

「郷土」とは、自分の生まれ育った土地ないし地理的環境のことであると同時に、文化的な面を含んでおり、自らがその土地で育てられてきたことに伴う精神的なつながりがある場所を示している。地域社会の行事に参加し、地域の人々と様々な関係をもち共同することで、地域社会の成員としての公共性を身に付けることができる。今後は、自分たちの力で、地域に住む人々とともに、地域社会をよりよいものに発展させていこうとする自覚をもつことが必要になってくる。また、あわせて東日本大震災を実際に被災した生徒の資料を扱い、教師の体験も交えながら考えさせることで、当時の福島県の状況などを理解し、震災を風化させないという態度も育てたい。

（２）　児童（生徒）の実態（子ども観）

生徒へ郷土に関する事前アンケートを行った際、県の自慢できるものは「桃」、町の自慢できるものは「南郷トマト」と食べ物は思いつくものの、それ以外を思いつく生徒は少なかった。コロナ禍で地域の伝統行事等が縮減されていることもあり、郷土に対する誇りや愛着が希薄になっている傾向が見られる。また、東日本大震災時、生徒たちは０歳だったため、当時の記憶がなく、震災に関しての意識は低い。今回の教材を扱うことで、福島県が経験した未曾有の大震災について知らせるとともに、自分たちの住んでいる県の伝統行事を取り上げることで、郷土に対して主体的に関わろうとする心や態度を育んでいきたい。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

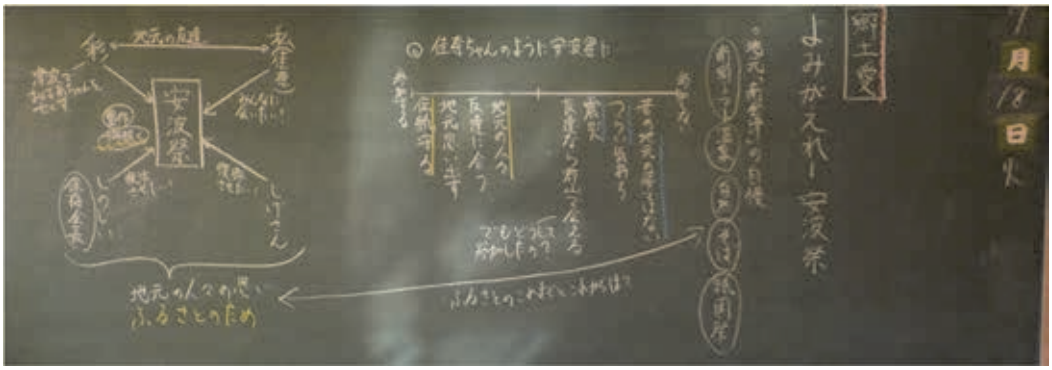
小学校の段階では、高学年で、我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつことを学んできている。それを踏まえて、中学校では今の自分たちがあるのは、家族や社会に尽くした先人や高齢者などの先達によって生きていることを自覚させ、地域に住む人々とともに、地域社会をよりよいものに発展させていこうとする自覚ももたせたい。教材の主人公の気持ちに寄り添うとともに、そこから自分たちのこととして捉えるために、福島で生きていくことについて考えさせたい。

その際、東日本大震災にも触れ、福島の過去を知るとともに、福島に生きる生徒としてこれからどうあるべきかを意識させて指導にあたる。

４　本時のねらい

郷土に元気と笑顔を取り戻したいと願う人たちの思いについて考えることを通して、郷土のために自分が今できることに向き合い、力を尽くしていこうとする態度を育てる。

５　板書計画（実際の板書）



６　学習過程

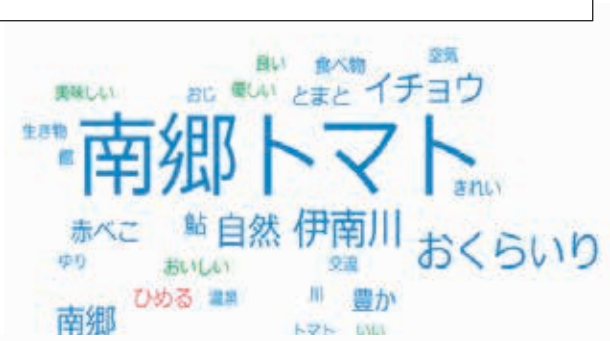
学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価
1　ふるさと「南会津」の自慢できるものを考え、主題への見通しをもつ。 ・トマトがおいしい。 ・温泉がたくさんある。 ・自然が豊かである。	5	○事前アンケートの結果を提示し、「みんなは町の自慢できるものとどのように関わっているか」を問い、本時の問題意識を高める。
2　資料を読んで話し合う。 （1）登場人物を整理する。 （2）震災当時の福島の状況を理解した上で自分が佳奈だったらどうするかを考える。 ◎自分だったら、佳奈ちゃんのように安波祭の田植え踊りに参加しますか。 ・生まれた町のことを忘れないために参加する。 ・千年以上続くまつりを絶やすわけにはいかない。 ・震災を思い出すから参加しない。 3　自分の生まれた地域について考える。 （1）南会津町の現状を知る。 （2）ふるさと「南会津」について考える。 ・高齢者から南会津町についてさらに学び、今の小学生に魅力を発信する。 ・今まで消極的だった地域行事にこれからは積極的に参加する。	35	○資料は事前に読ませておく。 ○教材に登場する人物や祭りについて整理させる。 ○東日本大震災の映像を見せ、当時の状況を具体的に連想することができるようにする。 ○震災により避難している状況だということを理解させた上で、「そんな中で自分だったら祭りに参加するか」と問いかけることで、自分事として切実感をもって考えることができるようにする。 ○「郷土のために参加する」などの意見が中心に表出される場合には、震災当時の資料を提示することで、参加しない側の気持ちについても考えることができるようにする。 ○復興が進んでいる反面、風評被害などについて考えることができるようにする。 ○Dボードに記入させ、黒板に貼ったり、キーワードを取り上げたりすることで、全体で共有し、議論を深めることができるようにする。
4　本時の学びを振り返る。 （1）教師の説話を聞く。 （2）振り返りシートに本時の振り返りを記入する。	10	※ふるさと「南会津」と自分との関係に向き合い、南会津のために何ができるか考え、力を尽くしていこうとしているか。 （発言・ワークシート・振り返りシート）

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「自己を見つめるために」

○　導入時に、南会津町の自慢できるものについてのアンケート調査結果を紹介し、本時の価値項目を示したことで、議論の中身もぶれることなく郷土愛について徹底して議論することができた。



○　震災当時の状況を具体的に映像で提示した後に中心発問を行ったことで、教材に登場する主人公に自分を投影させ、考える必然性、切実感をもって考えることができた。浜通りから一番遠い場所にいる生徒たちが、自分だったらどのように行動するかを本気で考えることができる教材となった。

○　１年生では、考えることはできるが、自分の考えを相手に伝えるだけにとどまってしまい、話合いまで発展していくことができない生徒も多く見られる。
　そのため、Ｄボードを活用し、考えや意見を記録させ、可視化することで、生徒が自分と他者の考えの違いに気づき、多面的・多角的に捉えさせることができた。

●　展開部の後半で、ふるさと「南会津」について考えさせる際、これからどうしていくかを述べるにとどまった生徒もいた。決意表明をさせるということがねらいではないため、そのような意欲が自然と湧き出るようなコーディネートを工夫する必要があった。

（２）「深い学びを実現するために」

○　終末の振り返りの場面で、南会津町のこれからについて書いた自分の考えと、事前アンケートの結果を比べさせることで、改めて考えを見つめ直し、道徳的価値の理解をさらに深めている生徒の記述や姿が見られた。

●　話合い活動を行う際、とことん議論させる時間と書く活動の時間を明確に位置付けることで、より深い話合い活動にすることができた。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　振り返りシートに記入する時間を十分に設けたことで、授業の感想で終わらせることなく、登場人物の立場や他者の考えや意見を踏まえて、南会津町について自分の考えを深めることができた。

原町第一中学校第３学年３組　道徳科学習指導の実際と考察

日　時：令和５年１０月４日（水）第５校時
授業者：南相馬市立原町第一中学校　教諭　新井　雄輔

授業テーマ	周囲の人々との触れ合いによる「僕」の気持ちについて話し合うことを通して、他人の思いやりを大切にしようとする意欲を育むことができる授業

１　主題名　他人の思いやりを受け止めるために　Ｂ―（６）思いやり、感謝

２　教材名　手渡されたパン（出典：「ふくしま道徳教育資料集［補訂版］　第Ⅱ集）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

中学校の段階では、単に思いやりや感謝が大切であることだけではなく、相手の立場や気持ちに対する配慮、そして、感謝の対象の広がりについても理解を深めていくことが大切である。人間的な交わりの場が急速に少なくなりつつある社会環境と合わせて、温かい人間愛に恵まれないと感じて、人はとかく利己的、自己中心的になりやすく、他を省みない行動に走る場合がある。自分も他者も、共にかけがえのない存在であることを自覚し、思いやりや感謝の気持ちを素直に伝えあうことが、自他の心の絆をより強くするということに気付くことができるようにしたい。

（２）　生徒の実態について（生徒観）

９月中旬に介護老人施設や保育園で福祉体験を行い、他者から感謝をされることや思いやりをもって行動する大切さを経験している。一方で、他者への思いやりが足りない言動が見られたり、「やってもらって当たり前」と考えていたりする生徒がいる。周囲への思いやりの気持ちをもって生活することへの考えを深めていくことが必要であると考える。

（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、震災後、家族とともに茨城のおばさんの家に避難した中学一年生の「僕」の心情の変化を捉えた作品である。「僕」は余震と放射線による不安からやり場のない怒りで、家族や避難先のたまみおばさんに対しても感謝を伝えることができなかった。しかし、公園で見ず知らずのお婆さんと出会い、パンをもらうやさしさに触れ、恩に対し感謝の気持ちを思い出す。お婆さんと触れ合う前後の「僕」の心情の変化の理由を考えることで、他人への思いやりや感謝を考えることができる教材である。導入では、事前に調査していた「ありがとうと言えなかった経験」を全体で共有し、他人の思いやりを受け入れることができなかった心情を考え、教材を身近なものとして捉えられるようにする。展開では、「僕」のいらいらの原因やお婆さんとの触れ合いによる「僕」の心情の変化を全体で考えることを通して他者の思いやりは、受け手側の心情が重要になることを気付くことができるようにしたい。また、学校行事の福祉体験で「感謝をされた経験」について全体で振り返り「他人の思いやり」を大切にする気持ちをもって生活しようとする意欲を育んでいきたい。

４　本時のねらい

周囲の人々との触れ合いによる「僕」の気持ちについて話し合うことを通して、他人の思いやりを大切にしようとする意欲を育む。

５　実際の板書

6　学習過程

学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される生徒の反応）	時間	○　指導上の留意点　※　評価
1　「他人の思いやり」について振り返り、本時のテーマを把握する。 ○　他人の行動に対して「ありがとう」を伝えられなかったことはありますか。 ・　忙しくてできなかった。 ・　いらいらしていたからできなかった。	5	○　感謝することは大切なことと理解しているが、できないこともあったことを振り返ることで、この後の学習活動への見通しをもつことができるようにする。
2　「手渡されたパン」を読んで主人公の気持ちを話し合う。 （1）　外へ出た場面における「僕」の気持ちを話し合う。 ○　「僕」は何にむしゃくしゃしていたのだろうか。 ・　親が理解してくれないこと ・　環境の変化 ・　ストレス ・　好きなことができないこと	15	○　ワークシートを提示し、発問に対する自分の考えを書く時間を設けることで、一人一人が考えを明確にして話合いに参加することができるようにする。 ○　「僕」のいら立ちの原因を考える発問をすることで、「僕」の心情に触れることができるようにするとともに、震災直後の当時の苦労や葛藤等にも思いをはせることができるようにする。
（2）　おばあさんの優しさに触れた後の、「僕」の気持ちを話し合う。 ○　おばあさんからパンをもらって声をかけられたとき、「僕」はどんなことに気付いたのだろう。 ・　「僕」の心の弱さ ・　自分の世界に入っていた ・　他人が心配してくれたこと	15	○　公園のおばあさんの優しさに触れた後の、「僕」の気持ちについて問うことで、「僕」の気持ちの変容に気付くことができるようにする。
3　思いやり・感謝について考え、話し合う。 ◎　他人の思いやりを大切にするために、必要なことはなんだろう。 ・　相手の立場に立つこと ・　心に余裕をもつこと	10	○　学校行事で行った福祉体験での振り返りを提示することで、自分にも同じような経験があったことや、その時の気持ちを想起することができるようにする。
4　本時の学習を振り返る。 ・　他者の思いやりへ感謝の気持ちを伝えた経験や、伝えられなかった経験 ・　他者の思いやりのありがたさ等	5	○　自分のこれまでを振り返ったり、これからの生活で大切にしたい気持ちは何かを書いたりしている生徒の思いを全体で共有し、人間としての生き方について考えを深めることができるようにする。 ※　思いやり・感謝について自分の考えと友だちの考えとを比べて考えているか。（ワークシート・発言）

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「自己を見つめ、考えを深めることができる発問の吟味」について

○　授業の導入時に、テーマを提示することで、生徒の作品を読む際の視点を明確にすることができた。

○　登場人物の気持ちの変化を捉えることができるように発問を工夫したことで、生徒は登場人物の行動の裏にある自己中心的な考えを捉えることができた。

●　本時のねらいに十分迫ることができずにいる生徒の姿が見られたことから、導入と中心発問との関わりを明瞭にしたい。

（２）「多面的・多角的に考えることができる学習活動の工夫」について

○　「今言ったことは皆さんには伝わったかな」のように生徒の発言の思い等を全体に問いかけたことで、生徒全員に発言の思いが共有され、多面的・多角的に考えることができた。

○　学校行事の福祉体験を振り返ることで、一人一人の感じたことや考えたことが多様に表出され、本時の道徳的価値について多面的・多角的に考えることができた。

●　生徒が実際に体験したことと、本時の学習内容とがつながるような教師の働きかけを工夫していきたい。

〈友だちと進んで話し合う生徒たち〉

（３）「人間としての生き方について考えを深めることができる振り返りの工夫」について

○　振り返りの時間を十分に確保することで、普段から他人の思いやりを大切に受け止めることができていなかったことや伝えられていなかったことに気付く生徒の様子が見られた。

［授業の終末の振り返りより（一部抜粋）］
- 今までは思いやりをもつことで互いがよい気持ちになれるという考えでしたが、人のモヤモヤした気持ちも解消できるというよさもあるのだなと思いました。
- 感謝することは意外と大変だと思った。
- どんなときでもお礼を言えるようにしたいです。

●　どの学習場面においても自分の考えをもっている生徒の姿が見られたので、生徒の考えを生かしながら授業を行っていきたい。

一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

○　授業参観シートを作成し、授業を見る視点を「道徳的価値を自己との関わりで捉えることができたか」「物事を多面的・多角的に考えることができたか」の二点に絞ることで協議内容を明確にすることができた。

○　生徒の振り返りに対しては、生徒の実践意欲につながるようなコメントを心がけた。

●　一人一人を受け止めて認め励ます評価につながるよう生徒の振り返りに対してどのような言葉をかけていくか、これからも考えていきたい。

●　どのような視点で振り返ることが本時のねらいに迫ることができるか、今後も考えていきたい。

赤井中学校第２学年　道徳科学習指導案

日　時：令和５年９月４日（月）第５校時
授業者：いわき市立赤井中学校　教諭　鈴木和美（T1）
教諭　遠藤高司（T2）
講師　大平康太（T3）

授業テーマ	話し合い活動を通して自己の生活を振り返り、目標実現のために強い気持ちで努力する心を育む授業

１　主題名　困難や失敗を乗り越えて　Ａ―（４）希望と勇気、克己と強い意志

２　教材名　「紫紺の襷」（出典：福島県教育委員会　「ふくしま道徳教育資料集」）

３　主題設定の理由

（１）　ねらいとする道徳的価値について（価値観）

人間としてよりよく生きるには、目標や希望をもつことが大切である。日常生活の中の小さな目標であっても、それが達成されたときには満足感を覚え、自信と次に向けて挑戦しようとする勇気が起こる。この経験が自己の内面に秘めた可能性を伸ばし、人生を切り拓いていく原動力となる。このことを理解し本校の研究主題である「自己を振り返り、自己の生き方・考え方を深く考えることができる生徒の育成」の具現化につなげていく。

（２）　生徒の実態（子ども観）

本校は、一つの小学校からそのまま中学校に入学して３年間を過ごすため、人間関係がほぼ変わらない同じ環境で生活する。そのため中学校入学後も互いに競争意識をもつこともなく穏やかに生活している状況である。学級内の友達関係も非常に仲がよく、協力し合う様子も見られるが、学習や運動面において一人一人が高い目標をもって互いに切磋琢磨し合うことは少ない。日々漫然と過ごしているので、今後受験に向けた進路決定の場面や進学後のさまざまな困難の中で、挫折していくことも考えられる。そこで、自分の人生の目標を実現するために、強い意志で困難を乗り越えることがよりよい人生を歩むためには必要であることを考えさせることが大切であると思われる。

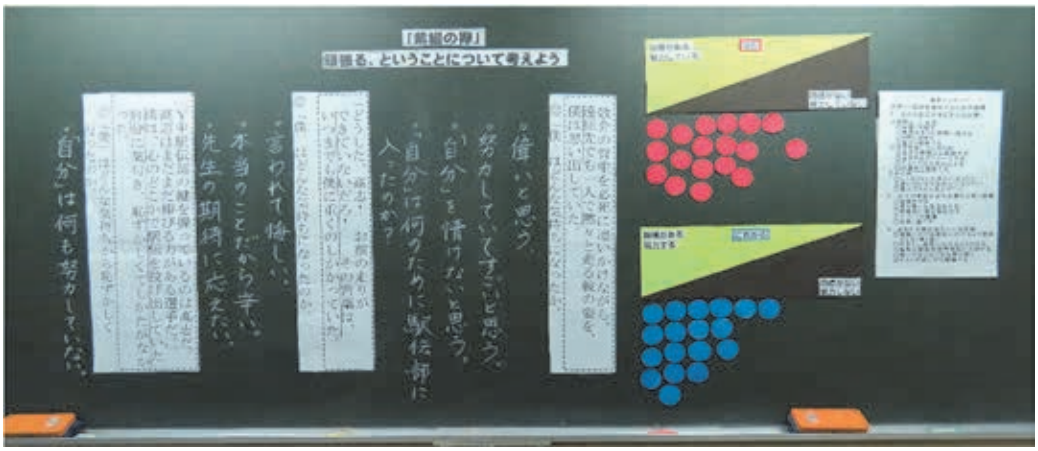
（３）　教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、中学２年生の主人公が学習や部活動でも結果が出せず、誘われた駅伝での練習にも漫然と目標もなく参加している。その中で、顧問の先生の思いや友達が努力している様子を感じ、心を入れ替え挑戦する姿が描かれている。指導に当たっては、何かを言い訳して努力を怠っている主人公の判断や心情を類推し、登場人物に自我関与することで道徳的価値を自分との関わりで考えさせたい。そして、日々の生活のなかで自分の目標をもつことの大切さや、目標を実現するための計画や強い意志をもつことに気付くよう授業を進めていきたい。

４　本時のねらい

登場人物の心情を自分事として捉え、目標をもつことの大切さに気づき、困難や失敗を乗り越えて目標を実現しようとする態度を育てる。

５　実際の板書



６　学習過程

学習活動・内容 （◎中心発問　・予想される児童の反応）	時間	○　指導上の留意点 ※　評価
１　目標について考える。 ・日々の生活で、自分やクラスの代表的な目標を確認する。 ２　自分の目標をワークシートに記入し、振り返る。 ・目標は何か。 ・目標に対する意識をポジショニングに表示する。 「頑張る」ということについて考えよう。	５	○事前にとったアンケートを示すことで、本時の価値について考えていくことを確認できるようにする。 ○ポジショニングによって目標に対する全体の意識を共有することで、皆で話しやすい雰囲気を醸成する。 ○Ｔ２の教師は、個別に支援が必要な生徒のサポートなど、生徒の活動を支援する。
３　教材を読み、登場人物の気持ちの変化を考える。 (1)作品の朗読（範読）を聞く。 (2)登場人物の気持ちを考える。 ○「敬介」が、遠征中一人黙々走る様子を思い出し、「僕」はどのような気持ちになったか。 ・頑張って練習しているな。 ・自分は何の努力もしていないな。 ○「原田先生」の「お前の走りができていないだろ！」という言葉に、「僕」はどんな気持ちになったのか。 ・記録が伸びていないな。 ◎「僕」が「自分」に恥ずかしくなったのは、どんな気持ちからか。 ・自分は何も努力していない。	10 ５ 10 10	○範読前に作品のポイントとなる言葉を提示し、概要を捉えやすくする。 ○「僕」と「敬介」を比較して考えるよう促すことで、主人公のもつ弱さに自分の経験を重ねて考えられるようにする。 ○「僕」の気持ちを想像して吹き出しに書き、小グループでワークシート上に出し合うことで、互いの考えが可視化できるようにする。 ○小グループの話合いでは、吹き出しに書いたことばの理由や詳細を聞き合うように促し、一人一人が考えをより深められるようにする。 ○考えが浮かばない生徒には、自我関与して考えられるよう、登場人物と似た経験がないか個別に助言する。 ※目標をもつことの大切さや気持ちを持続することの難しさを、自分の生活や将来に即して考えようとしているか。 （ワークシート・発言）
４「頑張る」ということについて気付いたことを書く。 ５　ポジショニングで、自分の目標の意識を表示する。 ６　教師の説話（Ｔ３）を聞く。	10	○授業の始めに提示したことを改めて問いかけ、始めと比較するよう促すことで、意識の変容や新たな気づきがあったか振り返られるようにする。 ○実際に駅伝で大会出場経験のある身近な教師が話すことで、より生徒が価値に対する考えを深められるようにする。 ○説話を聞くことで、困難を乗り越え、目標を実現しようとする気持ちを持つことの大切さに気付くことができるようにする。

7　考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

（１）「一人一人の考えを受け止めて認め、励ます工夫」について

○　班活動を効果的に行うために、発問に対する自分の考えをワークシートにまとめてから互いの意見を共有し合ったことで、各班の発表がスムーズに行われた。

●　話し合いの時間を十分に確保すれば、各個人の考えを深めることはできるが、その分他の活動時間が短くなる。題材に合わせて、日常生活の中で向き合う様々な困難を思い起こし、登場人物の姿と自分を重ねて自分自身について考える時間の確保については、今後も検討していきたい。

（２）「主題や教材に対して、生徒が自分事として考えるための工夫」について

○　「人間としてよりよく生きるために、目標や希望をもつことの大切さ」について気付かせるために事前にアンケートを実施し、その結果を電子黒板で提示した。その際、本時の課題を自分事として捉え考えさせるために、日常生活には小さな目標がたくさんあることや、目標や希望がない生活について話し合わせることで本時の授業につなげた。

○　ポジショニングの活用によって、目標に対する考えについて授業の最初と最後の変容を確認し、今後の生活をどのように考えて過ごしていけばよいか本時の価値項目につなげて考えることができた。

○　Ｔ２は、授業の活動が進まない生徒に対し、個別に関わり丁寧に説明しながら支援した。それによって、生徒は、問いに対する捉え方や考え方の解釈の仕方を理解でき、自分の考えを表すことができた。

○　Ｔ３には、終末にゲストティーチャーとして参加してもらい、体験談を聞く場を設定した。身近な教師の説話を聞くことで、生徒がより自分に近いこととして主題について考えるきっかけになった。

●　価値に迫る場面では、それを自分事として考える発問につないでいくことが難しかった。二人の登場人物を比較する中で、人が本質的に持っている弱さに向き合い、それを自分事として考え自己を見つめさせるために、発問の仕方を変えていく必要があった。主人公の立場に立って第三者的に考えさせるのではなく、発問を「あなたなら駅伝にどう関わっていきたいですか」とすることで、自我関与の意識を高めることができたと思う。

●　発問に対して返ってきた発言について、「なぜそう思ったのかな？」や「今のことってどういうことかな？」などの問い返しを十分できずに終わってしまった。問い返しを行うことで、さらに自分事として捉え、価値に対する考えをより深めていくようにする必要があった。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○　生徒が価値について考え、ワークシートに書く時間を多く確保することで、自身の直接的・間接的な経験を想起しながらじっくりと考えることができた。

●　道徳の授業では、発達段階的に、生徒は模範的な意見を出すことにとどまりがちである。今後、「自分だったらどうするか」や「なぜそう思うのか」など、教材への自我関与を促す問いや揺さぶりの発問などによって、授業の進め方を改善し、生徒の内面を掘り下げ、価値観の深化につながっていくように実践していきたい。

【Q&A】

道徳科の教育課程Q＆A

学習指導要領Ｑ＆Ａ［特別の教科　道徳］（小・中）

１　なぜ、「特別の教科」なのですか。今回の教科化で、今までと変わること、変わらないことを教えてほしい。

「特別の教科　道徳」（以下　道徳科とする）については、小学校では平成３０年度から、中学校では平成３１年度から他教科に先駆けて先行実施された。教科化に際して、「学級担任が担当することが望ましいと考えられること」「数値による評価はなじまないと考えられること」など、各教科にない側面があるため、「特別の教科」という枠組みが設けられた。

また、今回の改訂では、「いじめの問題」等、現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力を育成する役割が強く求められており、改訂の要点として次の５点が挙げられる。

（１）目標の明確化
⇒教科の特質と学習活動の明示「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、自己（人間）の生き方についての考えを深める学習を通して」

（２）体系性を高め指導の効果を上げるための内容の改善
⇒「それぞれの内容を端的に表す言葉を付記」や「内容項目についての整理」等

（３）　多様な指導方法の工夫
⇒「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の例示

（４）　魅力的な教材の開発や活用の工夫
⇒地域教材の積極的な開発と活用

（５）　評価
⇒数値による評価は引き続き行わないこととし、児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様子を継続的に把握

なお、これまでの「道徳の時間」と同様に、学校の教育活動全体で行う道徳教育の「要」としての役割を果たすことは今までと何ら変わらない。

２　道徳教育の全体計画等の作成に当たって、どんなことに配慮すべきか。

以下のポイントについて、学校としての計画（ロードマップ）を明確に描くことができるのか、円滑な実施に向けた、今後の大きなポイントとなる。

□　「重点目標」「指導の重点化」（重点とする内容項目の設定）を校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、全職員が共有しながら作成しているか。また、全体計画の項目は、総則等に照らして適切か。

□　「学校のいじめ防止基本方針」や「各種教育の目標や全体計画」等と道徳教育との関連性や整合性が図られているか。

□　別葉をどのような形式でどのような計画でつくり、いかに実効性のある計画にしていくか。

□　評価をいつ、どのような体制で実施していくのか、保護者等にどのタイミングで周知していくか。

３　道徳科の授業を原則的に担任が行うのはなぜか。担任が授業を行う際、配慮すべきことはあるか。

道徳科の授業を原則的に担任が行う理由としては、「学級担任が児童生徒の実態に精通していること、時間的にも触れ合う機会が多く、継続的に道徳性の成長を見ることができること」が挙げられる。しかしながら、あくまでも「原則」であり、担任一人が全てを担うことを意味する訳ではない。

例えば、校長や教頭が参加する授業を行うことはもちろん、教員同士が互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組んで、子どもについて情報交換したり、評価の視点や方法等について、学年内、学校内で共通認識をもったりすることが効果的である。

つまりは、学級担任授業を行うことを原則としながら、学校、学年としての組織的に対応することが大切である。

４　教科用図書の教材と従来活用していた「副読本」の資料の違いは何か。教科用図書が導入されたことで、どのような点に留意すべきか。

学校教育法３４条には、「小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならない。」（中学校にも準用）さらに、教科書の発行に関する臨時措置法第２条には、「教科書」とは、‥学校において、教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材‥」とされ、「主たる教材」としての使用義務が明記されており、この点において、「教科書に準じて作られている補助的な図書」としての「副読本」と大きな違いがある。

検定教科書の導入により、年間指導計画の作成等の教育課程編成作業においては、教科書中のどの教材をどの時期に配列するか等について、各教科等の学習内容や体験活動等との関連を踏まえながら、しっかりと精査する視点がより重要となる。

５　道徳科の年間指導計画を作成するにあたり、ふくしま道徳資料集や市町村発行の資料集掲載の教材等を、教科書中の教材に代わって位置付けることは可能か。可能であるとすれば、その位置付けにあたって、どのような配慮が必要か。

「小（中）学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編　第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第４節　道徳科の教材に求められる内容の観点」には、「‥道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。‥地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい」と記述され、地域教材を意図的・計画的・組織的に開発し、活用することが望ましいとされている。

このことにより、「ふくしま道徳教育資料集」（県教委発行）及び「市町村発行の道徳教育資料集」等を、年間指導計画に「副教材」として積極的に位置付けることは、道徳科の趣旨と内容の実現に向けて非常に有効である。

なお、地域教材の開発にあっては、教材の具備すべき条件を備えているか精査するとともに、年間指導計画への位置付けに際しては、「教科書教材」に加えて「副教材」として併記し、その対応を明らかにすることが望ましい。

加えて、自校及び学年の重点とする内容・項目に照らして、教科書中の教材数が不足している場合、「私たちの道徳ＷＥＢ版（文部科学省）」「小（中）学校道徳読み物資料集（文部科学省）」「ふくしま道徳教育資料集」等を主教材として位置付けることが可能である旨を付記しておく。

６　学校で決めた道徳教育の重点内容項目に対して、教科書教材が一部不足してしまうような場合、どのような対応が考えられるか。

各学校の道徳教育の重点内容・項目は、校長の指導の下、全職員が共通理解して設定した、とりわけ重要な内容の一つであることは言うまでもない。万が一、教科書教材数に合わせて、各学校の重点内容項目が設定されるということになれば、児童生徒の実態、地域や保護者、教師の願いが道徳教育に位置付けられないということになってしまう。そこで、このような場合は「ふくしま道徳教育資料集（県教委）」「小（中）学校道徳読み物資料集（文科省）」「私たちの道徳（ＷＥＢ版）」等を主たる教材として位置付ける対応が考えられる。その際は、特記事項等にその旨を明記し、次年度以降の教育課程編成の参考となるように配慮してほしい。

７　自作教材は、今後活用することができなくなるのか。

自作教材の作成と活用については、授業者単独の判断であったり、その場限りの活用となったりしないことが大切である。そのためには、「小（中）学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　第２節 内容項目の指導の観点」に照らして、児童生徒の発達の段階や特性に見合っているか、さらに「同第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第４節　道徳科の教材に求められる内容の観点」に沿っているかを踏まえて、教材の具備すべき条件を備えているか事前に精査し、その使用が適切かどうか、校長の指導の下、学年や学校で共通認識をもって確認する手続きが必要となる。

８　「考え、議論する道徳」に代わって、「問題解決的な学習」や「道徳的行為に関する体験的な学習」などの質の高い多様な指導方法を耳にするようになった。両者は、どのようにつながっているのか。これから求められる多様な指導方法について教えてほしい。

「『特別の教科　道徳』の指導方法と評価について（報告）平成２８年７月２２日　道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」においては、これから求められる質の高い多様な指導方法の例示として、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の３つが示された。これらは「考え、議論する道徳」をより具体化したものであると考えられ、それぞれが独立した指導の「型」を示しているのではなく、それぞれの要素を組み合わせた指導も考えられるとされている。今後は、各学校において、これら３つの指導方法を目安とした指導方法の開発と研究が推進されることを期待したい。

９　複式学級における道徳科の授業をどうつくればよいか分からない。どのように計画を立案すればよいのか教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領「第３章　特別の教科　道徳　第３　指導計画の作成と内容の取扱い」では、「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げることとする。」とされており、該当する学年の全ての内容項目を取り扱うことが教育課程編成上必須の要件となる。

さらに、小学校学習指導要領解説「特別の教科　道徳編　第３章　道徳科の内容　第１節　内容構成の考え方（３）」には、「～特に必要な場合は、他の学年の内容項目の指導を加えることはできる」とされており、いわゆる飛び複式学級や変則複式学級の指導にお

いて、該当学年において取り扱わない内容項目を加えて指導できる旨が明記されている。
これらを踏まえると、「特別の教科　道徳」の複式学級における教育課程編成に際しては、次の３例が想定される。

Ａ　学年別の学習とし、それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習（「直接指導」と「間接指導」の組み合わせによる指導。通常の教科書給与による）
Ｂ　２年間分をそれぞれ第１年次（Ａ年度）と第２年次（Ｂ年度）別に平均に配当し、両学年が同目標内容で学習（該当する両学年の教科書の同時（一括）給与）
Ｃ　２年間分の学習内容について、Ａ年度は〇学年の教材を主に、Ｂ年度は●学年の教材を主に配当し、両学年が同目標内容で学習（Ａ年度は〇学年の教科書給与、Ｂ年度は●学年の教科書給与）

いずれの例においても、メリットとデメリットがあり、どのような教育課程を編成するかは、自校及び児童生徒の実態をどうとらえて、学校として最も適切な教育課程を編成するかが問われるところである。
なお、いずれの例においても、今後の学級編成の推移を想定したり、教科書給与上の事務手続きを適切に行ったりするなど、学校全体として見通しをもった対応が求められる。
さらに、市町村の様々な事情により、ケースが限られる場合もあるので、各市町村教育委員会に確認願いたい。

10　複式学級の教育課程編成を行うにあたり、通常の学年通りの教科書の一括給与を行い、学年別の指導（それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習）を行うための道徳科の年間指導計画を作成する際、何か配慮・工夫する点はあるか。

例えば、同じ内容項目を同時期・同時間に配当することにより、学年別と学級全体の学習形態を組み合わせて弾力的な学習指導を実施することなどが考えられる。具体的には、次の例の通りである。
（例）３・４学年（複式学級）において、５月第２週の同時間に、いずれの学年も同じ内容項目（親切・思いやり）を扱い、共通のねらいを設定した年間指導計画を構想
□　導入は両学年合同の活動とし、ねらいとする内容・項目（親切・思いやり）についての方向付けを図る。
□　展開前段の活動は各学年別で行い、各学年別の教材を活用して、「親切・思いやり」を追求する。その際は、直接指導と間接指導を組み合わせて実施したり、管理職を含めた教師の協力的な指導を行ったりしながら、各学年の児童の実態に合った展開を工夫する。
□　展開後段（自己を見つめる時間）と終末は、両学年合同に戻し、展開前段で話し合った「親切・思いやり」について紹介し合ったり、「親切・思いやり」にかかわって自分の生活を見つめ直したりする。
この例は、あくまでも学校の創意工夫の一つでしかない。校長の指導の下、各学校の実態に応じたカリキュラムを全職員の共通理解の基に計画し、実践していくことが大切である。
なお、教材に描かれた特性（季節や行事等）により、同じ内容項目であってもどうしても同時期・同時間で組み合わせることのできない内容もあると考える。その場合、例えば、学校や学級で重点的に扱う内容・項目等についてのみ同時期・同時間で扱うなど、自校の共通方針に基づいて、柔軟に年間指導計画を作成することが大切である。

11　特別支援学校おける道徳科の授業の位置付けは、教科化される前と変わるか。
**　また、道徳教育の全体計画や指導計画を作成する上で、どのような点に留意すべきか。**
**　さらに、小・中学校の特別支援学級では、どのような点に留意すべきか。**

特別支援学校においても、道徳科の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いは、小学校又は中学校に準ずることとなっている。準ずるということは、同一ということを意味しているため、小学校及び中学校学習指導要領に示されているとおり取り扱わなければならない。しかし、知的障がい特別支援学校においては、各教科等の一部又は全部を合わせて指導を行える規定（学校教育法施行規則第１３０条第２項）があることから、この規定により各教科等を合わせた指導の中で適切に扱う場合もあるため、取扱いについては自校の教育課程によるとされている。

特別支援学校学習指導要領第５章　特別の教科　道徳には、指導計画の作成や内容の取扱いについて、３つの配慮事項が示されていることから、それらを十分に配慮する必要がある。

また、特別支援学級においても、小・中学校に設置されている学級であることから小学校及び中学校学習指導指導要領を踏まえる必要がある。しかし、知的障がい特別支援学級において特別支援学校の学習指導要領を参考としている場合は、上記と同様である。

12　「大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること」とあるが、具体的に教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領解説「第５章　第２節　道徳科における児童（生徒）の学習状況及び成長の様子について」の「道徳科に関する評価の基本的な考え方」には、「道徳科の学習状況の評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。」とされている。指導要録の記入上の大くくりなまとまりは、一年間を指すが、児童生徒を受け止めて認め、励ます評価を、どの時期にどう実施し、児童生徒や保護者に還元していくか、、各学校で設定する必要がある。保護者に還元していく方法が、通知表へ記述する、面談でお知らせするなど、どのように実施するかについては、各学校の判断に委ねられる。いずれの場合も、市町村教育委員会の指導助言の基、進めていくことが大切である。

13　評価にかかわって、「個々の内容項目ごとではなく」とは、どうとらえればよいのか、教えてほしい。

一つ一つの内容項目ごと（授業ごと）に、「ＡＢＣ」や「数値」等による評価をしないことを意味する。「内容項目について記述してはいけない」ということではなく、各学校が設定した大くくりなまとまりの期間で、児童生徒がいかに成長したかという点からの個人内評価として実施し、把握した学習状況や道徳性の成長に係る様子の中で特に顕著なものを評価することから、児童生徒の成長を特に表す内容項目にふれることは　何ら問題はない。当然ながら、児童生徒や保護者に評価を還元することにより、児童生徒を積極的に認め励ましたり、その後の指導に生かしたりする役割があることも言うまでもない。

14　道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を評価の観点とすることはなぜ適当ではないのか。また、個人内評価であっても、何らかの観点がないと、評価ができないのではないか。

「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」はそれぞれ独立したものではなく、相互に関係し合っており、切り分けられないものであることから、これらを資質・能力の３つの柱にそれぞれ分けて位置付けることはできないものと考えられる。

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目的とする道徳科の評価としては、観点別に分析的に評価する（観点ごとにＡＢＣを付ける）ことは適当ではないと考えられる。

一方で、評価を行い、指導の改善等につなげるためには、授業の中でどのような児童生徒の姿に着目するかという、視点をもつことが大切であると考えられる。小（中）学習指導要領解説編では、学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、

○　一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

○　道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

といった２点を重視して評価を実施することが大切である。

15　道徳科の授業で行われる評価を、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の評価と関連させ、よく行動できている点について積極的に評価したいと考えているが大丈夫か。道徳科の評価について教えてほしい。

学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」の要素となる。

道徳科における評価は、道徳科の授業を行った結果として見られた「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」を見るものであるため、授業の中で見られた発言や記述などを基に評価を行うことになる。

道徳科の評価を行う基本的な方向性として、次の５点を確認しておきたい。

（１）　数値による評価ではなく、記述式とすること。

（２）　個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること。

（３）　他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価とすること。

（４）　学習活動において、児童生徒が多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかといった点を重視すること

（５）　調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要があること。

16　道徳科の教育課程編成上、「これだけは　…」というポイントがあれば、教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領（平成２９年３月）・第３章特別の教科道徳・第３指導計画の作成と内容の取扱いの１には、「…第２に示す（各学年段階の）内容項目について、相当する学年（各学年）において全て取り上げることとする」とされている。小学校低学年１９項目・中学年２０項目、高学年２２項目、中学校２２項目の内容項目を全て取り上げることは必須要件となるので、各学年の年間指導計画を必ず確認してほしい。

17　教科化に際して、教職員の研修を充実させたいと考えているが、参考になるホームページや資料等を教えてほしい。

以下の報告書や動画等について、校内研修、教育課程編成等の参考にしていただきたい。

〔学習指導要領等〕

○　小（中）学校学習指導要領　平成２９年３月３１日　文部科学省（文部科学省ＨＰ）

○　小（中）学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　平成２９年７月文部科学省（文部科学省ＨＰ）

〔通知等〕

○　学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（２８教義第８４６号　平成２８年８月１０日付）

〔報告書・広報誌等〕

○　「特別の教科　道徳」の指導方法・評価等について（報告）平成２８年７月２２日　道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（文部科学省ＨＰ）

○　福島県道徳教育推進報告書（福島県教育庁義務教育課ＨＰ）

○　道徳のとびら（福島県教育庁義務教育課ＨＰ）

○　道徳のかけ橋（福島県教育庁義務教育課ＨＰ）

○　道徳の礎（福島県教育庁義務教育課ＨＰ）

〔動画等〕

○　道徳教育アーカイブ（https://doutoku.mext.go.jp）

○　校内研修シリーズ「道徳教育」（独立行政法人教職員支援機構ＨＰ）

令和６年３月１８日　印刷
令和６年３月２２日　発行
福島県教育委員会

ふくしま道徳教育資料集三部作

第Ⅰ集　生きぬく・いのち
第Ⅱ集　敬愛・つながる思い
第Ⅲ集　郷土愛・ふくしまの未来へ

【小学校版】　【中学校版】　【高等学校版】

道徳教育リーフレット「道徳のとびら」

「モラル・エッセイ」コンテスト 優秀作品集

福島県教育委員会

この冊子の電子版が、下記のＱＲコード・
ＵＲＬよりダウンロードできます

https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/gimukyoiku57.html#ishizue

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。